

イザヤ書

第一章 アモツの子イザヤがユダの王ウジヤ、

ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの世にユダとエルサレムについて見た幻。

二 天よ、聞け、地よ、耳を傾けよ、
主が次のように語られたから、
「わたしは子を養い育てた、

しかし彼らはわたしにそむいた。
三 牛はその飼主を知り、
ろばはその主人のまぐさおけを知る。

しかしイスラエルは知らず、
わが民は悟らない。
四 ああ、罪深い国びと、不義を負う民、
悪をなす者のすえ、墮落せる子らよ。

彼らは主を捨て、
イスラエルの聖者をあなどり、
これをうとんじ遠ざかった。

五 あなたがたは、どうして重ね重ねそむいて、
なおも打たれようとするのか。
その頭はことごとく病み、
その心は全く弱りはてている。

六 足のうらから頭まで、
完全なところがなく、
傷と打ち傷と生傷ばかりだ。

これを絞り出すものなく、包むものなく、
油をもってやわらげるものもない。

七 あなたがたの国は荒れすたれ、
町々は火で焼かれ、
田畑のものはあなたがたの前で外国人に食われ、
滅ぼされたソドムのように荒れすたれた。

八 シオンの娘はぶどう畑の仮小屋のように、
きゆうり畑の番小屋のように、
包囲された町のように、ただひとり残った。

九 もし万軍の主が、
われわれに少しの生存者を残されなかったなら、
われわれはソドムのようになり、
またゴモラと同じようになつたであらう。

一〇 あなたがたソドムのつかさたちよ、
主の言葉を聞け。

あなたがたゴモラの民よ、
われわれの神の教に耳を傾けよ。

二 主は言われる、
「あなたがたがささげる多くの犠牲は、
わたしになんの益があるか。」

わたしは雄羊の燔祭と、
肥えた獣の脂肪とに飽いている。

わたしは雄牛あるいは小羊、
あるいは雄やぎの血を喜ばない。

二 あなたがたは、わたしにまみえようとして来るが、
だれが、わたしの庭を踏み荒すことを求めたか。

三 あなたがたは、もはや、
むなししい供え物を携えてきてはならない。

薫香は、わたしの忌みきらうものだ。
新月、安息日、また会衆を呼び集めること――

わたしは不義と聖会とに耐えられない。
四 あなたがたの新月と定め祭とは、

わが魂の憎むもの、
それはわたしの重荷となり、

わたしは、それを負うのに疲れた。
五 あなたがたが手を伸べるとき、

わたしは目をおおって、あなたがたを見ない。
たとい多くの祈をささげても、わたしは聞かない。

あなたがたの手は血まみれである。
六 あなたがたは身を洗って、清くなり、

わたしの目の前からあなたがたの悪い行いを除き、
悪を行うことをやめ、

七 善を行うことをならい、公平を求め、
しえたげる者を戒め、

みなしごを正しく守り、寡婦の訴えを弁護せよ。

一八 主は言われる、
さあ、われわれは互に論じよう。

たといあなたがたの罪は緋のようであっても、
雪のように白くなるのだ。

紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。
一九 もし、あなたがたが快く従うなら、

地の良き物を食べる事ができる。
二〇 しかし、あなたがたが拒みそむくならば、

つるぎで滅ぼされる。
これは主がその口で語られたことである。

三 かつては忠信であつた町、
どうして遊女となつたのか。

昔は公平で満ち、
正義がそのうちにやどっていたのに、

今は人を殺す者ばかりとなつてしまった。
三 あなたは銀はかすとなり、

あなたのぶどう酒は水をまじえ、
三 あなたのかさたちはそむいて、

盗びとの仲間となり、
盗びと、

みな、まいたい好み、贈り物を追い求め、
みなしごを正しく守らず、

寡婦の訴えは彼らに届かない。

二四 このゆえに、主、万軍の主、

イスラエルの全能者は言われる、

「ああ、わたしはわが敵にむかって憤りをもらし、わがあだにむかって恨みをはらす。

二五 わたしはまた、わが手をあなたに向け、

あなたのかすを灰汁で溶かすように溶かし去り、

あなたの混ざり物をすべて取り除く。

二六 こうして、あなたのさばきびとをもとのとおりに、

あなたの議官を初めのとおり回復する。

その後あなたは正義の都、

忠信の町となえられる」。

二七 シオンは公平をもってあがなわれ、

そのうちの悔い改める者は、

正義をもってあがなわれる。

二八 しかし、そむく者と罪びとは共に滅ぼされ、

主を捨てる者は滅びうせる。

二九 あなたがたは、みずから喜んだかしの木によって、

はばかりしめを受け、

みずから選んだ園によって、恥じ赤らむ。

三〇 あなたがたは葉の枯れるかしの木のように、

水のない園のようになり、

三一 強い者も麻くずのように、

そのわざは火花のようになり、

その二つのものは共に燃えて、それを消す者はない。

第二章 アモツの子イザヤがユダとエルサレ

ムについて示された言葉。

二 終りの日に次のことが起る。

三 主の家の山は、

もろもろの山のかしらとして堅く立ち、

もろもろの峰よりも高くそびえ、

すべて国はこれに流れてき、

三 多くの民は来て言う、

「さあ、われわれは主の山に登り、

ヤコブの神の家へ行こう。

彼はその道をわれわれに教えられる、

われわれはその道に歩もう」と。

律法はシオンから出、

主の言葉はエルサレムから出るからである。

四 彼はもろもろの国のあいだにさばきを行い、

多くの民のために仲裁に立たれる。

こうして彼らはそのつるぎを打ちかえて、すきとし、

そのやりを打ちかえて、かまとし、

国は国にむかつて、つるぎをあげず、

彼らはもはや戦いのことを学ばない。

五 ヤコブの家よ、

さあ、われわれは主の光に歩もう。

六あなたはあなたの民ヤコブの家を捨てられた。

これは彼らが東の国からの占い師をもって満たし、

ペリシテびとのように占い者となり、

外国人と同盟を結んだからである。

七彼らの国には金銀が満ち、その財宝は限らない。

また彼らの国には馬が満ち、その戦車も限らない。

八また彼らの国には偶像が満ち、

彼らはその手のわざを拝み、

その指で作ったものを拝む。

九こうして人はかがめられ、人々は低くされる。

どうか彼らをおゆるしにならぬように。

一〇あなたは岩の間にはいり、ちりの中にかくれて、

主の恐るべきみ前と、その威光の輝きとを避けよ。

二その日には目をあげて高ぶる者は低くせられ、

おごる人はかがめられ、

主のみ高くあげられる。

三これは、万軍の主の一日があつて、

すべて誇る者と高ぶる者、

すべておのれを高くする者と得意な者にと

臨むからである。

第

三

章

一見よ、主、万軍の主は

バシヤンのすべてののかしの木、

二またすべての高い山々、

すべてのそびえ立つ峰々、

三すべての高きやぐら、

すべての堅固な城壁、

四タルシシのすべての船、

すべての麗しい船舶に臨む。

五その日には高ぶる者はかがめられ、

おごる人は低くせられ、

主のみ高くあげられる。

六こうして偶像はことごとく滅びうせる。

七主が立つて地を脅かされるとき、

人々は岩のほら穴にはいり、また地の穴にはいつて、

主の恐るべきみ前と、その威光の輝きとを避ける。

八その日、人々は拝むためにみずから造った

しろがねの偶像と、こがねの偶像とを、

もぐらもちと、こうもりに投げ与え、

三岩のほら穴や、がけの裂け目にはいり、

主が立つて地を脅かされるとき、

主の恐るべきみ前と、その威光の輝きとを避ける。

三あなたは鼻から息の出入りする人に、

たよることをやめよ、

このような者はなんの価値があるうか。

エルサレムとユダから
ささえとなり、頼みとなるもの――

すべてささえとなるパン、
すべてささえとなる水――を取り去られる。

二 すなわち勇士と軍人、
裁判官と預言者、

占いの師と長老、

三 五十人の長と身分の高い人、

議官と巧みな魔術師、
老練なまじない師を取り去られる。

四 わたしはわらべを立てて彼らの君とし、
みどりごに彼らを治めさせる。

五 民は互に相しえたげ、

人はおのおのその隣をしえたげ、
若い者は老いたる者にむかつて高ぶり、

卑しい者は尊い者にむかつて高ぶる。

六 その時、人はその父の家で、兄弟をつかまえて言う、
「あなたは外套を持っている、

わたしたちのつかさびとになって、

この荒れ跡をあなたの手で治めてください」と。
七 その日、彼は声をあげて言う、

「わたしはいやす者となることはできません、

わたしの家にはパンもなく、外套ありません、

わたしを立てて、

民のつかさびとにしないでください」。

八 これは彼らの言葉と行いとが主にそむき、
その栄光の目をおかしたので、

九 エルサレムはつまずき、ユダは倒れたからである。
彼らの不公平は彼らにむかつて不利なあかしをし、

ソドムのようにその罪をあらわして隠さない。

わざわいなるかな、

彼らはみずから悪の報いを受けた。

一〇 正しい人に言え、彼らはさいわいであると。
彼らはその行いの実を食べるからである。

二 悪しき者はわざわいだ、彼は災をうける。
その手のなした事が彼に報いられるからである。

三 わが民は幼な子にしえたげられ、
女たちに治められる。

ああ、わが民よ、あなたを導く者は
かえって、あなたを迷わせ、

あなたの行くべき道を混乱させる。

一三 主は言い争うために立ちあがり、
その民をさばくために立たれる。

一四 主はその民の長老と君たちとをさばいて、
「あなたがたは、ぶどう畑を食い荒した、

貧しい者からかすめとった物は、
あなたがたの家にある。

一五 なぜ、あなたがたはわが民を踏みにしり、
貧しい者の顔をすり碎くのか」と

万軍の神、主は言われる。

一六 主は言われた、

シオンの娘らは高ぶり、

首をのばしてあるき、目でこびをおくり、

その行くとき気どって歩き、

その足でりんりと鳴り響かす。

一七 それゆえ、主はシオンの娘らの頭を

撃つて、かさぶたでおおい、

彼らの隠れた所をあらわされる。

一八 その日、主は彼らの美しい装身具と服装すなわち、

くるぶし輪、髪ひも、月形の飾り、一丸輪、腕輪、顔お

おい、二〇 頭飾り、すね飾り、飾り帯、香箱、守り袋、

三 指輪、鼻輪、三 礼服、外套、肩掛、手さげ袋、三 薄織

の上着、亜麻布の着物、帽子、被衣などを取り除かれる。

二四 芳香はかわって、悪臭となり、

帯はかわって、なわとなり、

よく編んだ髪はかわって、かぶろとなり、

はなやかな衣はかわって、荒布の衣となり、

美しい顔はかわって、焼き印された顔となる。

二五 あなたの男たちはつるぎに倒れ、

あなたの勇士たちは戦いに倒れる。

二六 シオンの門は嘆き悲しみ、

シオンは荒れすたれて、地に座する。

第四 章 「その日、七人の女がひとりの男にす

がって、「わたしたちは自分のパンをたべ、自分の着物を

着ます。ただ、あなたの名によって呼ばれることを許し

て、わたしたちの恥を取り除いてください」と言う。

二 その日、主の枝は麗しく栄え、地の産物はイスラエ

ルの生き残った者の誇り、また光栄となる。三、四 そして主

が審判の霊と滅亡の霊とをもって、シオンの娘らの汚れ

を洗い、エルサレムの血をその中から除き去られるとき、

シオンに残る者、エルサレムにとどまる者、すべてエル

サレムにあつて、生命の書に記される者は聖なる者と

となえられる。五 その時、主はシオンの山のすべての場

所と、そのもろもろの集会との上に、昼は雲をつくり、

夜は煙と燃える火の輝きとをつくられる。これはすべて

の栄光の上にある天蓋であり、あずまやであつて、六 昼

は暑さをふせぐ陰となり、また暴風と雨を避けて隠れる

所となる。

第五 章 「わたしはわが愛する者のために、

そのぶどう畑についてのわが愛の歌をうたおう。

わが愛する者は土肥えた小山の上に、

一つのぶどう畑をもつていた。

二 彼はそれを掘りおこし、石を除き、

それに良いぶどうを植え、

その中に物見やぐらを建て、

またその中に酒ぶねを掘り、
 良いぶどうの結ぶのを待ち望んだ。
 ところが結んだものは野ぶどうであつた。

三それで、エルサレムに住む者とユダの人々よ、
 どうか、わたしとぶどう畑との間をさばけ。

四わたしが、ぶどう畑になした事のほかに、
 何かなすべきことがあるか。

わたしは良いぶどうの結ぶのを待ち望んだのに、
 どうして野ぶどうを結んだのか。

五それで、わたしが、ぶどう畑になそうとすることを、
 あなたがたに告げる。

わたしはそのまがきを取り去って、
 食い荒されるにまかせ、そのかきをとりこわして、
 踏み荒されるにまかせる。

六わたしはこれを荒して、
 刈り込むことも、耕すこともせず、
 おどろと、いばらとを生えさせ、
 また雲に命じて、その上に雨を降らさない。

七万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家であり、
 主が喜んでそこに植えられた物は、
 ユダの人々である。

主はこれに公平を望まれたのに、

見よ、流血。
 正義を望まれたのに、
 見よ、叫び。

八わざわいなるかな、彼らは家に家を建て連ね、
 田畑に田畑をまし加えて、余地をあまさず、
 自分ひとり、国のうちに住まおうとする。

九万軍の主はわたしの耳に誓つて言われた、
 「必ずや多くの家は荒れすたれ、
 大きな麗しい家も住む者がなくなる。」

一〇十反のぶどう畑もわずかに一バテの実を結び、
 一ホメルの種もわずかに一エバの実を結ぶ。

一〇二わざわいなるかな、彼らは朝早く起きて、
 濃き酒をおい求め、

夜のふけるまで飲みつづけて、
 酒にその身を焼かれています。

一〇三彼らの酒宴には琴あり、立琴あり、
 鼓あり笛あり、ぶどう酒がある。

しかし彼らは主のみわざを顧みず、
 み手のなされる事に目をとめない。

一〇三それゆえ、わが民は無知のために、とりこにせられ、
 その尊き者は飢えて死に、

そのもろもろの民は、かわきによって衰えはてる。

一四また陰府はその欲望を大きくし、その口を限りなく開き、

エルサレムの貴族、そのもろもろの民、

その群集およびそのうちの喜びたのしめる者はみな

その中に落ちこむ。

一五人はかめられ、人々は低くせられ、

高ぶる者の目は低くされる。

一六しかし万軍の主は公平によってあがめられ、

聖なる神は正義によって、

おのれを聖なる者として示される。

一七こうして小羊は自分の牧場におるように草をはみ、肥えた家畜および子やぎは荒れ跡の中で食を得る。

一八わざわいなるかな、

彼らは偽りのなわをもって悪を引きよせ、

車の綱をもってするように罪を引きよせる。

一九彼らは言う、「彼を急がせ、

そのわざをすみやかにさせよ、

それを見せてもらおう。

イスラエルの聖者の定める事を近づききたらせよ、

それを見せてもらおう」と。

二〇わざわいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、

善を呼んで悪といい、

暗きを光とし、光を暗しとし、

苦きを甘しとし、甘きを苦しとする。

二一わざわいなるかな、彼らはおのれを見て、賢しとし、

みずから顧みて、さとしとする。

二二わざわいなるかな、

彼らはぶどう酒を飲むことの英雄であり、

濃き酒をまぜ合わせることの勇士である。

二三彼らはまいないによって悪しき者を義とし、

義人からその義を奪う。

二四それゆえ、火の舌が刈り株を食い尽すように、

枯れ草が炎の中に消えうせるように、

彼らの根は朽ちたものとなり、

彼らの花はちりのように飛び去る。

二五彼らは万軍の主の律法を捨て、

イスラエルの聖者の言葉を侮ったからである。

二六それゆえ、主はその民にむかって怒りを発し、

み手を伸べて彼らを撃たれた。

二七山は震い動き、

彼らのしかばねは、ちまたの中で、

あぐたのようになつた。

二八それにもかかわらず、み怒りはやまず、

なお、み手を伸ばされる。

二九主は旗をあげて遠くから一つの国民を招き、

万軍の主

地の果から彼らと呼ばれる。

見よ、彼らは走って、すみやかに来る。

二七その中には疲れる者も、つまづく者もなく、

まどろむ者も、眠る者もない。

その腰の帯はとけず、

そのくつのひもは切れていない。

二八その矢は鋭く、その弓はことごとく張り、

その馬のひずめは火打石のように、

その車の輪はつむじ風のように思われる。

二九そのほえることは、ししのように、

若いししのようにほえ、

うなって獲物を捕え、

かすめ去っても救う者がない。

三〇その日、その鳴りどよめくことは、

海の鳴りどよめくようだ。

もし地をのぞむならば、

見よ、暗きと悩みとがあり、

光は雲によって暗くなる。

第六章 ウジャヤ王の死んだ年、わたしは主が

高くあげられたみくらに座し、その衣のすそが神殿に満

ちているのを見た。二その上にセラピムが立ち、おの

おの六つの翼をもっていた。その二つをもって顔をおお

い、二つをもって足をおおい、二つをもって飛びかけり、

三互に呼びかわして言った。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、

その栄光は全地に満つ」。

四その呼ばわっている者の声によって敷居の基が震い動

き、神殿の中に煙が満ちた。五その時わたしは言った、

「わざわいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたし

は汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住

む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たの

だから」。

六この時セラピムのひとりが火ばしをもって、祭壇の

上から取った燃えている炭を手に携え、わたしのところ

に飛んできて、七わたしの口に触れて言った、「見よ、こ

れがあなたのくちびるに触れたので、あなたの悪は除か

れ、あなたの罪はゆるされた」。

八わたしはまた主の言わ

れる声を聞いた、「わたしはだれをつかわそうか。だれが

われわれのために行くだろうか」。その時わたしは言っ

た、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしく

ださい」。主は言われた、「あなたは行って、この民に

こう言いなさい、

『あなたがたはくりかえし聞くがよい、

しかし悟ってはならない。

あなたがたはくりかえし見るがよい、

しかしわかつてはならない』と。

九あなたはこの民の心を鈍くし、その目を閉ざしなさい。その耳を聞えにくくし、その目を閉ざしなさい。

これは彼らがその目で見、その耳で聞き、その心で悟り、

悔い改めていやされることのないためである」。

二そこで、わたしは言った、「主よ、いつまでですか」。

主は言われた、

「町々は荒れすたれて、住む者もなく、

家には人がけもなく、国は全く荒れ地となり、

三人々は主によつて遠くへ移され、

荒れはてた所が国の中に多くなる時まで、

こうなっている。

三その中に十分の一の残る者があつても、

これもまた焼き滅ぼされる。

テレピンの木またはかしの木が切り倒されるとき、

その切り株が残るように」。

聖なる種族はその切り株である。

第七章 ユダの王、ウジヤの子ヨタム、その

子アハズの時、スリヤの王レヂンとレマリヤの子である

イスラエルの王ベカとが上つてきて、エルサレムを攻め

たが勝つことができなかった。二時に「スリヤがエフラ

イムと同盟している」とダビデの家に告げる者があつた

ので、王の心と民の心とは風に動かされる林の木のように

に動揺した。

三その時、主はイザヤに言われた、「今、あなたとあなたの子シャル・ヤシユブと共に出て行って、布さらしの

野へ行く大路に沿う上の池の水道の端でアハズに会い、彼に言いなさい、『気をつけて、静かにし、恐れてはな

らない。レヂンとスリヤおよびレマリヤの子が激しく

怒つても、これら二つの燃え残りのくすぶっている切り

株のゆえに心を弱くしてはならない。五スリヤはエフラ

イムおよびレマリヤの子と共にあなたにむかつて悪い事

を企てて言う、六「われわれはユダに攻め上つて、これを

脅かし、われわれのためにこれを破り取り、タビエルの

子をその王にしよう」と。

主なる神はこう言われる、

この事は決して行われぬ、また起ることはない。

スリヤのかしらはダマスコ、

ダマスコのかしらはレヂンである。

(六十五年のうちにエフライムは敗れて、国をなさ

ないようになる。)

九エフライムのかしらはサマリヤ、

サマリヤのかしらはレマリヤの子である。

もしあなたがたが信じないならば、

立つことはできない』。

一〇主は再びアハズに告げて言われた、「二「あなたの神、

主に一つのしるしを求めよ、陰府のように深い所に、あ

るいは天のように高い所に求めよ」。三しかしアハズは

言った、「わたしはそれを求めて、主を試みることをいたしません」。三そこでイザヤは言った、「ダビデの家よ、

聞け。あなたがたは人を煩わすことを小さい事とし、またわが神をも煩わそうとするのか。二四それゆえ、主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる。二五その子が悪を捨て、善を選ぶことを知るころになって、凝乳と、蜂蜜とを食べる。二六それはこの子が悪を捨て、善を選ぶことを知る前に、あなたが恐れているふたりの王の地は捨てられるからである。二七主はエフライムがユダから分れた時からこのかた、臨んだことのないような日をあなたがた、あなたの民と、あなたの父の家とに臨ませられる。それはアッスリヤの王である。

一八その日、主はエジプトの川々の源にいる、はえを招き、アッスリヤの地にいる蜂を呼ばれる。一九彼らはみな来て、険しい谷、岩の裂け目、すべてのいばら、すべての牧場の上にとどまる。

二〇その日、主は大川の向こうから雇ったかみそり、すなわちアッスリヤの王をもって、頭と足の毛とをそり、また、ひげをも除き去られる。

二一その日、人は若い雌牛一頭と羊二頭を飼ひ、二それから出る乳が多いので、凝乳を食べることができ、すべて国のうちに残された者は凝乳と、蜂蜜とを食べることができる。

二三その日、銀一千シケルの価ある千株のぶどうの木の

あった所も、ことごとくいばらと、おどろの生える所となり、二四いばらと、おどろとが地にはびこるために、人は弓と矢をもつてそこへ行く。二五くわをもつて掘り耕したすべての山々にも、あなたは、いばらと、おどろとを恐れて、そこへ行くことができない。その地はただ牛を放ち、羊の踏むところとなる。

第八章 一主はわたしに言われた、「一枚の大きな札を取って、その上に普通の文字で、『マヘル・シャル・ハシ・バズ』と書きなさい。二そこで、わたしは

確かな証人として、祭司ウリヤおよびエベレキヤの子ゼカリヤを立てた。三わたしが預言者の妻に近づくと、彼女はみごもって男の子を産んだ。その時、主はわたしに言われた、「その名をマヘル・シャル・ハシ・バズと呼びなさい。四それはこの子がまだ『おとうさん、おかあさん』と呼ぶことを知らないうちに、ダマスコの富と、サマリヤのぶんどり品とが、アッスリヤ王の前に奪い去られるからである。五

主はまた重ねてわたしに言われた、六この民はゆるやかに流れるシロアの水を捨てて、レヂンとレマリヤの子の前に恐れくじける。七それゆえ見よ、主は勢いたけく、みなぎりわたる大川の水を彼らにむかつてせき入れられる。これはアッスリヤの王と、そのもろもろの威勢とであって、そのすべての支流にはびこり、すべての岸を越え、ハユダに流れ入り、あふれみなぎって、首にま

で及ぶ。インマヌエルよ、その広げた翼はあまねく、あなたの国に満ちわたる」。

九もろもろの民よ、打ち破られて、驚きあわてよ。

遠き国々のもよ、耳を傾けよ。

腰に帯して、驚きあわてよ。

腰に帯して、驚きあわてよ。

一〇ともに計れ、しかし、成らない。

言葉を出せ、しかし、行われぬ。

神がわれわれと共にられるからである。

二主は強いみ手をもって、わたしを捕え、わたしに語り、この民の道に歩まないように、さとして言われた、

三「この民がすべて陰謀となえるものを陰謀となえてはならない。彼らの恐れるものを恐れてはならない。

またおののいてはならない。三あなたがたは、ただ万軍の主を聖として、彼をかしこみ、彼を恐れなければならぬ。

四主はイスラエルの二つの家には聖所となり、また

さまたげの石、つまずきの岩となり、エルサレムの住民

には網となり、わなとなる。二五多くの者はこれにつま

き、かつ倒れ、破られ、わなにかけられ、捕えられる」。

二六わたしは、あかしを一つにまとめ、教をわが弟子た

ちのうちに封じておこう。二七主はいま、ヤコブの家に、み

顔をかくしておられるとはいえ、わたしはその主を待ち、

主を望みまつる。二八見よ、わたしと、主のわたしに賜

わった子たちとは、シオンの山にいます万軍の主から与

えられたイスラエルのしるしであり、前ぶれである。

一九人々があなたがたにむかって「さえざるように、ささ

やくように語る巫子および魔術者に求めよ」という時、

民は自分たちの神に求むべきではないか。生ける者のた

めに死んだ者に求めるであろうか。二〇ただ教とあかしと

に求めよ。まことに彼らはこの言葉によって語るが、そ

こには夜明けがない。三彼らはしえたげられ、飢えて国

の中を経あるく。その飢えるとき怒りを放ち、自分たち

の王、自分たちの神をのろい、かつその顔を天に向ける。

三また地を見ると、見よ、悩みと暗きと、苦しみのやみ

とがあり、彼らは暗黒に追いやられる。

第九章

一しかし、苦しみにあつた地にも、や

みがなくなる。さきにはゼブルンの地、ナフタリの地に

はずかしめを与えられたが、後には海に至る道、ヨルダン

の向こうの地、異邦人のガリラヤに光栄を与えられる。

二暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。

暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。

三あなたが国民を増し、その喜びを大きくされたので、

彼らは刈入れ時に喜ぶように、

獲物を分かつ時に楽しむように、

あなたの前に喜んだ。

四これはあなたが彼らの負っているくびきと、

その肩のつえと、しえたげる者のむちとを、

ミデアンの日になされたように折られたからだ。

五すべて戦場で、歩兵のはいたくつと、軍の主は血にまみれた衣とは、

火の燃えくさとなって焼かれる。

六ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。

まつりごとはその肩にあり、

その名は、「靈妙なる議士、大能の神、

とこしえの父、平和の君」ととなえられる。

七そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、

ダビデの位に座して、その国を治め、

今より後、とこしえに公平と正義とをもって

これを立て、これを保たれる。

万軍の主の熱心がこれをなされるのである。

八主はひと言をヤコブにおくり、

これをイスラエルの上にくだされる。

九すべてこの民、

エフライムとサマリヤに住む者とは知るであらう。

彼らは高ぶり、心おごって言う、

「おかわらがくずれても、

われわれは切り石をもって建てよう。

くわの木が切り倒されても、

われわれは香柏をもってこれにかえよう」と。

二それゆえ、主は敵を起して彼らを攻めさせ、

そのあだを奮い立たせられる。
三東にスリヤびとあり、西にペリシテびとあり、
彼らは大口をあけてイスラエルを食い尽す。
それでも主の怒りはやまず、
なおも、そのみ手を伸ばされる。

三しかもなお、この民は自分たちを撃った者に帰らず、
万軍の主を求めない。

四それゆえ、主はイスラエルから頭と尾と、

しゆるの枝と葦とを一日のうちに断ち切られる。

五その頭とは、長老と尊き人、

その尾とは、偽りを教える預言者である。

六この民を導く者は、これを迷わせ、

彼らに導かれる者は、のみ尽される。

七それゆえ、主はその若き人々を喜ばれず、

そのみなしごと寡婦とをあわれまれない。

彼らはみな、不信仰であって、悪を行う者、

すべての口は愚かな事を語るからである。

それでも主の怒りはやまず、

なおも、そのみ手を伸ばされる。

八悪は火のように燃え、

いはらと、おどろとを食い尽し、

茂りあう林を焼き、煙の柱となって巻きあがる。

第

一九 万軍の主の怒りによって地は焼け、

その民は火の燃えくさのようになり、

だれもその兄弟をあわれむ者がない。

二〇 彼らは右手につかんでも、なお飢え、

左手で食べても飽くことがない。

おのおのその隣り人の肉を食う。

二一 マナセはエフライムを、

エフライムはマナセを食い、

彼らは共にユダを攻める。

それでも主の怒りはやまず、

なおも、そのみ手を伸ばされる。

二二 第一章 わざわいなるかな、

不義の判決を下す者、暴虐の宣告を書きしるす者、

彼らは乏しい者の訴えを引き受けず、

わが民のうちの貧しい者の権利をはぎ、

寡婦の資産を奪い、みなしごのものをかすめる。

二三 あなたがたは刑罰の日がきたなら、

何をしようとするのか。

大風が遠くから来るとき、

何をしようとするのか。

あなたがたはのがれていつて、

だれに助けを求めようとするのか。

また、どこにあなたがたの富を残そうとするのか。

四 ただ捕われた者の中にかがみ、

殺された者の中に伏し倒れるのみだ。

それでも主の怒りはやまず、

なおも、そのみ手を伸ばされる。

五 ああ、アッスリヤはわが怒りのつえ、

わが憤りのむちだ。

六 わたしは彼をつかわして不信の国を攻め、

彼に命じてわが怒りの民を攻め、かすめ奪わせ、

彼らをちまたの泥のように踏みにじらせる。

七 しかし彼はそのようには思わず、

その心もそのようには考えず、

かえってその心は滅ぼすことを思い、

あまたの国々を倒そうとする。

八 彼は言う、「わが諸侯はみな王ではないか。

九 カルノはカルケミシのようではないか。

ハマテはアルバデのようではないか。

サマリヤはダマスコのようではないか。

一〇 わが手は偶像に仕える国々に伸びた。

その彫った像はエルサレムおよび

サマリヤのものにまさっていた。

二 わたしはサマリヤとその偶像に行つたように、

エルサレムとその偶像に行わぬであろうか。

三 主がシオンの山とエルサレムとになそうとすること

を、ことごとくなし遂げられた時、主はアッスリヤ王の無礼な言葉と、その高ぶりとを罰せられる。三彼は言う、

「わが手の力により、またわが知恵によつて、

わたしはこれをなした。わたしは賢いからである。

わたしはもろもろの民の境を除き、

その財宝を奪つた。

またわたしは雄牛のように、

位に座する者を引きおろした。

四わが手は巢を取るように、

もろもろの民の富を得た。

またわたしは人々が捨てられた卵を集めるように、

全地を取り集めた。

あるいは翼を動かし、あるいは口を開き、

あるいはべちやくちや言う者もなかった」。

五おのは、それを用いて切る者にむかつて、

自分を誇ることができようか。

のこぎりは、それを動かす者にむかつて、

みずから高ぶることができようか。

これはあたかも、むちが自分をあげる者を動かし、

つえが木でない者をあげようとするのに等しい。

六それゆえ、主、万軍の主は、

その肥えた勇士の中に病氣を送つて衰えさせ、

その栄光の下に火の燃えるような炎を燃やされる。

七イスラエルの光は火となり、その聖者は炎となり、

そのいばらと、おどろとを一日のうちに焼き滅ぼす。

八また、その林と土肥えた田畑の栄えを、

魂も、からだも二つながら滅ぼし、

病める者のやせ衰える時のようにされる。

九その林の木の残りのものはわずかであつて、

わらべもそれを書きとめることができる。

二〇その日にはイスラエルの残りの者と、ヤコブの家の

生き残つた者とは、もはや自分たちを撃つた者にたよら

ず、真心をもつてイスラエルの聖者、主にたより、三残

りの者、すなわちヤコブの残りの者は大能の神に帰る。

三あなたたの民イスラエルは海の砂のようであつても、そ

のうちの残りの者だけが帰つて来る。滅びはすでに定ま

り、義であふれてゐる。三三主、万軍の主は定められた滅

びを全地に行われる。

三四それゆえ、主、万軍の主はこう言われる、「シオンに

住むわが民よ、アッスリヤびとが、エジプトびとがした

ように、むちをもつてあなたを打ち、つえをあげてあな

たをせめても、彼らを恐れてはならない。三五ただしばら

くして、わが憤りはやみ、わが怒りは彼らを滅ぼすから

である。三六万軍の主は、むかしミデアンびとをオレブの

岩で撃たれた時のように、彼らにむかつて、むちをふる

われる。またそのつえを海の上にのばし、エジプトでなされたように、それをあげられる。三その日には、彼の重荷はあなたの肩からおり、彼のくびきはあなたの首から離れる」。

彼はリンモンから上り、

二八アイアテにきたり、ミグロンを過ぎ、

ミクマシでその行李をとどめ、

二九渡しを過ぎて、ゲバに宿る。

ラマはおののき、サウルのギベアは逃げ去った。

三〇ガリムの娘よ、声をあげて叫べ。

ライシよ、耳を傾けよ。

アナトテよ、彼に答えよ。

三二マデメナは逃げ去り、ゲビムの民は隠れ場を求めた。

三三この日は彼はノブに立ちとどまり、その月の影を待たせし。

シオンの娘の山、エルサレムの丘にむかつて、

その手を振る。

三三見よ、主、万軍の主は、

恐ろしい力をもって枝を切りおろされる。

たけの高いものも切り落され、

そびえ立つものは低くされる。

三四主はおのをもつて茂りあう林を切りおろされる。

みごとな木の茂るレバノンも倒される。

第

一章 エッサイの株から一つの芽が出、

その根から一つの若枝が生えて実を結び、

二その上に主の霊がとどまる。

これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、

主を知る知識と主を恐れる霊である。

三彼は主を恐れることを楽しみとし、

その目の見るところによって、さばきをなさず、

その耳の聞くとところによって、定めをなさず、

四正義をもって貧しい者をさばき、

公平をもって国のうちの

柔和な者のために定めをなし、

その口のむちをもって国を撃ち、

そのくちびるの息をもって悪しき者を殺す。

五正義はその腰の帯となり、

忠信はその身の帯となる。

一 二 三 四 五 六

六 おおかみは小羊と共にやどり、

ひょうは子やぎと共に伏し、

子牛、若しし、肥えたる家畜は共にいて、

小さいわらべに導かれ、

七雌牛と熊とは食い物を共にし、

牛の子と熊の子と共に伏し、

ししは牛のようにわらを食い、

八乳のみ子は毒蛇のほらに戯れ、

乳離れの子は手をまむしの穴に入れる。
九 彼らはわが聖なる山のどこにおいても、
そこなうことなく、やぶることがない。
水が海をおおっているように、
主を知る知識が地に満ちるからである。

一〇 その日、エッサイの根が立つて、もろもろの民の旗となり、もろもろの国びとはこれに尋ね求め、その置かれる所に栄光がある。

二 その日、主は再び手を伸べて、その民の残れる者をアッスリヤ、エジプト、パテロス、エチオピア、エラム、シナル、ハマテおよび海沿いの国々からあがなわれる。

三 主は国々のために旗をあげて、イスラエルの追いやられた者を集め、ユダの散らされた者を地の四方から集められる。

四 エフライムのねたみはうせ、ユダを悩ます者は断たれ、

エフライムはユダをねたまず、

ユダはエフライムを悩ますことはない。

五 しかし彼らは西の方ペリシテびとの肩に襲いかかり、

相共に東の民をかすめ、

その手をエドムおよびモアブに伸べ、

アンモンの人々をおのれに従わせる。

一五 主はエジプトの海の舌をからし、川の上に手を振って熱い風を吹かせ、その川を打って七つの川となし、くつをぬらさないで渡らせられる。

一六 その民の残れる者のために

アッスリヤからの大路があり、

昔イスラエルがエジプトの国から

上ってきた時にあつたようになる。

第二章 「その日あなたは言う、

「主よ、わたしはあなたに感謝します。

あなたは、さきにわたしにむかって怒られたが、

その怒りはやんで、わたしを慰められたからです。

二 見よ、神はわが救である。

わたしは信頼して恐れることはない。

主なる神はわが力、わが歌であり、

わが救となられたからである」。

三 あなたがたは喜びをもつて、救の井戸から水をくむ。

四 その日、あなたがたは言う、

「主に感謝せよ。

そのみ名を呼べ。

そのみわざをもろもろの民の中につたえよ。

そのみ名のあがむべきことを語りつげよ。

五 主をほめうたえ。

主はそのみわざを、みごとになし遂げられたから。
これを全地に宣べ伝えよ。

六 シオンに住む者よ、声をあげて、喜びうたえ。

イスラエルの聖者はあなたがたのうちで
大いなる者だから。

第一三章 アモツの子イザヤに示されたバビロ
ンについての託宣。

二 あなたがたは木のない山に旗を立て、

声をあげて彼らを招き、
手を振って彼らを貴族の門に、はいらせよ。

三 わたしはわが怒りのさばきを行うために

聖別した者どもに命じ、
わが勇士、わが勝ち誇る者どもを招いた。

四 聞け、多くの民のような騒ぎ声が山々に聞える。

聞け、もろもろの国々、寄りつどえる
もろもろの国民のざわめく声が聞える。

これは万軍の主が

戦いのために軍勢を集められるのだ。
五 彼らは遠い国から、天の果から来る。

これは、主とその憤りの器で、
全地を滅ぼすために来るのだ。

六 あなたがたは泣き叫べ。主の日が近づき、

滅びが全能者から来るからだ。

七 それゆえ、すべての手は弱り、
すべての人の心は溶け去る。

八 彼らは恐れおののき、苦しみと悩みに捕えられ、
子を産まんとする女のようにもだえ苦しみ、

互に驚き、顔を見あわせ、
その顔は炎のようになる。

九 見よ、主の日が来る。

残忍で、憤りと激しい怒りをもつてこの地を荒し、
その中から罪びとを断ち滅ぼすために来る。

一〇 天の星とその星座とはその光を放たず、
太陽は出ても暗く、

月はその光を輝かさないう。

二 わたしはその悪のために世を罰し、
その不義のために悪い者を罰し、

高ぶる者の誇をとどめ、
あらぶる者の傲慢を低くする。

三 わたしは人を精金よりも、
オフルのこがねよりも少なくする。

四 それゆえ、万軍の主の憤りにより、
その激しい怒りの日に、

天は震い、地は揺り動いて、その所をはなれる。
五 彼らは追われた、かもしかのように、

あるいは集める者のない羊のようになって、
 おのおの自分の民に帰り、

自分の国に逃げて行く。

一五 すべて見いだされる者は刺され、

すべて捕えらるる者はつるぎによつて倒され、

一六 彼らのみどりごはその目の前で投げ砕かれ、
 その家はかすめ奪われ、その妻は汚される。

一七 見よ、わたしは、しろがねをも顧みず、

こがねをも喜ばないメデアびとを起して、
 彼らにむかわせる。

一八 彼らの弓は若い者を射殺し、
 腹の実をあわれむことなく、

一九 幼な子を見て、惜しむことがない。
 国々の誉であり、

カルデヤびとの誇である麗しいバビロンは、
 神に滅ぼされたソドム、ゴモラのようになる。

二〇 ここにはなかく住む者が絶え、
 世々にいたるまで住みつく者がなく、

アラビヤびともそこに天幕を張らず、
 羊飼もそこに群れを伏させることがない。

二一 ただ、野の獣がそこに伏し、
 ほえる獣がその家に満ち、

だちようがそこに住み、

鬼神がそこに踊る。

三 ハイエナはその城の中で鳴き、
 山犬は楽しい宮殿でほえる。

その時の来るのは近い、
 その日は延びることがない。

第一四章 一 主はヤコブをあわれみ、イスラエル
 を再び選んで、これをおのれの地に置かれる。異邦人は

これに加わって、ヤコブの家に結びつらなり、二 もろも
 ろの民は彼らを連れてその所に導いて来る。そしてイス

ラエルの家は、主の地で彼らを男女の奴隷とし、さきに
 自分たちを捕虜にした者を捕虜にし、自分たちをしえた

げた者を治める。

三 主があなたの苦勞と不安とを除き、またあなたが服
 した苦役を除いて、安息をお与えになるとき、四 あなた

はこのあざけりの歌をとえ、バビロンの王をののしつ
 て言う、

「あの、しえたげる者は全く絶えてしまった。
 あの、おごる者は全く絶えてしまった。

五 主は悪い者のつえと、
 つかさびとの笏を折られた。

六 彼らは憤りをもってもろもろの民を
 絶えず撃っては打ち、

怒りをもってもろもろの国を治めても、
 そのしえたげをとどめる者がなかった。

七 全地はやすみを得、穩やかになり、國である。
ことごとく声をあげて歌う。

八 いとすぎおよびレバノンの香柏でさえも

あなたのゆえに喜んで言う、

『あなたはすでに倒れたので、

もはや、きこりが上ってきて、

われわれを攻めることはない』。

九 下の陰府はあなたのために動いて、

あなたの来るのを迎え、

地のもろもろの指導者たちの亡霊を

あなたのために起し、

国々のもろもろの王を

その王座から立ちあがらせる。

一〇 彼らは皆あなたに告げて言う、

『あなたもまたわれわれのように弱くなった、

あなたもわれわれと同じようになった』。

二 あなたの榮華とあなたの琴の音は

陰府に落ちてしまった。

うしはあなたの下に敷かれ、

みみずはあなたをおおっている。

三 黎明の子、明けの明星よ、

あなたは天から落ちてしまった。

もろもろの國を倒した者よ、

あなたは切られて地に倒れてしまった。

一三 あなたはさきに心のうちに言った、

『わたしは天にのぼり、

わたしの王座を高く神の星の上におき、

北の果なる集会の山に座し、

一四 雲のいただきにのぼり、

いと高き者のようになろう』。

一五 しかしあなたは陰府に落され、

穴の奥底に入れられる。

一六 あなたを見る者はつくづくあなたを見、

あなたに目をとめて言う、

『この人は地を震わせ、國々を動かし、

一七 世界を荒野のようにし、その都市をこわし、

捕えた者をその家に

解き帰さなかった者であるのか』。

一八 もろもろの國の王たちは皆

尊いさまで、自分の墓に眠る。

一九 しかしあなたは忌みきらわれる月足らぬ子のように

墓のそとに捨てられ、

つるぎで刺し殺された者でおおわれ、

踏みつけられる死体のように穴の石に下る。

二〇 あなたは自分の國を滅ぼし、

自分の民を殺したために、

彼らと共に葬られることはない。

どうか、悪を行う者の子孫は

とこしえに名を呼ばれることのないように。

二 先祖のよこしまのゆえに、

その子孫のためにほふり場を備えよ。

これは彼らが起つて地を取り、

世界のおもてに町々を

満たすことのないためである」。

三 万軍の主は言われる、「わたしは立つて彼らを攻め、

バビロンからその名と、残れる者、その子と孫とを断ち

滅ぼす、と主は言う。三 わたしはこれをはりねずみのす

みかとし、水の池とし、滅びのほうきをもって、これを

払い除く、と万軍の主は言う」。

四 万軍の主は誓つて言われる、「わたしは思ったように必ず成り、

「わたしが定めたように必ず立つ。

わたしが定めたように必ず立つ。

五 わたしはアッスリヤびとをわが地で打ち破り、

わが山々で彼を踏みにじる。

こうして彼が置いたくびきは

イスラエルびとから離れ、

彼が負わせた重荷は

イスラエルびとの肩から離れる」。

六 これは全地について定められた計画である。

これは国々の上に伸ばされた手である。

七 万軍の主が定められるとき、

だれがそれを取り消すことができるのか。

その手を伸ばされるとき、

だれがそれを引きもどすことができるのか。

二八 アバズ王の死んだ年にこの託宣があった、

二九「ペリシテの全地上、あなたを打ったむちが

折られたことを喜んではいられない。

へびの根からまむしが出、

その実は飛びかけるへびとなるからだ。

三〇 いと貧しい者は食を得、

乏しい者は安らかに伏す。

しかし、わたしはききんをもって

あなたの子孫を殺し、

あなたの残れる者を滅ぼす。

三一 門よ、泣きわめけ。町よ、叫べ。

ペリシテの全地上、恐れあまり消えうせよ、

北から煙が来るからだ。

その隊列からは、ひとりも脱落する者はない」。

三二 その国の使者たちになんと答えようか。

「主はシオンを基をおかれた、

その民の苦しむ者は

第

この中に避け所を得る」と答えよ。

一五章 「モアブについての託宣。

アルは一夜のうちに荒されて、モアブは滅びうせ、キルは一夜のうちに荒されて、モアブは滅びうせた。

ニデボンの娘は高き所にのぼって泣き、

モアブはネボとメデバの上で嘆き叫ぶ。

おのおのその頭をかぶるにし、

そのひげをことごとくそった。

三彼らはそのちまたで荒布をまとい、

その屋根または広場で、みな泣き叫び、涙に浸る。

四ヘシボンとエレアレとは叫び、

その声はヤハズまで聞える。

それゆえ、モアブの兵士は声をあげ、

その魂はおののく。

五わが心はモアブのために叫び呼ばれる。

その落人はゾアルおよび

エグラテ・シリシヤにのがれ、

泣きながらルヒテの坂をのぼり、

六ホロナイムの道で滅びの叫びをあげる。

草は枯れ、苗は消えて、青い物はない。

七それゆえ、彼らはその得た富と、

そのたくわえた物とを携えて、柳の川をわたる。

八その叫びの声はモアブの境をめぐり、

第

一六章 「彼らはセラから荒野の道によって

小羊をシオンの娘の山に送り、

国のつかさに納めた。

ニモアブの娘らはアルノンの渡しで、

さまよう鳥のように、

巢を追われたひなのようである。

三「相はかつて、事を定めよ、

真昼の中でも、あなたの陰を夜のようにし、

さすらい人を隠し、

のがれて来た者をわたさず、

四モアブのさすらい人を、あなたのうちにやどらせ、

彼らの避け所となつて、滅ぼす者からのがれさせよ。

しえたげる者がなくなり、滅ぼす者が絶え、

踏みにじる者が地から断たれたとき、

五一つの玉座がいつくしみによって堅く立てられ、

ダビデの幕屋にあつて、

さばきをなし、公平を求め、

正義を行ふに、すみやかなる者が

眞実をもつてその上に座する」。

六 われわれはモアブの高ぶりのことを聞いた、

その高ぶることは、はなはだしい。

われわれはその誇と、高ぶりと、

そのおごりとのことを聞いた、

その自慢は偽りである。

七 それゆえ、モアブは泣き叫べ、

民はみなモアブのために泣き叫べ。

全く撃ちのめされて、

キルハレセテの干ぶどうのために嘆け。

八 ヘシボンの畑と、

シブマのぶどうの木とは、しばみ衰えた。

国々のもろもろの主が、

その枝を打ち落したからである。

その枝はさきにはヤゼルまでいたり、

荒野にまではびこり、

そのつるは広がって海を越えた。

九 それゆえ、わたしはヤゼルと共に、

シブマのぶどうの木のために泣く。

ヘシボンよ、エレアレよ、

わたしは涙をもつてあなたを浸す。

ときの声が、あなたの果実と、

あなたの収穫の上にふりかかつてきたからである。

一〇 喜びと楽しみとは土肥えた畑から取り去られ、

ぶどう畑には歌うことなく、

喜び呼ばわることなく、

酒ぶねを踏んで酒を絞る者なく、

ぶどうの収穫を喜ぶ声はやんだ。

二 それゆえ、わが魂はモアブのために、

わが心はキルハレスのために、

琴のように鳴りひびく。

三 モアブが高き所に出て、おのれを疲れさせ、またそ

の聖所にきて祈つても、効果はない。

四 これは主がさきにモアブについて語られたみ言葉で

ある。「固しかし今、主は語って言われる、」モアブの栄

えはその大いなる群衆にもかかわらず、雇人の年期とひ

としく三年のうちに、はずかしめを受け、残れる者はま

ことに少なく、力がない」。

第一章 「ダマスコについての託宣」。

見よ、ダマスコは町の姿を失って、荒塚となる。

二 その町々とはこしえに捨てられ、

家畜の群れの住む所となって、伏しやすむが、

これを脅かす者はない。

三 エフライムのとりではすたり、

ダマスコの主権はやみ、

スリヤの残れる者は、イスラエルの子らの

栄光のように消えうせると

万軍の主は言われる。

四その日、ヤコブの栄えは衰え、

その肥えたる肉はやせ、

五あたかも刈入れ人がまだ刈らない麦を集め、

かいなをもつて穂を刈り取ったあとのように、

レバイムの谷で穂を拾い集めたあとのようになる。

六オリブの木を打つとき、

二つ三つの実をこずえに残し、

あるいは四つ五つを

みのり多き木の枝に残すように、

とり残されるものがあると

イスラエルの神、主は言われる。

七その日、人々はその造り主を仰ぎのぞみ、イスラエ

ルの聖者に目をとめ、八おのれの手わざである祭壇を

仰ぎのぞまず、おのれの指が造ったアシラ像と香の祭壇

とに目をとめない。

九その日、彼らの堅固な町々は昔イスラエルの子らの

ゆえに捨て去られたヒビビとおよびアモリびとの荒れ跡

のように荒れ地になる。

一〇これはあなたがたが自分の救の神を忘れ、

自分の避け所なる岩を心にとめなかったからだ。

それゆえ、あなたがたは美しい植物を植え、
異なる神の切り枝をさし、

二その植えた日にこれを成長させ、

そのまいた朝にこれを花咲かせても、

その収穫は悲しみと、いやしがたい苦しみの日に

とび去る。

三ああ、多くの民はなりどよめく、

海のなりどよめくように、彼らはなりどよめく。

ああ、もろもろの国はなりどろく、

大水のなりどろくように、彼らはなりどろく。

四もろもろの国は多くの水の

なりどろくように、なりどろく。

しかし、神は彼らを懲らしめられる。

彼らは遠くのがれて、

風に吹き去られる山の上のみがらのように、

また暴風にうず巻くちりのように追いやられる。

五夕暮には、見よ、恐れがある。

まだ夜の明けないうちに彼らはうせた。

これはわれわれをかすめる者の受くべき分、

われわれを奪う者の引くべきくじである。

第八章 「ああ、エチオピアの川々のかなたなる

ぶんぶんと羽音のする国、

二この国は葦の船を水にうかべ、

ナイル川によつて使者をつかわす。
 とく走る使者よ、行け。
 川々の分れる国の、たけ高く、膚のなめらかな民、
 遠近に恐れられる民、
 力強く、戦いに勝つ民へ行け。
 三 すべて世におけるもの、地に住むものよ、
 山の上に旗の立つときは見よ、
 ラッパの鳴りひびくときは聞け。
 四 主はわたしにこう言われた、
 「晴れわたった日光の熱のように、
 刈入れの熱むして露の多い雲のように、
 わたしは静かにわたしのすまいから、ながめよう」。
 五 刈入れの前、花は過ぎて
 その花がぶどうとなつて熟するとき、
 彼はかまをもつて、つるを刈り、枝を切り去る。
 六 彼らはみな山の猛禽と、
 地の獣とに捨て置かれる。
 猛禽はその上で夏を過ごし、
 地の獣はみなその上で冬を過ごす。
 七 その時、川々の分れる国の
 たけ高く、膚のなめらかな民、
 遠くの者にも近くのものにも恐れられる民、
 力強く、戦いに勝つ民から
 万軍の主はささげる贈り物を携えて、

第

万軍の主のみ名のある所、シオンの山に来る。

一九 章 エジプトについての託宣。

見よ、主は速い雲に乗つて、エジプトに来られる。
 エジプトのもろもろの偶像は、み前に震えおののき、
 エジプトびとの心は彼らのうちに溶け去る。
 ニ わたしはエジプトびとを奮いたたせて、

エジプトびとに逆らわせる。

彼らはおのおのその兄弟に敵して戦い、

おのおのその隣に敵し、

町は町を攻め、国は国を攻める。

三 エジプトびとの魂は、

彼らのうちにうせて、むなしくなる。

わたしはその計りごとを破る。

彼らは偶像および魔術師、

巫子および魔法使に尋ね求める。

四 わたしはエジプトびとをきびしい主人の手に渡す、

荒々しい王が彼らを治めると、

主、万軍の主は言われる。

五 ナイルの水はつき、川はかれてかわく。

六 またその運河は臭いにおいを放ち、

エジプトのナイルの支流はややに減つてかわき、

葦とよしとは枯れはてる。

七 ナイルのほとり、ナイルの岸には裸の所があり、

ナイルのほとりにまいた物はことごとく枯れ、
散らされて、うせ去る。

八 漁夫は嘆き、

すべてナイルにつりをたれる者は悲しみ、
網を水のおもてにうつ者は衰える。

九 練った麻で物を造る者と、

白布を織る者は恥じる。

一〇 国の柱たる者は砕かれ、

すべて雇われて働く者は嘆き悲しむ。

一一 ゾアンの君たちは全く愚かであり、

パロの賢い議官らは愚かな計りごとをなす。

あなたがたはどうしてパロにむかつて

「わたしは賢い者の子、いにしえの王の子です」と

言うことができようか。

一二 あなたの賢い者はどこにおるか。

彼らをして、

万軍の主がエジプトについて定められたことを

あなたに告げ知らしめよ。

一三 ゾアンの君たちは愚かとなり、

メンピスの君たちは欺かれ、

エジプトのもろもろの部族の隅の石たる彼らは、

かえってエジプトを迷わせた。

一四 主は曲った心を彼らのうちに混ぜられた。

彼らはエジプトをして、

すべてその行ふことに迷わせ、
あたかも酔った人の物吐くときに
よろめくようにさせた。

一五 エジプトに対しては、頭あるいは尾、

しゅろの枝あるいは葦が

共になしうるわざはない。

一六 その日、エジプトびとは女のようになり、万軍の主

の彼らの上に振り動かされるみ手の前に恐れおののく。

一七 ユダの地は、エジプトびとに恐れられ、ユダについて

語り告げることを聞くエジプトびとはみな、万軍の主が

エジプトびとにむかつて定められた計りごとのゆえに恐

れる。

一八 その日、エジプトの地にカナンの国ことばを語り、

また万軍の主に誓いを立てる五つの町があり、その中の

一つは太陽の町となえられる。

一九 その日、エジプトの国の中に主をまつ一つの祭壇

があり、その境に主をまつ一つの柱がある。二〇 これは

エジプトの国で万軍の主にしるしとなり、あかしとな

る。彼らがしえたげる者のゆえに、主に叫び求めるとき、

主は救う者をつかわして、彼らを守り助けられる。二一 主

はご自分をエジプトびとに知らせられる。その日、エジ

プトびとは主を知り、犠牲と供え物とをもって主に仕え、

主に誓願をたててこれを果す。二二 主はエジプトを撃たれ

る。主はこれを撃たれるが、またいやされる。それゆえ

彼らは主に帰る。主は彼らの願いをいれて、彼らをいやされる。

三 その日、エジプトからアッスリヤに通う大路があつて、アッスリヤびとはエジプトに、エジプトびとはアッスリヤに行き、エジプトびとはアッスリヤびとと共に主に仕える。

四 その日、イスラエルはエジプトとアッスリヤと共に三つ相並び、全地のうちで祝福をうけるものとなる。五 万軍の主は、これを祝福して言われる、「さいわいなるかな、わが民なるエジプト、わが手のわざなるアッスリヤ、わが嗣業なるイスラエル」と。

第二〇章 アッスリヤの王サルゴンからつかわされた最高司令官がアシドドに来て、これを攻め、これを取った年、——二その時に主はアモツの子イザヤによつて語つて言われた、「さあ、あなたの腰から荒布を解き、足からくつを脱ぎなさい」。そこでイザヤはそれようにし、裸、はだして歩いた。——三主は言われた、「わがしもべイザヤは三年の間、裸、はだして歩き、エジプトとエチオピアに對するしるしとなり、前ぶれとなつたが、四このようにエジプトびとのとりことエチオピアびとの捕われ人とは、アッスリヤの王に引き行かれて、その若い者も老いた者もみな裸、はだして、しりをあらわし、エジプトの恥を示す。五彼らはその頼みとしたエチオピアのゆえに、その誇としたエジプトのゆえに恐れ、

かつ恥じる。六その日には、この海べに住む民は言う、『見よ、われわれが頼みとした国、すなわちわれわれのがれて行つて助けを求め、アッスリヤ王から救ひ出されようとした国はすでにこのとおりである。われわれはどうしてのがれることができようか』と。

第二一章 海の荒野についての託宣。

一 つむじ風がネゲブを吹き過ぎるように、荒野から、恐るべき地から、来るものがある。

二 わたしは一つのきびしい幻を示された。一つの禁じかすめ奪う者はかすめ奪ひ、

滅ぼす者は滅ぼす。

エラムよ、のぼれ、メデアよ、囲め。

わたしはすべての嘆きをやめさせる。

三 それゆえ、わが腰は激しい痛みに満たされ、

出産に臨む女の苦しみのような苦しみが

わたしを捕えた。

わたしは、かがんで聞くことができず、

恐れおののいて見ることができない。

四 わが心はみだれ惑ひ、

わななき恐れること、はなはだしく、

わたしのあこがれたたそがれは

變つておののきとなった。

五 彼らは食卓を設け、

じゅうたんを敷いて食い飲みする。

「もろもろの君よ、立って、盾に油をぬれ。」

主はわたしにこう言われた、

「行って、見張びとをおき、

その見るところを告げさせよ。

七馬に乗って二列に並んだ者と、ろばに乗った者と、

らくだに乗った者とを彼が見るならば、

耳を傾けてつまびらかに聞かせよ。」

八その時、見張びとは呼ばわって言った、

「主よ、わたしがひねもすやぐらに立ち、

夜もすがらわが見張所に立っていると、

九見よ、馬に乗って二列に並んだ者がここに来ます。」

彼は答えて言った、

「倒れた、バビロンは倒れた、

その神々の像はことごとく打ち砕かれて

地に伏した。」

一〇ああ、踏みにじられたわが民、わが打ち場の子よ、

イスラエルの神、万軍の主から

わたしが聞いたところのものを

あなたがたに告げる。

二二ドマについての託宣。

セイルからわたしに呼ばわる者がある、

「夜回りよ、今は夜の什么时候ですか、

夜回りよ、今は夜の什么时候ですか。」

三夜回りは言う、

「朝がきます、夜もまたきます。」

もしあなたがたが聞こうと思ふならば聞きなさい、

また来なさい。」

三アラビヤについての託宣。

デダンびとの隊商よ、

あなたがたはアラビヤの林にやどる。

四デマの地に住む民よ、

水を携えて、かわいた者を迎え、

パンをもつて、逃げのがれた者を迎えよ。

五彼らはつるぎを避け、抜いたつるぎを避け、

張った弓を避け、また激しい戦いを避けて、

逃げてきたからである。

六主はわたしにこう言われた、「雇人の年期のように

一年以内にケダルのすべての栄華はつきはてる。七ケダ

ルの子らの勇士で、射手の残る者は少ない。これはイ

スラエルの神、主が語られたのである。

第二二章 一幻の谷についての託宣。

あなたがたはなぜ、みな屋根にのぼったのか。

二叫び声で満ちている者、

騒がしい都、喜びに酔っている町よ。国を以て喜ぶ

あなたがたのうちの殺された者は、

つるぎで殺されたのではなく、二つの神々の間に

また戦いに倒れたのでもない。

三 あなたのかさたちは皆共にのがれて行ったが、弓を捨てて捕えられた。

彼らは遠く逃げて行ったが、

あなたのうちの見つかった者はみな捕えられた。

四 それゆえ、わたしは言った、

「わたしを顧みてくれるな、

わたしはいたく泣き悲しむ。

わが民の娘の滅びのために、

わたしを慰めようと努めてはならない」。

五 万軍の神、主は幻の谷に

騒ぎと、踏みじりと、混乱の日をこさせられる。

城壁はくずれ落ち、叫び声は山に聞える。

六 エラムは箠を負い、

戦車と騎兵とをもってきたり、

キルは盾をあらわした。

七 あなたの最も美しい谷は戦車で満ち、

騎兵はもろもろの門にむかつて立った。

八 エダを守るおおいに取り除かれた。

その日あなたは林の家の武具を仰ぎ望んだ。

あなたがたはダビデの町の破れの多いのを見、下の池の水

を集め、一〇 エルサレムの家を数え、またその家をこわし

て城壁を築き、二一つの貯水池を二つの城壁の間に造つて古池の水をひいた。しかしあなたがたはこの事をなされた者を仰ぎ望まず、この事を昔から計画された者を顧みなかった。

三 その日、万軍の神、主は

泣き悲しみ、頭をかぶるにし、

荒布をまとうことを命じられたが、

一三 見よ、あなたがたは喜び楽しみ、

牛をほふり、羊を殺し、

肉を食い、酒を飲んで言う、

「われわれは食い、かつ飲もう、

明日は死ぬのだから」。

一四 万軍の主はみずからわたしの耳に示された、

「まことに、この不義はあなたがたが死ぬまで、

ゆるされることはない」と

万軍の神、主は言われる。

一五 万軍の神、主はこう言われる、「さあ、王の家をつかさどるこの執事セブナに行つて言いなさい、一六『あなた

はここになんの係わりがありませんか。あなたはだれの縁

故でここに自分のために墓を掘ったのですか。あなたは

高い所に墓を掘り、岩をうがって自分のためにすみかを

造った。一七 強い人よ、見よ、主はあなたを激しくなげ倒

した。一八 王よ、見よ、主はあなたを激しくなげ倒した。

される。主はあなたを堅くつかまえ、一八ぐるぐるまわして、まりのように広々した地に投げられる。主人の家の恥となる者よ、あなたはそこで死に、あなたの華麗な車はそこに残る。一九わたしは、あなたをその職から追ひ、その地位から引きおろす。二〇その日、わたしは、わがしもべヒルキヤの子エリアキムを呼んで、三あなたの衣を着せ、あなたの帯をしめさせ、あなたの権力を彼の手にゆだねる。彼はエルサレムの民とユダの家との父となる。三わたしはまたダビデの家のかぎを彼の肩に置く。彼が開けば閉じる者なく、彼が閉じれば開く者はない。三わたしは彼を堅い所に打ったくぎのようにする。そして彼はその父の家の誉の座となり、二四その父の家のすべての重さは彼の上にかかる。すなわちその子、その孫およびすべての小さい器、鉢からすべてのびんにいたるまでみな、彼の上にかかる。二五万軍の主は言われる、「その日、堅い所に打ったくぎは抜け、切られて落ちる。その上にかかっている荷もまた取り去られる」と主は語られた。

第二十三章

一ツロについての託宣。

二タルシシのもろもろの船よ、泣き叫べ、

三ツロは荒れすたれて、家なく、

四船舶まりする港もないからだ。

五この事はクプロの地から彼らに告げ知らせられる。

六海べに住む民よ、

七シドンの商人よ、もだせ、
八あなたがたの使者は海を渡り、
九大いなる水の上にあった。
一〇ツロの収入はシホルの穀物、
一一ナイル川の収穫であった。
一二ツロはもろもろの国びとの商人であった。
一三シドンよ、恥じよ、
一四海は言った、海の城は言う、
一五「わたしは苦しまず、また産まなかった。
一六わたしは若い男子を養わず、
一七また処女を育てなかった」。
一八この報道がエジプトに達するとき、
一九彼らはツロについての報道によって、いたく苦しむ。
二〇タルシシに渡れ、
二一海べに住む民よ、泣き叫べ。
二二これがその起原も古い町、
二三自分の足で移り、遠くにまで移住した町、
二四あなたがたの喜び誇る町なのか。
二五ハツロにむかってこれを定めたのはだれか。
二六ツロは冠を授けた町、
二七その商人は君たち、
二八その貿易業者は地の尊い人々であった。
二九万軍の主はすべての栄光の誇を汚し、
三〇地のすべての尊い者はずかしめるために

これを定められたのだ。

一〇タルシシの娘よ、お前の地におのが地にあふれよ。

ナイル川のようにおのが地にあふれよ。

二主はその手を海の上に伸べて

国々を震い動かされた。

主はカナンについて詔を出し、

そのとりでをこわされた。

三主は言われた、

「しえたげられた処女シドンの娘よ、お前は

あなたはもはや喜ぶことはない。

立つて、クプロに渡れ、

そこでもあなたは安息を得ることはない。

三カルデヤびとの国を見よ、アッスリヤではなく、こ

の民がツロを野の獣のすみかに定めた。彼らはやぐらを

建て、もろもろの宮殿をこわして荒塚とした。

二四タルシシのもろもろの船よ、泣き叫べ、

あなたたがたのとりでは荒れすたれたから。

二五その日、ツロはひとりの王のながらえる日と同じく

七十年の間忘れられ、七十年終つて後、ツロは遊女の歌

のようになる、

二六「忘れられた遊女よ、

琴を執って町をめぐり、

巧みに弾じ、多くの歌をうたつて、

人に思い出されよ。

一七七十年終つて後、主はツロを顧みられる。ツロは再

び淫行の価を得て、地のおもてにある世のすべての国々

と姦淫を行い、二八その商品とその価とは主にささげられ

る。これはたくわえられることなく、積まれることなく、

その商品は主の前に住む者のために豊かな食物となり、

みごとな衣服となる。

第二四章

一見よ、主はこの地をむなしくし、

その民を散らされる。

二そして、その民も祭司もひとしく、

しもべも主人もひとしく、

はしためも主婦もひとしく、

買う者も売る者もひとしく、

貸す者も借りる者もひとしく、

債権者も債務者もひとしく、この事にあう。

三主はこの言葉を告げられたからである。

四地は悲しみ、衰え、

世はしおれ、衰え、

天も地と共にしおれはてる。

五地はその住む民の下に汚された。

これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、

とこしえの契約を破ったからだ。

六 それゆえ、のろいは地をのみつくし、

そこに住む者はその罪に苦しむ、

また地の民は焼かれて、わずかの者が残される。

七 新しいぶどう酒は悲しみ、ぶどうはしおれ、

心の楽しい者もみな嘆く。

八 鼓の音は静まり、

喜ぶ者の騒ぎはやみ、

琴の音もまた静まった。

九 彼らはもはや歌をうたって酒を飲まず、

濃き酒はこれを飲む者に苦くなる。

一〇 混乱せる町は破られ、

すべての家は閉ざされて、はいることができない。

二 ちまたには酒の不足のために叫ぶ声があり、

すべての喜びは暗くなり、

地の楽しみは追いやられた。

三 町には荒れすたれた所のみ残り、

その門もこわされて破れた。

四 地のうちで、もろもろの民のなかで残るものは、

オリブの木の打たれた後の実のように、

ぶどうの収穫の終わった後にその採り残りを

集めるときのようなになる。

一四 彼らは声をあげて喜び歌う。

主の威光のゆえに、西から喜び呼ばわる。

一五 それゆえ、東で主をあがめ、

海沿いの国々でイスラエルの神、主の名をあがめよ。

一六 われわれは地の果から、さんびの歌を聞いた、

「栄光は正しい者にある」と。

一七 しかし、わたしは言う、「わたしはやせ衰える、中

わたしはやせ衰える、わたしはわざわいだ。

一八 欺く者はあざむき、

欺く者は、はなはだしくあざむく」。

一九 地に住む者よ、

恐れと、落し穴と、わなとはあなたの上にある。

二〇 恐れの声のをがれる者は落し穴に陥り、

落し穴から出る者はわなに捕えられる。

二一 天の窓は開け、地の基が震い動くからである。

二二 地は全く砕け、

地は裂け、

地は激しく震い、

地は酔いどれのようによろめき、

仮小屋のようにゆり動く。

二四 そのとがはその上に重く、

ついに倒れて再び起きあがることはない。

二五 その日、主は天において、

天の軍勢を罰し、

地の上で、地のもろもろの王を罰せられる。

第

三 彼らは囚人が土ろうの中に集められるように集められて、

獄屋の中に閉ざされ、多くの日を経て後、罰せられる。

三 こうして万軍の主がシオンの山におよびエルサレムで統べ治め、

かつその長老たちの前にその栄光をあらわされるので、

月はあわて、日は恥じる。

二 五 章 主よ、あなたはわが神、わたしはあなたをあがめ、み名をほめたたえる。

あなたはさきに驚くべきみわざを行い、いにしえから定めた計画を

真実をもって行われたから。二 あなたは町を石塚とし、堅固な町を荒塚とされた。

外国人のやかたは、もはや町ではなく、とこしえに建てられることはない。

三 それゆえ、強い民はあなたを尊び、あらぶる国々の町はあなたを恐れる。

四 あなたは貧しい者のとりでとなり、乏しい者の悩みのときとなり、

あらしをさける避け所となり、熱さをさける陰となられた。あらぶる者の及ぼす害は、

石がきを打つあらしのごとく、かわいた地の熱さのようだからである。

五 あなたは外国人の騒ぎをおさえ、雲が陰をもって熱をとどめるように

あらぶる者の歌をとどめられる。

六 万軍の主はこの山で、すべての民のために肥えたものをもって祝宴を設け、

久しくたくわえたぶどう酒をもつて祝宴を設けられる。すなわち

穀の多い肥えたものと、よく澄んだ長くたくわえたぶどう酒をもつて祝宴を設けられる。

また主はこの山で、すべての民のかぶつてゐる顔おおいと、

すべての顔から涙をぬぐい、その民のはずかしめを全地の上から除かれる。

これは主の語られたことである。九 その日、人は言う、「見よ、これはわれわれの神である。

わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる。これは主である。

わたしたちは彼の喜び楽しむ」と。一 主の手はこの山にとどまり、

モアブは肥だめの中に踏まれるわらのように、おのれの所で踏みにじられる。二 彼はその中で泳ぐ者が泳ごうとして手を伸ばすように、

その手を伸ばす。しかし主はその高ぶりを、その手の巧みなわざと共に低くされる。三 その石がきの高い城

郭を主は傾け倒し、地に投げうつて、ちりにかえされる。

第二十六章 「その日ユダの国で、この歌をうたう、

「われわれは堅固な町をもつ。」

主は救をその石がきとし、

またとりでとされる。

二門を開いて、信仰を守る正しい国民を入れよ。

三あなたは全き平安をもって

こころざしの堅固なものを守られる。

彼はあなたに信頼しているからである。

四とこしえに主に信頼せよ、

主なる神はとこしえの岩だからである。

五主は高き所、そびえたつ町に住む者をひきおろし、

これを伏させ、これを地に伏させて、

ちりにかえされる。

六こうして足で踏まれ、

貧しい者の足で踏まれ、

乏しい者はその上を歩む」。

七正しい者の道は平らである。

あなたは正しい者の道をなめらかにされる。

八主よ、あなたがさばきをなさる道で、

われわれはあなたを待ち望む。

われわれの魂の慕うものは、

あなたの記念の名である。

九わが魂は夜あなたを慕い、

わがうちなる霊は、せつにあなたを求め。

あなたのさばきが地に行われるとき、

世に住む者は正義を学ぶからである。

一〇悪しき者は恵まれても、なお正義を学ばず、

正しい地にあつても不義を行い、

主の威光を仰ぐことをしない。

二主よ、あなたのみ手が高くあがるけれども、

彼らはそれを顧みない。

どうか、あなたの、おのが民を救われる熱心を

彼らに見させて、大いに恥じさせ、

火をもってあなたの敵を焼き滅ぼしてください。

三主よ、あなたはわれわれのために

平和を設けられる。

あなたはわれわれのために

われわれのすべてのわざをなし遂げられた。

三われわれの神、主よ、

あなた以外のものもろの主がわれわれを治めた。

しかし、われわれはただ、

あなたの名のみをあがめる。

死んだ者はまた生きない。

亡霊は生き返らない。

それで、あなたは彼らを罰して滅ぼし、

彼らの思い出をことごとく消し去られた。

一五 主よ、あなたはこの国民を増し加えられた。

あなたはこの国民を増し加えられた。

あなたは栄光をあらわされた。

あなたは地の境を四方に広げられた。

一六 主よ、彼らは悩みのとき、あなたに求めた。

彼らがあなたの懲らしめにあったとき、

祈をささげた。

一七 主よ、はらめる女の産むときが近づいて苦しみ、

その痛みによって叫ぶように、

われわれはあなたのゆえに、そのようであった。

一八 われわれは、はらみ、苦しんだ。

しかしわれわれの産んだものは風にすぎなかった。

われわれは救を地に施すこともせず、

また世に住む者を滅ぼすこともしなかった。

一九 あなたの死者は生き、彼らのなきがらは起きる。

ちに伏す者よ、さめて喜びうたえ。

あなたの露は光の露であって、

それを亡霊の国の上に降らされるからである。

二〇 さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、

あなたのうしろの戸を閉じて、

憤りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ。

二一 見よ、主はそのおられる所を出て、

地に住む者の不義を罰せられる。
地はその上に流された血をあらわして、
殺された者を、もはやおおうことがない。
第二十七章 その日、主は堅く大いなる強いつる
ぎで逃げるへびレビヤタン、曲りくねるへびレビヤタン
を罰し、また海における龍を殺される。

二 その日

「麗しきぶどう畑よ、このことを歌え。」

三 主なるわたしはこれを守り、

常に水をそそぎ、

夜も昼も守って、そこなう者のないようにする。

四 わたしは憤らない。

いばら、おどろがわたしと戦うなら、

わたしは進んでこれを攻め、

皆もろともに焼きつくす。

五 それを望まないなら、わたしの保護にたよって、

わたしと和らぎをなせ、

わたしと和らぎをなせ。

六 後になれば、ヤコブは根をはり、

イスラエルは芽を出して花咲き、

その実を全世界に満たす。

七 主は彼らを撃った者を撃たれたように

彼らを撃たれたか。

あるいは彼らを殺した者が殺されたように
彼らは殺されたか。

あなたは彼らと争って、彼らを追放された。

主は東風の日に、その激しい風をもって
彼らを移しやられた。

九 それゆえ、ヤコブの不義は

これによって、あがなわれる。

これによって結ぶ実は彼の罪を除く。

すなわち彼が祭壇のすべての石を

砕けた白堊のようにし、

アシラ像と香の祭壇とを再び建てないことである。

一〇 堅固な町は荒れてさびしく、

捨て去られたすまいは荒野のようだ。

子牛はそこに草を食い、

そこに伏して、その木の枝を裸にする。

二 その枝が枯れると、折り取られ、

女が来てそれを燃やす。

これは無知の民だからである。

それゆえ、彼らを造られた主は

彼らをあわれまれない。

彼らを形造られた主は、彼らを恵まれない。

二 イスラエルの人々よ、その日、主はユフラテ川から

エジプトの川にいたるまで穀物の穂を打ち落される。そ

してあなたがたは、ひとりびとり集められる。三 その日
大いなるラツバが鳴りひびき、アッスリヤの地にある失
われた者と、エジプトの地に追いやられた者とがきて、
エルサレムの聖山で主を拝む。

第二八章 エフライムの酔いどれの誇る冠と、

酒におぼれた者の肥えた谷のかしらにある

しぼみゆく花の美しい飾りは、わざわいだ。

二 見よ、主はひとりの力ある強い者を持っておられる。

これはひょうをまじえた暴風のように、

破り、そこなう暴風雨のように、

大水のあふれみなぎる暴風のように、

それを激しく地に投げうつ。

三 エフライムの酔いどれの誇る冠は

足で踏みじられる。

四 肥えた谷のかしらにある

しぼみゆく花の美しい飾りは、

夏前に熟した初なりのいちじくのようだ。

人がこれを見ると、取るやいなや、食べてしまう。

五 その日、万軍の主はその民の残った者のために、

栄えの冠となり、麗しい冠となられる。

六 また、さばきの席に座する者にはさばきの霊となり、

戦いを門まで追い返す者には力となられる。

七 しかし、これらもまた酒のゆえによるめき、

濃き酒のゆえによろける。祭司と預言者とは濃き酒のゆえによろめき、酒のゆえに心みだれ、

濃き酒のゆえによろける。彼らは幻を見るときに誤り、

さはきを行うときにつまずく。

すべての食卓は吐いた物で満ち、清い所はない。

九「彼はだれに知識を教えようとするのか。

だれにおとずれを説きあかそうとするのか。

乳をやめ、乳ぶさを離れた者にするのだろうか。

一〇それは教訓に教訓、教訓に教訓、

規則に規則、規則に規則。

ここにも少し、そこにも少し教えるのだ」。

二否、むしろ主は異国のくちびると、

異国の舌とをもつてこの民に語られる。

三主はさきに彼らに言われた、

「これが安息だ、

疲れた者に安息を与えよ。

これが休息だ」と。

しかし彼らは聞こうとはしなかった。

三それゆえ、主の言葉は彼らに、

教訓に教訓、教訓に教訓、

規則に規則、規則に規則、

ここにも少し、そこにも少しとなる。

これは彼らが行って、うしろに倒れ、破られ、わなにかけられ、捕えられるためである。

一四それゆえ、エルサレムにあるこの民を治める

あざける人々よ、主の言葉を聞け。

一五あなたがたは言った、

「われわれは死と契約をなし、

陰府と協定を結んだ。

みなぎりあふれる災の過ぎる時にも、

それはわれわれに來ない。

われわれはうそを避け所となし、

偽りをもって身をかくしたからである」。

一六それゆえ、主なる神はこう言われる、

「見よ、わたしはシオンに

一つの石をすえて基とした。

これは試みを経た石、

堅くすえた尊い隅の石である。

『信ずる者はあわてることはない』。

一七わたしは公平を、測りなわとし、

正義を、下げ振りとする。

ひょうは偽りの避け所を滅ぼし、

水は隠れ場を押し倒す」。

一八その時あなたがたが死とたてた契約は取り消され、陰府と結んだ協定は行われぬ。

みなぎりあふれる災の過ぎるとき、

あなたがたはこれによって打ち倒される。

一九それが過ぎるごとに、あなたがたを捕える。

それは朝な朝な過ぎ、

昼も夜も過ぎるからだ。

このおとずれを聞きわきまえることは、
全くの恐れである。

二〇床が短くて身を伸べることができず、

かける夜具が狭くて

身をおおうことができないからだ。

二一主はベラジム山で立たれたように立ちあがり、

ギベオンの谷で憤られたように憤られて、

その行いをなされる。

その行いは類のないものである。

またそのわざをなされる。

そのわざは異なったものである。

二三それゆえ、あなたがたはあざけてはならない。

さもないと、あなたがたのなわめは、きびしくなる。

わたしは主なる万軍の神から

全地の上に臨む滅びの宣言を聞いたからである。

二四あなたがたは耳を傾けて、わが声を聞くがよい。

心してわが言葉を聞くがよい。

二五種をまくために耕す者は絶えず耕すだろうか。

彼は絶えずその地をひらき、

まぐわをもって土をならすだろうか。

二六地のおもてを平らにしたならば、

いのんどをまき、クミンをまき、小麦をうねに植え、大麦を定めた所に植え、

スベルト麦をその境に植えないだろうか。

二七これは彼の神が正しく、

彼を導き教えられるからである。

二八いのんどは麦こき板でこかない、

クミンはその上に車輪をころがさない。

いのんどを打つには棒を用い、

クミンを打つにはさおを用いる。

二九人はパン用の麦を打つとき砕くだろうか、

否、それが砕けるまでいつまでも打つことをしない。

馬をもつてその上に車輪を引かせるとき、

それを砕くことをしない。

三〇これもまた万軍の主から出ることである。

その計りごとは驚くべく、

その知恵はすぐれている。

第二章 一ああ、アリエルよ、アリエルよ、

ダビデが営をかまえた町よ、

年に年を加え、祭をめぐりこさせよ。

二その時わたしはアリエルを悩ます。聞くはよ。
そこには悲しみと嘆きとがあつて、

アリエルのようなものとなる。

三わたしはあなたのまわりに營を構え、

やぐらをもつてあなたを囲み、

壘を築いてあなたを攻める。

四その時あなたは深い地の中から物言い、

低いちりの中から言葉を出す。

あなたの声は亡霊の声のように地から出、

あなたの言葉はちりの中から、さえずるようである。

五しかしあなたのあだの群れは

細かなちりのようになり、

あらぶる者の群れは

吹き去られるもみがらのようになる。

また、にわかに、またたくまに、この事がある。

六すなわち万軍の主は雷、地震、大いなる叫び、

つむじ風、暴風および焼きつくす火の炎をもつて

臨まれる。

七そしてアリエルを攻めて戦う国々の群れ、

すなわちアリエルとその城を攻めて戦い、

これを悩ます者はみな

夢のように、夜の幻のようになる。

八飢えた者が食ふことを夢みて、

さめると、その飢えがいえないように、

あるいは、かわいた者が飲むことを夢みて、

さめると、疲れてそのかわきがとまらないように、

シオンの山を攻めて戦う国々の群れも

そのようになる。

九あなたがたは知覚を失つて気が遠くなれ、

目がくらんで盲となれ。

あなたがたは酔つていよ、しかし酒のゆえではない、

よるめけ、しかし濃き酒のゆえではない。

一〇主が深い眠りの霊をあなたがたの上にそそぎ、

あなたがたの目である預言者を閉じこめ、

あなたがたの頭である先見者を

おおわれたからである。

二それゆえ、このすべての幻は、あなたがたには封じ

た書物の言葉のようになり、人々はこれを読むことので

きる者にわたして、「これを読んでください」と言えば、

「これは封じてあるから読むことができない」と彼は言

う。三またその書物を読むことのできない者にわたして、

「これを読んでください」と言えば、「読むことはできな

い」と彼は言う。

四

五

六

七

八

九

一〇

一一

一二

一三

一四

一五

一六

一七

一八

一九

二〇

二一

二二

二三

二四

二五

二六

二七

二八

二九

三〇

三一

三二

三三

三四

三五

三六

三七

三八

三九

四〇

四一

四二

四三

四四

四五

四六

四七

四八

四九

五〇

五一

五二

五三

五四

五五

五六

五七

五八

五九

六〇

六一

六二

六三

六四

六五

六六

六七

六八

六九

七〇

七一

七二

七三

七四

七五

七六

七七

七八

七九

八〇

八一

八二

八三

八四

八五

八六

八七

八八

八九

九〇

九一

九二

九三

九四

九五

九六

九七

九八

九九

一〇〇

一〇一

一〇二

一〇三

一〇四

一〇五

一〇六

一〇七

一〇八

一〇九

一一〇

一一一

一一二

一一三

一一四

一一五

一一六

一一七

一一八

一一九

一二〇

一二一

一二二

一二三

一二四

一二五

一二六

一二七

一二八

一二九

一三〇

一三一

一三二

一三三

一三四

一三五

一三六

一三七

一三八

一三九

一四〇

一四一

一四二

一四三

一四四

一四五

一四六

一四七

一四八

一四九

一五〇

一五一

一五二

一五三

一五四

一五五

一五六

一五七

一五八

一五九

一六〇

一六一

一六二

一六三

一六四

一六五

一六六

一六七

一六八

一六九

一七〇

一七一

一七二

一七三

一七四

一七五

一七六

一七七

一七八

一七九

一八〇

一八一

一八二

一八三

一八四

一八五

一八六

一八七

一八八

一八九

一九〇

一九一

一九二

一九三

一九四

一九五

一九六

一九七

一九八

一九九

二〇〇

二〇一

二〇二

二〇三

二〇四

二〇五

二〇六

二〇七

二〇八

二〇九

二一〇

二一一

二一二

二一三

二一四

二一五

二一六

二一七

二一八

二一九

二二〇

二二一

二二二

二二三

二二四

二二五

二二六

二二七

二二八

二二九

二三〇

二三一

二三二

二三三

二三四

二三五

二三六

二三七

二三八

二三九

二四〇

二四一

二四二

二四三

二四四

二四五

二四六

二四七

二四八

二四九

二五〇

二五一

二五二

二五三

二五四

二五五

二五六

二五七

二五八

二五九

二六〇

二六一

二六二

二六三

二六四

二六五

二六六

二六七

二六八

その心はわたしから遠く離れ、
彼らのわたしをかしこみ恐れるのは、
そらで覚えた人の戒めによるのである。

一四 それゆえ、見よ、わたしはこの民に、
再び驚くべきわざを行う、

それは不思議な驚くべきわざである。
彼らのうちの賢い人の知恵は滅び、
さとい人の知識は隠される」。

一五 わざわいなるかな、
おのが計りごとを主に深く隠す者、
彼らは暗い中でわざを行い、

「だれがわれわれを見るか、
だれがわれわれのことを知るか」と言う。

一六 あなたがたは転倒して考えている。
陶器師は粘土と同じものに思われるだろうか。
造られた物はそれを造った者について、

「彼はわたしを造らなかつた」と言い、
形造られた物は形造った者について、

「彼は知恵がない」と言うことができようか。

一七 しばらくしてレバノンのは変って肥えた畑となり、
肥えた畑は林のように
思われる時が来るではないか。

一八 その日、耳しいは書物の言葉を聞き、
目しいの目はその暗やみから、見ることが出来る。

一九 柔和な者は主によって新たな喜びを得、
人のなかの貧しい者は

イスラエルの聖者によって楽しみを得る。

二〇 あらぶる者は絶え、
あざける者はうせ、
悪を行うおうと、おりをうかがう者は、

ことごとく断ち滅ぼされるからである。

二一 彼らは言葉によって人を罪に定め、
町の門でいさめる者をわなにおとし入れ、
むなししい言葉をかまえて正しい者をしりぞける。

二二 それゆえ、昔アブラハムをあがなわれた主は、ヤコブの家についてこう言われる、

「ヤコブは、もはやはずかしめを受けず、

その顔は、もはや色を失うことはない。

二三 彼の子孫が、その中にわが手のわざを見るとき、
彼らはわが名を聖とし、

ヤコブの聖者を聖として、

イスラエルの神を恐れる。

二四 心のあやまれる者も、悟りを得、

つぶやく者も教をうける」。

第三〇章

「主は言われる、
「そむける子らはわざわいだ、

彼らは計りごとを行うけれども、

わたしによってではない。

彼らは同盟を結ぶけれども、

わが霊によってではない、

罪に罪を加えるためだ。

二 彼らはわが言葉を求めず、

エジプトへ下って行って、パロの保護にたより、

三 それゆえ、パロの保護は

かえってあなたがたの恥となり、

エジプトの陰に隠れることは

あなたがたのはずかしめとなる。

四 たとい、彼の君たちがゾアンにあり、

彼の使者たちがハネスに来て、

五 彼らは皆おのれを益することのできない民により、

すなわち助けとならず、益とならず、

かえって恥となり、はずかしめとなる民によって、

恥をかくからである」。

六 ネゲブの獣についての託宣。

彼らはその富を若いるばの背に負わせ、

その宝をらくだの背に負わせて、

雌じし、雄じし、まむしおよび飛びかけるへびの出る

悩みと苦しみの国を通して、

おのれを益することのできない民に行く。

七 そのエジプトの助けは無益であって、むなし。

それゆえ、わたしはこれを

「休んでいるラハブ」と呼んだ。

八 いま行って、これを彼らの前で札にしるし、

書物に載せ、

後の世に伝えて、とこしえにあかしとせよ。

九 彼らはそむける民、偽りを言う子ら、

主の教を聞こうとしない子らだ。

一〇 彼らは先見者にむかって「見るな」と言い、

預言者にむかっては

「正しい事をわれわれに預言するな、

耳に聞きよいことを語れ、迷わしことを預言せよ。

二 大路を去り、小路をはなれ、

イスラエルの聖者について語り聞かすな」と言う。

三 それゆえ、イスラエルの聖者はこう言われる、

「あなたがたはこの言葉を侮り、

しえたげと、よこしまとを頼み、

これにたよるがゆえに、

三 この不義はあなたがたには

突き出て、くずれ落ちようとする高い石がきの

破れのようにあつて、

その倒壊はにわかに、またたくまに来る。

「四」その破れることは陶器師の器を破るように惜しむことなく打ち砕き、

その砕けのなかには、炉から火を取り、池から水をくめるほどの、ひとかけらさえ見いだされない」。

「五」主なる神、イスラエルの聖者はこう言われた、

「あなたがたは立ち返って、

落ち着いてゐるならば救われ、

穏やかにして信頼してゐるならば力を得る」。

しかし、あなたがたはこの事を好まなかった。

「六」かえって、あなたがたは言った、

「否、われわれは馬に乗って、とんで行こう」と。

それゆえ、あなたがたはとんで帰る。

また言った、「われらは速い馬に乘ろう」と。

それゆえ、あなたがたを追う者は速い。

「七」ひとりの威嚇によって千人は逃げ、

五人の威嚇によってあなたがたは逃げて、

その残る者はわずかに

山の頂にある旗ざおのように、

丘の上にある旗のようになる。

「八」それゆえ、主は待っていて、

あなたがたに恵みを施される。

それゆえ、主は立ちあがって、

あなたがたをあわれまれる。

主は公平の神でいらせられる。

すべて主を待ち望む者はさいわいである。

「九」シオンにおり、エルサレムに住む民よ、あなたはも

はや泣くことはない。主はあなたの呼ばわる声に応じて、

必ずあなたがたに恵みを施される。主がそれを聞かれるとき、

直ちに答えられる。二〇たとい主はあなたがたに悩みのパ

ンと苦しみの水を与えられても、あなたの師は再び隠れ

ることはなく、あなたの目はあなたの師を見る。二一また、

あなたが右に行き、あるいは左に行く時、そのうしろ

で「これは道だ、これに歩め」と言う言葉を耳に聞く。

二二その時、あなたがたはしろがねをおおった刻んだ像と、

こがねを張った鍔た像とを汚し、これをきたない物のよ

うにまき散らして、これに「去れ」と言う。

二三主はあなたがたが地にまく種に雨を与え、地の産物なる

穀物をくださる。それはおびただしく、かつ豊かであ

る。その日あなたの家畜は広い牧場で草を食べ、二四地を

耕す牛と、ろばは、シヤベルと、くまででより分けて塩

を加えた飼料を食べる。二五大いなる虐殺の日、やぐらの

倒れる時、すべてのそびえたつ山と、すべての高い丘に

水の流れる川がある。二六さらに主がその民の傷を包み、

その打たれた傷をいやされる日には、月の光は日の光の

ようになり、日の光は七倍となり、七つの日の光のよう

になる。

三七見よ、主の名は遠い所から

燃える怒りと、立ちあがる濃い煙をもって来る。

そのくちびるは憤りで満ち、

その舌は焼きつくす火のごとく、

三八その息はあふれて首にまで達する

流れのようであって、

滅びのふるいをもってもろもろの国をふるい、

また惑わす手綱を

もろもろの民のあごにつけるために来る。

三九あなたがたは、聖なる祭を守る夜のように歌をうた

う。また笛をならして主の山にきたり、イスラエルの岩

なる主にまみえる時のように心に喜ぶ。四〇主はその威厳

ある声を聞かせ、激しい怒りと、焼きつくす火の炎と、

豪雨と、暴風と、ひょうとをもってその腕の下ることを

示される。四一主がそのむちをもって打たれる時、アッス

リヤの人々は主の声によって恐れおののく。四二主が懲ら

しめのつえを彼らの上に加えられるごとに鼓を鳴らし、

琴をひく。主は腕を振りかざして、彼らと戦われる。

四三焼き場はすでに設けられた。しかも王のために深く広

く備えられ、火と多くのたきが積まれてある。主の息

はこれを硫黄の流れのように燃やす。

第三一章 助けを得るためにエジプトに下り、

馬にたよる者はわざわいだ。

四四彼らは戦車が多いので、これに信頼し、

騎兵がはなはだ強いので、これに信頼する。

四五しかしイスラエルの聖者を仰がず、

また主にはかることをしない。

四六それにもかかわらず、主もまた賢くいらせられ、

必ず災をくだし、その言葉を取り消すことなく、

立って悪をなす者の家を攻め、

また不義を行う者を助ける者を攻められる。

四七そのエジプトびとは人であって、神ではない。

四八その馬は肉であって、霊ではない。

四九主がみ手を伸ばされるとき、

助ける者はつまずき、

助けられる者も倒れて、皆ともに滅びる。

五〇主はわたしにこう言われた、

「ししまたは若いししが獲物をつかんで、

ほえたけるとき、

あまたの羊飼が呼び出されて、これにむかって、

その声によって驚かず、

その叫びによって恐れないうように、

万軍の主は下ってきて、

シオンの山およびその丘で戦われる。

五二鳥がひなを守るように、

五三

万軍の主はエルサレムを守り、
これを守って救い、これを惜しんで助けられる」。

六 イスラエルの人々よ、主に帰れ。あなたがたは、はな
はだしく主にそむいた。七 その日、あなたがたは自分の
手で造って罪を犯したしろがねの偶像と、こがねの偶像
をめいめい投げすてる。

八 「アッスリヤびとはつるぎによって倒れる、

人のつるぎではない。
つるぎが彼らを滅ぼす、
人のつるぎではない。

彼らはつるぎの前から逃げ去り、
その若い者は奴隷の働きをしられる。
九 彼らの岩は恐れによって過ぎ去り、
その君たちはあわて、旗をすてて逃げ去る」。

これは主の言葉である。

主の火はシオンにあり、その炉はエルサレムにある。

第三二章 一見よ、ひとりの王が

正義をもって統べ治め、

君たちは公平をもってつかさどり、

二 おのおの風をさける所、

暴風雨をのがれる所のようになり、

かわいた所にある水の流れのように、

疲れた地にある大きな岩の陰のようになる。

三 こうして、見る者の目は開かれ、

四 聞く者の耳はよく聞き、
気短な者の心は悟る知識を得、

どもりの舌はたやすく、

あざやかに語ることが出来る。

五 愚かな者は、もはや尊い人と呼ばれることなく、

悪人はもはや、りっぱな人と言われることはない。

六 それは愚かな者は愚かなことを語り、

その心は不義をたくらみ、よこしまを行い、

主について誤ったことを語り、

飢えた者の望みを満たさず、

かわいた者の飲み物を奪い取るからである。

七 悪人の行いは悪い。

彼は悪い計りごとをめぐらし、

偽りの言葉をもって貧しい者をおとしいれ、

乏しい者が正しいことを語っても、

なお、これをおとしいれる。

八 しかし尊い人は尊いことを語り、

つねに尊いことを行う。

九 安んじている女たちよ、起きて、わが声を聞け。

思い煩いなき娘たちよ、わが言葉に耳を傾けよ。

一〇 思い煩いなき女たちよ、

一年あまりの日をすぎて、

あなたがたは震えおののく。

ぶどうの収穫がむなく、
実を取り入れる時が来ないからだ。

二 安んじている女たちよ、震え恐れよ。

思い煩いなき女たちよ、震えおののけ。

衣をぬぎ、裸になって腰に荒布をまとう。

三 良き畑のため、

実り豊かなぶどうの木のために胸を打て。

三 いばら、おどろの生えているわが民の地のため、

喜びに満ちている町にある

すべての喜びの家のために胸を打て。

四 宮殿は捨てられ、にぎわった町は荒れすたれ、

丘と、やぐらとは、とこしえにほら穴となり、

野のろばの楽しむ所、

羊の群れの牧場となるからである。

二五 しかし、ついには霊が上から

われわれの上にそそがれて、

荒野は良き畑となり、

良き畑は林のごとく見られるようになる。

二六 その時、公平は荒野に住み、

正義は良き畑にやどる。

二七 正義は平和を生じ、

正義の結ぶ実とはとこしえの平安と信頼である。

二八 わが民は平和の家におり、

安らかなすみかにおり、

静かな休み所におる。

一九 しかし林はことごとく切り倒され、

町もことごとく倒される。

二〇 すべての水のほとりに種をまき、

牛およびろばを自由に放ちおくあなたがたは、

さいわいである。

第 三 章

一 わざわいなるかな、

おのれ自ら滅ぼされないので、人を滅ぼし、

だれも欺かないのに人を欺く者よ。

あなたが滅ぼすことをやめたとき、

あなたは滅ぼされ、

あなたが欺くことを終えたとき、

あなたは欺かれる。

二 主よ、われわれをお恵みください、

われわれはあなたを待ち望む。

朝ごとに、われわれの腕となり、

悩みの時に、救となってください。

三 鳴りとどろく声によって、もろもろの民は逃げ去り、

あなたが立ちあがられると、

もろもろの国は散らされる。

四 青虫が物を集めるようにぶんどり品は集められ、

いなごのとびつどうように、

人々はその上にとびつどう。

五主は高くいらせられ、高い所に住まわれる。

主はシオンに公平と正義とを満たされる。

六また主は救と知恵と知識を豊かにして、

あなたの代を強く立てられる。

主を恐れることはその宝である。

七見よ、勇士たちは外にあって叫び、

平和の使者はいたく嘆く。

八大路は荒れすたれて、旅びとは絶え、

契約は破られ、証人は軽んぜられ、

人を顧みることがない。

九地は嘆き衰え、

レバノンには恥じて枯れ、

シヤロンは荒野のようになり、

バシヤンとカルメルはその葉を落す。

一〇主は言われる、

「今わたしは起きよう、いま立ちあがろう、

いま自らを高くしよう。

二あなたがたは、もみがらをはらみ、わらを産む。

あなたがたの息は火となって、

あなたがたを食いつくす。

三もろもろの民は焼かれて石灰のようになり、

いばらが切られて火に燃やされたようになる」。

一三

あなたがた遠くにいる者よ、

わたしがおこなったことを聞け。

あなたがた近くににいる者よ、

わが大能を知れ。

一四

シオンの罪びとは恐れに満たされ、

おののきは神を恐れない者を捕えた。

「われわれのうち、だれが

焼きつくす火の中におることができよう。

とこしえの燃える火の中におることができよう」。

一五

正しく歩む者、正直に語る者、

しえたげて得た利をいやしめる者、

手を振って、まいたいを取らない者、

耳をふさいで血を流す謀略を聞かない者、

一六

目を閉じて悪を見ない者、

堅い岩はそのとりでとなり、

そのパンは与えられ、その水は絶えることがない。

一七

あなたの目は麗しく飾った王を見、

一八

遠く広い国を見る。

あなたがたの心はかの恐ろしかった事を思い出す。

「数を調べた者はどこに在るか。」

みつぎを量つた者はどこに在るか。

やぐらを数えた者はどこに在るか。」

一九 あなたはもはや高慢な民を見ない。

かの民の言葉はあいまいで、聞きとりがたく、

その舌はどもって、悟りがたい。

二〇 定め祭の町シオンを見よ。

あなたの目は平和なすまい、

移されることのない幕屋エルサレムを見る。

その杭はとこしえに抜かれず、

その綱は、ひとすじも断たれることはない。

二一 主は威厳をもってかしこにいまし、

われわれのために広い川と流れのある所となり、

その中には、こぐ舟も入らず、

大きな船も過ぎることはない。

二二 主はわれわれのさばき主、

主はわれわれのつかさ、

主はわれわれの王であつて、われわれを救われる。

二三 あなたは船綱は解けて、

帆柱のもとを結びかためることができず、

帆を張ることもできない。

その時多くの獲物とぶんどり品は分けられ、

足なえまでも獲物を取る。

二四 そこに住む者のうちには、

「わたしは病氣だ」と言う者はなく、

そこに住む民はその罪がゆるされる。

第三四章 一 もろもろの国よ、近づいて聞け。

もろもろの民よ、耳を傾けよ。

地とそれに満ちるもの、

世界とそれから出るすべてのものよ、聞け。

二 主はすべての国にむかつて怒り、

そのすべての軍勢にむかつて憤り、

彼らをことごとく滅ぼし、

彼らをわたしで、ほふらせられた。

三 彼らは殺されて投げすてられ、

その死体の悪臭は立ちのぼり、

山々はその血で溶けて流れる。

四 天の万象は衰え、

もろもろの天は巻物のように巻かれ、

その万象はぶどうの木から葉の落ちるように、

いちじくの木から葉の落ちるように落ちる。

五 わたしのつるぎは天において憤りをもって酔った。

見よ、これはエドムの上にくだり、

わたしが滅びに定めた民の上にくだつて、

これをさばく。

六 主のつるぎは血で満ち、脂肪で肥え、

小羊とやぎの血、

雄羊の腎臓の脂肪で肥えている。

主がボズラで犠牲の獣をほふり、

エドムの地で大いに殺されたからである。

野牛は彼らと共にほふり場にくだり、

子牛は力ある雄牛と共にくだる。

その国は血で酔い、

その土は脂肪で肥やされる。

主はあだをかえす日を持ち、

シオンの訴えのために報いられる年を

もたれるからである。

九 エドムのもろもろの川は變つて樹脂となり、

その土は變つて硫黄となり、

その地は變つて燃える樹脂となつて、

夜も昼も消えず、

その煙は、とこしえに立ちのぼる。

これは世々荒れすたれて、

とこしえまでもそこを通る者はない。

二 たかと、やまあらしとがそこをすみかとし、

ふくろうと、からすがそこに住む。

主はその上に荒廃をきたらせる測りなわを張り、

尊い人々の上に混乱を起す下げ振りをさげられる。

三 人々はこれを名づけて「国なき所」といい、

その君たちは皆うせてなくなる。

第

三五章

「荒野と、かわいた地とは楽しみ、

さばくは喜びて花咲き、さふらんのように、

二 さかんに花咲き、かつ歌う。

三 そのとりでの上には、いばらが生え、

その城には、いらくさと、あざみとが生え、

山犬のすみか、だちようのおる所となる。

四 野の獣はハイエナと出会い、

鬼神はその友を呼び、

夜の魔女もそこに降りてきて、休み所を得る。

五 ふくろうはそこに巢をつくつて卵を産み、

それをかえして、そのひなを翼の陰に集める。

六 とびもまた、おのおのその連れ合いと共に、

そこに集まる。

七 あなたがたは主の書をつまびらかにすべし、

たずねて、これを読め。王の軍は

これらのものは一つも欠けることなく、

また一つもその連れ合いを欠くものはない。

これは主の口がこれを命じ、

その霊が彼らを集められたからである。

八 主は彼らのためにくじを引き、

手ずから測りなわをもつて、この地を分け与え、

長く彼らに所有させ、

世々ここに住まわせられる。

これにレバノンの栄えが与えられ、カルメルおよびシヤロンの麗しさが与えられる。彼らは主の栄光を見、われわれの神の麗しさを見る。

三 あなたがたは弱った手を強くし、

よるめくひさを健やかにせよ。

四 心おののく者に言え、

「強くあれ、恐れてはならない。」

見よ、あなたがたの神は報復をもって臨み、

神の報いをもってこられる。

神は来て、あなたがたを救われる」と。

五 その時、目しいの目は開かれ、

耳しいの耳はあけられる。

六 その時、足なえは、しかのように飛び走り、

おしの舌は喜び歌う。

それは荒野に水がわきいで、

さばくに川が流れるからである。

七 焼けた砂は池となり、

かわいた地は水の源となり、

山犬の伏したすみかは、

葦、よしの茂りあう所となる。

八 そこに大路があり、

その道は聖なる道となえられる。

汚れた者はこれを通り過ぎることはできない、

愚かなる者はそこに迷い入ることはない。

九 そこには、ししはおらず、

飢えた獣も、その道にのぼることはなく、

その所でこれに会うことはない。

ただ、あがなわれた者のみ、そこを歩む。

一〇 主にあがなわれた者は帰ってきて、

その頭に、とこしえの喜びをいただき、

歌うたいつつ、シオンに来る。

彼らは楽しみと喜びとを得、

悲しみと嘆きとは逃げ去る。

第三十六章

一 ヒゼキヤ王の第十四年に、アッスリヤの王セナケリブが上ってきて、ユダのすべての堅固な

町々を攻め取った。ニアッスリヤの王はラキシからラブ

シヤケをエルサレムにつかわし、大軍を率いてヒゼキヤ

王のもとへ行かせた。ラブシヤケは布さらしの野へ行く

大路に沿う、上の池の水道のかたわらに立った。三 この

時ヒルキヤの子である宮内卿エリアキム、書記官セブナ

およびアサフの子である史官ヨアが彼の所に出てきた。

四 ラブシヤケは彼らに言った、「ヒゼキヤに言いなさい、

『大王アッスリヤの王はこう仰せられる、あなたが頼み

とする者は何か。五 口先だけの言葉が戦争をする計略と

力だとかえるのか。あなたは今だれを頼んで、わたしに

そむいたのか。六見よ、あなたはかの折れかけている葦の
つえエジプトを頼みとしてゐるが、それは人が寄りかか
るとき、その人の手を刺し通す。エジプトの王パロはす
べて寄り頼む者にそのようにするのだ。七しかし、あな
たがもし「われわれはわれわれの神、主を頼む」とわた
しに言うならば、ヒゼキヤがユダとエルサレムに告げて、
「あなたがたはこの祭壇の前で礼拝しなければならぬ」と
言つて除いたのは、その神の高き所と祭壇ではなかつ
たのか。八さあ、今わたしの主君アッスリヤの王とかけ
をせよ。もしあなたの方に乗る人があるならば、わたし
は馬二千頭を与えよう。九あなたはエジプトを頼み、戦
車と騎兵を請ひ求めているが、わたしの主君の家来のう
ちの最も小さい一隊長でさえ、どうして撃退することが
できようか。一〇わたしがこの国を滅ぼすために上つてき
たのは、主の許しなしでしたことであらうか。主はわた
しに、この国へ攻め上つて、これを滅ぼせと言われたの
だ」。

二その時、エリアキム、セブナおよびヨアはラブシャ
ケに言つた、「どうぞ、アラム語でもべたちに話してく
ださい。わたしたちはそれがわかるからです。城壁の上
にいる民の聞いているところで、わたしたちにユダヤの
言葉で話さないでください」。三しかしラブシャケは
言つた、「わたしの主君は、あなたの主君とあなたにだけ
でなく、城壁の上に座している人々にも、この言葉を告

げるために、わたしをつかわされたのではないか。彼ら
をも、あなたがたと共に自分の糞尿を食い飲みするに至
らせるためではないか」。

四そしてラブシャケは立ちあがり、ユダヤの言葉で大
声に呼ばわつて言つた、「大王、アッスリヤの王の言葉を
聞け。五王はこう仰せられる、『あなたがたはヒゼキヤに
欺かれてはならない。彼はあなたがたを救い出すことは
できない。六ヒゼキヤが、主は必ずわれわれを救い出さ
れる。この町はアッスリヤの王の手に陥ることはない、
七と言つても、あなたがたは主を頼みとしてはならない』。
八あなたがたはヒゼキヤの言葉を聞いてはならない。
アッスリヤの王はこう仰せられる、『あなたがたは、わた
しと和ぼくして、わたしに降服せよ。そうすれば、あな
たがたはめいめい自分のぶどうの実を食べ、めいめい自
分のいちじくの実を食べ、めいめい自分の井戸の水を飲
むことができる。九やがて、わたしが来て、あなたがた
を一つの国へ連れて行く。それは、あなたがたの国のよ
うに穀物とぶどう酒の多い地、パンとぶどう畑の多い地
だ。一〇ヒゼキヤが、主はわれわれを救われる、と言つて、
あなたがたを惑わすことのないように気をつけよ。もろ
もろの国の神々のうち、どの神がその国をアッスリヤの
王の手から救つたか。一一ハマテやアルパデの神々はどこ
にゐるか。セバルワイムの神々はどこにゐるか。彼らは
サマリヤをわたしの手から救い出したか。一二これらの国

国のすべての神々のうちに、だれかその国をわたしの手から救い出した者があるか。主がどうしてエルサレムをわたしの手から救い出すことができるか。』

「しかし民は黙ってひと言も答えなかつた。王が命じて、『彼に答えてはならない』と言つておいたからである。三その時ヒルキヤの子である宮内卿エリアキム、書記官セブナおよびアサフの子である史官ヨアは衣を裂き、ヒゼキヤのもとに来て、ラブシャケの言葉を彼に告げた。

第三十七章 ヒゼキヤ王はこれを聞いて、衣を裂き、荒布を身にまとい主の宮に入り、二宮内卿エリアキムと書記官セブナおよび祭司のうちの年長者たちに荒布をまといせて、アモツの子預言者イザヤのもとへつかわした。三彼らはイザヤに言つた、『ヒゼキヤはこう言います、『きようは悩みと責めと、はずかしめの日です。胎児がまさに生れようとして、これを産み出す力がないのです。四あなたの神、主は、あるいはラブシャケのもろもろの言葉を聞かれたかもしれません。彼はその主君アッスリヤの王につかわされて、生ける神をそしりました。あなたの神、主はその言葉を聞いて、あるいは責められるかもしれません。それゆえ、この残っている者のために祈をささげてください』。

五ヒゼキヤ王の家来たちがイザヤのもとに来たとき、イザヤは彼らに言つた、『あなたがたの主君にこう言いなさい、『主はこう仰せられる、アッスリヤの王のしもべ

らが、わたしをそしつた言葉を聞いて恐れるには及ばない。七見よ、わたしは一つの霊を彼のうちに送つて、一つのうわさを聞かせ、彼を自分の国へ帰らせて、その国でつるぎに倒れさせる』。

八ラブシャケは引き返して、アッスリヤの王がリブナを攻めているところへ行つた。彼は王がラキシを去つたことを聞いたからである。九この時、アッスリヤの王はエチオピアの王テルハカについて、『彼はあなたと戦うために出てきた』と人々が言うのを聞いた。彼はこのことを聞いて、使者をヒゼキヤにつかわそうとして言つた。一〇「エダの王ヒゼキヤにこう言いなさい、『あなたは、エルサレムはアッスリヤの王の手に陥ることはない、と言うあなたの信頼する神に欺かれてはならない。二あなたはアッスリヤの王たちが、国々にしたこと、彼らを全く滅ぼしたことを聞いています。どうしてあなたは救われることができるか。三わたしの先祖たちはゴザン、ハラ

ン、レゼブおよびテラサルにいたエデンの人々を滅ぼしたが、その国々の神々は彼らを救つたか。三ハマテの王、アルパデの王、セバルワイムの町の王、ヘナの王および

イワの王はどこにいるか』。

四ヒゼキヤは使者の手から手紙を受け取つてそれを読み、主の宮にのぼつていつて、主の前にそれをひろげ、五主に祈つて言つた、『六「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、万軍の主よ、地のすべての国のうち

で、ただあなただけが神でいらせられます。あなたは天と地を造られました。主よ、耳を傾けて聞いてください。主よ、目を開いて見てください。セナケリブが生ける神をそしるために書き送った言葉を聞いてください。主よ、まことにアッシリヤの王たちは、もろもろの民とその国々を滅ぼし、またその神々を火に投げ入れました。それらは神ではなく、人の手の造ったもので、木や石だから滅ぼされたのです。今われわれの神、主よ、どうぞ、われわれを彼の手から救い出してください。そうすれば地の国々は皆あなただけが主でいらせられることを知るようになるでしょう。

三その時アモツの子イザヤは人をつかわしてヒゼキヤに言った、「イスラエルの神、主はこう言われる、あなたはアッシリヤの王セナケリブについてわたしに祈ったゆえ、主が彼について語られた言葉はこうである、

『処女であるシオンの娘は

あなたを侮り、あなたをあざける。

エルサレムの娘は、あなたのうしろで頭を振る。

三あなたはだれをそしり、だれをのしったのか。

あなたはだれにむかつて声をあげ、

目を高くあげたのか。

イスラエルの聖者にむかつてだ。

二四あなたは、そのしもべらによって

主をそしって言った、主へはきこえず、

「わたしは多くの戦車を率いて山々の頂にのぼり、レバノンの奥へ行き、最も良いとすぎを切り倒し、たけの高い香柏と、またその果の高地へ行き、その密林にはいった。二五わたしは井戸を掘って水を飲んだ。

わたしは足の裏で

エジプトのすべての川を踏みからした」。

二六あなたは聞かなかったか、

昔わたしがそれを定めたことを。

堅固な町々を、

あなたがこわして荒塚とすることも、この頂をていにしえの日から、わたしが計画して

今それをきたらせたのだ。

二七そのうちに住む民は力弱く、

おののき恥をいだいて、

野の草のように、青菜のようになり、

育たずに枯れる屋根の草のようになった。

二八わたしは、あなたの座すること、出入りすること、

また、わたしにむかつて

怒り叫んだことをも知っている。

二九あなたが、わたしにむかつて怒り叫んだことと、

あなたの高慢な言葉とがわたしの耳にはいったゆえ、

わたしは、あなたの鼻に輪をつけ、

あなたの口にくつわをはめて、

あなたを、もと来た道へ引きもどす』。

三〇 あなたに与えるしるしはこれである。すなわち、こ
としは落ち穂から生えた物を食べ、二年目には、またそ
の落ち穂から生えた物を食べ、三年目には種をまき、刈
り入れ、ぶどう畑を作つてその実を食べる。三二 ユダの家
の、のがれて残る者は再び下に根を張り、上に実を結ぶ。
三三 すなわち残る者はエルサレムから出、のがれる者はシ
オンの山から出る。万軍の主の熱心がこれをなし遂げら
れる。

三三 それゆえ、主はアッスリヤの王について、こう仰せ
られる、『彼はこの町にこない。またここに矢を放たな
い。また盾をもつて、その前にこない。また塁を築いて、
これを攻めることはない。三四 彼は来た道から帰つて、こ
の町に、はいることはない、と主は言う。三五 わたしは自
分のため、また、わたしのしもべダビデのために町を
守つて、これを救おう』。

三六 主の使がでて、アッスリヤびとの陣営で十八万五千
人を撃ち殺した。人々が朝早く起きて見ると、彼らは皆
死体となつていた。三七 アッスリヤの王セナケリブは立ち
去り、帰つていつてニネベにいたが、三八 その神ニスロク
の神殿で礼拝していた時、その子らのアデラン・メレク
とシャレゼルがつるぎをもつて彼を殺し、ともにアララ
テの地へ逃げていった。それで、その子エサルハドンが

代つて王となつた。

第三十八章 「そのころヒゼキヤは病氣になつて死
にかかつていた。アモツの子預言者イザヤは彼のところ
に来て言つた、『主はこう仰せられます、あなたの家を整
えておきなさい。あなたは死にます、生きながらえるこ
とはできません。二そこでヒゼキヤは顔を壁に向けて主
に祈つて言つた、『ああ主よ、願わくは、わたしが眞実
と眞心とをもつて、み前に歩み、あなたの目になかう事
を行つたのを覚えてください』。そしてヒゼキヤはひど
く泣いた。四その時主の言葉がイザヤに臨んで言つた、
五行つて、ヒゼキヤに言いなさい、『あなたの父ダビデの
神、主はこう仰せられます、『わたしはあなたの祈を聞い
た。あなたの涙を見た。見よ、わたしはあなたのよわい
を十五年増そう。六わたしはあなたと、この町とをアッ
スリヤの王の手から救ひ、この町を守ろう』。

七主が約束されたことを行われることについては、あ
なたは主からこのしるしを得る。八見よ、わたしはアハ
ズの日時計の上に進んだ日影を十度退かせよう』。する
と日時計の上に進んだ日影が十度退いた。

九次の言葉はユダの王ヒゼキヤが病氣になつて、その
病氣が直つた後、書きしるしたものである。

一〇 わたしは言つた、わたしはわが一生のまっ盛りに、
去らなければならぬ。

わたしは陰府の門に閉ざされて、わが残りの年を失わなければならない。

二わたしは言った、わたしは生ける者の地で、

主を見ることなく、

世における人々のうちに、再び人を見ることのない。

三わがすまいは抜き去られて

羊飼の天幕のようにわたしを離れる。

わたしは、わが命を機織りのように巻いた。

彼はわたしを機織りから切り離す。

あなたは朝から夕までの間に、わたしを滅ぼされる。

四わたしは朝まで叫んだ。

主はししのようにわが骨をことごとく砕かれる。

あなたは朝から夕までの間に、わたしを滅ぼされる。

五わたしは、つばめのように、つるのように鳴き、

はとのようにうめき、

わが目は上を見て衰える。

主よ、わたしは、しえたげられています。

どうか、わたしの保証人となってください。

六しかし、わたしは何を言うことができましょう。

主はわたしに言われ、

かつ、自らそれをなされたからである。

わが魂の苦しみによって、

わが眠りはことごとく逃げ去った。

主よ、これらの事によって人は生きる。

わが霊の命もすべてこれらの事による。

どうか、わたしをいやし、

わたしを生かしてください。

七見よ、わたしが大いなる苦しみにあったのは、

わが幸福のためであった。

あなたはわが命を引きとめて、

滅びの穴をまぬかれさせられた。

これは、あなたがわが罪をことごとく、

あなたの後に捨てられたからである。

八陰府は、あなたに感謝することはできない。

死はあなたをさんびすることはできない。

墓にくだる者は、

あなたのまことを望むことはできない。

九ただ生ける者、生ける者のみ、

きょう、わたしがするように、あなたに感謝する。

父はあなたのまことを、その子らに知らせる。

十主はわたしを救われる。

われわれは世にあるかぎり、

主の家で琴にあわせて、歌をうたおう。

三イザヤは言った、「干いちじくのひとかたまりを持っ

てこさせ、それを腫物につけなさい。そうすれば直るで

しょう」。三ヒゼキヤはまた言った、「わたしが主の家に

上ることについて、どんなしるしがありましたか」。

第三十九章

「そのころ、ババダンの子であるバビロンの王メロダク・バラダンが手紙と贈り物を持たせて使節をヒゼキヤにつかわした。これはヒゼキヤが病気であったが、直ったことを聞いたからである。ニヒゼキヤは彼らを喜び迎えて、宝物の蔵、金銀、香料、貴重な油および武器倉、ならびにその倉庫にあるすべての物を彼らに見せた。家にある物も、国にある物も、ヒゼキヤが彼らに見せない物一つもなかった。三時に預言者イザヤはヒゼキヤ王のもとに来て言った、「あの人々は何を言いましたか。どこから来たのですか」。ヒゼキヤは言った、「彼らは遠い国から、すなわちバビロンから来たのです」。四イザヤは言った、「彼らは、あなたの家で何を見ましたか」。ヒゼキヤは答えて言った、「彼らは、わたしの家にある物を皆見ました。倉庫のうちには、彼らに見せなかった物一つもありません」。五そこでイザヤはヒゼキヤに言った、「万軍の主の言葉を聞きなさい。六見よ、すべてあなたの家にある物およびあなたの先祖たちが今日までに積みたくわえた物がバビロンに運び去られる日が来る。何も残るものはない、と主が言われます。七また、あなたの身から出るあなたの子たちも連れ去られて、バビロンの王の宮殿において宦官となるでしょう。八ヒゼキヤはイザヤに言った、「あなたが言われた主の言葉は結構です」。彼は「少なくとも自分が世にある間は太平と安全があるだろう」と思っ

たからである。

第四十章

「あなたがたの神は言われる、主の霊が慰めよ、わが民を慰めよ、二ねんごろにエルサレムに語り、これに呼ばわれ、その服役の期は終り、そのとがはすでにゆるされ、そのもろもろの罪のために二倍の刑罰を主の手から受けた」。三呼ばわる者の声がする、四荒野に主の道を備え、五さばくに、われわれの神のために、六大路をまっすぐにせよ。七もろもろの谷は高くせられ、八もろもろの山と丘とは低くせられ、九高低のある地は平らになり、一険しい所は平地となる。二こうして主の栄光があらわれ、三人は皆ともにこれを見る。四これは主の口が語られたのである。五声が聞える、「呼ばわれ」。六わたしは言った、「なんと呼ばわりましたか」。七人はみな草だ。八その麗しさは、すべて野の花のようだ。九主の息がその上に吹けば、一

草は枯れ、花はしぼむ。

たしかに人は草だ。

草は枯れ、花はしぼむ。

しかし、われわれの神の言葉は

とこしえに変わることはない。

九よきおとずれをシオンに伝える者よ、

高い山にのぼれ。

よきおとずれをエルサレムに伝える者よ、

強く声をあげよ、

声をあげて恐れるな。

ユダのもろもろの町に言え、

「あなたがたの神を見よ」と。

一〇見よ、主なる神は大能をもってこられ、

その腕は世を治める。

見よ、その報いは主と共にあり、

そのはたらきの報いは、そのみ前にある。

二主は牧者のようにその群れを養い、

そのかいな小羊をいだき、

そのふところに入れて携えゆき、

乳を飲ませているものをやさしく導かれる。

三だが、たなごころをもって海をはかり、

指を伸ばして天をはかり、

地のちりを耕に盛り、

てんびんをもって、もろもろの山をはかり、

はかりをもって、もろもろの丘をはかったか。

三だが、主の霊を導き、

その相談役となって主を教えたか。

四主はだれと相談して悟りを得たか。

だが主は主に公義の道を教え、

知識を教え、悟りの道を示したか。

五見よ、もろもろの国民は、おけの一しずくのように、

はかりの上のちりのように思われる。

見よ、主は島々を、ほこりのようにあげられる。

六レバノンには、たぎぎに足りない、

またその獣は、燔祭に足りない。

七主のみ前には、もろもろの国民は無きにひとしい。

彼らは主によって、無きもののように、

むなしなもののように思われる。

八それで、あなたがたは神をだれとくらべ、

どんな像と比較しようとするのか。

九偶像是細工人が鑄て造り、

鍛冶が、金をもって、それをおおい、

また、これがために銀の鎖を造る。

一〇貧しい者は、ささげ物として

朽ちることのない木を選び、

巧みな細工人を求めて、

動くことのない像を立たせる。

二 あなたがたは知らなかったか。

あなたがたは聞かなかったか。

三 初めから、あなたがたに伝えられなかったか。
地の基をおいた時から、

あなたがたは悟らなかつたか。

三 主は地球のはるか上に座して、

地に住む者をいなごのように見られる。

主は天を幕のようにひろげ、

これを住むべき天幕のように張り、

三 また、もろもろの君を無きものとせられ、

地のつかさたちを、むなしくされる。

二 彼らは、かろうじて植えられ、かろうじてまかれ、

その幹がかろうじて地に根をおろしたとき、

神がその上を吹かれると、彼らは枯れて、

わらのように、つむじ風にまき去られる。

二 聖者は言われる、

「それで、あなたがたは、わたしをだれにくらべ、

わたしは、だれにひとしいというのか」。

二 目を高くあげて、

だれが、これらのものを創造したかを見よ。

主は数をしらべて万軍をひきいだし、

おのおのをその名で呼ばれる。

その勢いの大きいなるにより、

またその力の強きがゆえに、

一つも欠けることはない。

二 ヤコブよ、何ゆえあなたは、

「わが道は主に隠れている」と言うか。

イスラエルよ、何ゆえあなたは、

「わが訴えはわが神に顧みられない」と言うか。

二 あなたは知らなかつたか、

あなたは聞かなかったか。

主はとこしえの神、地の果の創造者であつて、

弱ることなく、また疲れることなく、

その知恵ははかりがたい。

二 弱った者には力を与え、

勢いのない者には強さを増し加えられる。

三 年若い者も弱り、かつ疲れ、

壮年の者も疲れはてて倒れる。

三 しかし主を待ち望む者は新たなる力を得、

わしのように翼をはって、のぼることができる。

走つても疲れることなく、

歩いても弱ることはない。

第四章 海沿いの国々よ、

静かにして、わたしに聞け。

もろもろの民よ、力を新たにし、近づいて語れ。

われわれは共にさばきの座に近づこう。

二 だれが東から人を起したか。

彼はその行く所で勝利をもって迎えられ、

もろもろの国を征服し、

もろもろの王を足の下に踏みつけ、

そのつるぎをもって彼らをちりのようにし、

その弓をもって吹き去られる、わらのようにする。

三 彼はこれらの者を追って

その足のまだ踏んだことのない道を、

安らかに過ぎて行く。

四 だれがこの事を行ったか、なしたか。

だれが初めから世々の人々を呼び出したか。

主なるわたしは初めであって、

また終りと共にあり、わたしがそれだ。

五 海沿いの国々は見て恐れ、

地の果は、おののき、近づいて来た。

六 彼らはおのおのその隣を助け、

その兄弟たちに言う、「勇気を出せよ」と。

七 細工人は鍛冶を励まし、

鋤をもって平らかにする者は金敷きを打つ者に、

はんだづけについて言う、「それは良い」と。

また、くぎをもってそれを堅くし、

動くことのないようにする。

八 しかし、わがしもベイスラエルよ、

わたしの選んだヤコブ、

わが友アブラハムの子孫よ、

九 わたしは地の果から、あなたを連れてき、

地のすみずみから、あなたを召して、

あなたに言った、「あなたは、わたしのしもべ、

わたしは、あなたを選んで捨てなかった」と。

一〇 恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。

驚いてはならない、わたしはあなたの神である。

わたしはあなたを強くし、あなたを助け、

わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。

二 見よ、あなたにむかって怒る者はみな、

はじて、あわてふためき、

あなたと争う者は滅びて無に帰する。

三 あなたは、あなたと争う者を尋ねても見いださず、

あなたと戦う者は全く消えうせる。

四 あなたは、主なるわたしは

あなたの右の手をとってあなたに言う、

「恐れてはならない、わたしはあなたを助ける」。

五 主は言われる、「虫にひとしいヤコブよ、

イスラエルの人々よ、恐れてはならない。

わたしはあなたを助ける。

六 あなたをあがなう者はイスラエルの聖者である。

七 見よ、わたしはあなたを鋭い歯のある
新しい打穀機とする。

あなたは山を打って、これを粉々にし、
丘をもみがらのようにする。

あなたがあおげば風はこれを巻き去り、
つむじ風がこれを吹き散らす。

あなたは主によって喜び

イスラエルの聖者によって誇る。

貧しい者と乏しい者とは水を求めても、水がなく、
その舌がかわいて焼けているとき、

主なるわたしは彼らに答える、

イスラエルの神なるわたしは

彼らを捨てることがない。

わたしは裸の山に川を開き、

谷の中に泉をいだし、

荒野を池となし、かわいた地を水の源とする。

わたしは荒野に香柏、アカシヤ、

ミルトスおよびオリブの木を植え、

さばくに、いとすぎ、すずかけ、

からまつをとともに置く。

人々はこれを見て、主のみ手がこれをなし、

イスラエルの聖者がこれを創造されたことを知り、

かつ、よく考えて共に悟る」。

主は言われる、

「あなたがたの訴えを出せ」と。

ヤコブの王は言われる、

「あなたがたの証拠を持ってこい。聖者があ

それを待つてきて、起るべき事をわれわれに告げよ。

さきの事どもの何であるかを告げよ。

われわれはよく考えて、その結末を知ろう。

あるいはきたるべき事をわれわれに聞かせよ。

この後きたるべき事をわれわれに告げよ。

われわれはあなたがたが神であることを

知るであらう。

幸をください、あるいは災をください。

われわれは驚いて肝をつぶすであらう。

見よ、あなたがたは無きものである。

あなたがたのわざはむなし。

あなたがたを選ぶ者は憎むべき者である」。

わたしはひとりをして北からこさせ、

わが名を呼ぶ者を東からこさせる。

彼はもろもろのつかさを踏みつけて

しつこいようにし、

陶器師が粘土を踏むようにする。

だれか、初めからこの事を

われわれに告げ知らせたか。

だれか、あらかじめわれわれに告げて、

第

「彼は正しい」と言わせたか。

ひとりもこの事を告げた者はない。

ひとりも聞かせた者はない。

ひとりもあなたがたの言葉を聞いた者はない。

わたしははじめてこれをシオンに告げた。

わたしは、よきおとずれを伝える者を

エルサレムに与える。

しかし、わたしが見ると、ひとりもない。

彼らのなかには、わたしが尋ねても

答える助言者はひとりもない。

見よ、彼らはみな人を惑わす者であつて、

そのわざは無きもの、

その鑄た像はむなしき風である。

第二章 わたしの支持するわがしもべ、

わたしの喜ぶわが選り人を見よ。

わたしはわが靈を彼に与えた。

彼はもろもろの国びとに道をしめす。

彼は叫ぶことなく、声をあげることなく、

その声をちまたに聞えさせず、

また傷ついた葦を折ることなく、

ほのぐらい灯心を消すことなく、

眞実をもって道をしめす。

彼は衰えず、落胆せず、

ついに道を地に確立する。

海沿いの国々はその教を待ち望む。

天を創造してこれをのべ、

地とそれに生ずるものをひらき、

その上の民に息を与え、

その中を歩む者に靈を与えられる

主なる神はこう言われる、

六「主なるわたしは正義をもってあなたを召した。

わたしはあなたの手を取り、あなたを守った。

わたしはあなたを民の契約とし、

もろもろの国びとの光として与え、

盲人の目を開き、

囚人を地下の獄屋から出し、

暗きに座する者を獄屋から出させる。

わたしは主である、これがわたしの名である。

わたしはわが榮光をほかの者に与えない。

また、わが譽を刻んだ像に与えない。

見よ、さきに預言した事は起つた。

わたしは新しい事を告げよう。

その事がまだ起らない前に、

わたしはまず、あなたがたに知らせよう」。

主にむかつて新しき歌をうたえ。

地の果から主をほめたたえよ。

海とその中に満ちるもの、
海沿いの国々とそれに住む者とは鳴りどよめ。

二 荒野とその中のもろもろの町と、

ケダルびとの住むもろもろの村里は声をあげよ。

セラの民は喜びうたえ。

山の頂から呼ばわり叫べ。

三 栄光を主に帰し、

その誉を海沿いの国々で語り告げよ。

四 主は勇士のように出て行き、

いくさ人のように熱心を起し、

ときの声をあげて呼ばわり、

その敵にむかって大能をあらわされる。

五 わたしは久しく声を出さず、

黙して、おのれをおさえていた。

今わたしは子を産もうとする女のように叫ぶ。

わたしの息は切れ、かつあえぐ。

六 わたしは山と丘とを荒し、

すべての草を枯らし、

もろもろの川を島とし、

もろもろの池をからす。

七 わたしは目しいを

彼らのまだ知らない大路に行かせ、

まだ知らない道に導き、

暗きをその前に光とし、
高低のある所を平らにする。

わたしはこれらの事をおこなって彼らを捨てない。

七 刻んだ偶像に頼み、鑄た偶像にむかって

「あなたがたは、われわれの神である」と言う者は
退けられて、大いに恥をかく。

八 耳しいよ、聞け。

目しいよ、目を注いで見よ。

九 だれか、わがしもべのほかに目しいがあるか。

だれか、わがつかわす使者のような耳しいがあるか。

だれか、わが献身者のような目しいがあるか。

だれか、主のしもべのような目しいがあるか。

一〇 彼は多くの事を見ても認めず、

耳を開いても聞かない。

一一 主はおのれの義のために、

その教を大いなるものとし、

かつ光栄あるものとすることを喜ばれた。

一二 ところが、この民はかすめられ、奪われて、

みな穴の中に捕われ、獄屋の中に閉じこめられた。

彼らはかすめられても助ける者がなく、

物を奪われても「もどせ」と言う者もない。

一三 あなたがたのうち、

だれがこの事に耳を傾けるだろうか、

だれが心をもちいて
後のためにこれを聞くだろうか。

二四 ヤコブを奪わせた者はだれか。
かすめる者にイスラエルをわたした者はだれか。

これは主ではないか。

われわれは主にむかつて罪を犯し、

その道に歩むことを好まず、

またその教に従うことを好まなかった。

三五 それゆえ、主は激しい怒りと、

猛烈な戦いを彼らに臨ませられた。

それが火のように周囲に燃えても、彼らは悟らず、

彼らを焼いても、心にとめなかった。

第四三章 「ヤコブよ、あなたを創造された主は

こう言われる。イスラエルよ、あなたを造られた主はい

まこう言われる、

「恐れるな、わたしはあなたをあがなった。

わたしはあなたの名を呼んだ、

あなたはわたしのものだ。

二 あなたが水の中を過ぎるとき、

わたしはあなたと共にいる。

川の中を過ぎるとき、

水はあなたの上にあふれることがない。

あなたが火の中を行くとき、焼かれることもなく、

炎もあなたに燃えつくことがない。

三 わたしはあなたの神、主である、
イスラエルの聖者、あなたの救主である。

わたしはエジプトを与えて

あなたのあがないしろとし、

エチオピアとセバとをあなたの代りとする。

四 あなたはわが目に尊く、重んぜられるもの、

わたしはあなたを愛するがゆえに、

あなたの代りに人を与え、

あなたの命の代りに民を与える。

五 恐れるな、わたしはあなたと共にいる。

わたしは、あなたの子孫を東からこさせ、

西からあなたを集める。

六 わたしは北にむかつて『ゆるせ』と言ひ、

南にむかつて『留めるな』と言う。

わが子らを遠くからこさせ、

わが娘らを地の果からこさせよ。

七 すべてわが名をもってとなえられる者をこさせよ。

わたしは彼らをわが栄光のために創造し、

これを造り、これを仕立てた」。

八 目があっても目しいのような民、

耳があっても耳しいのような民を連れ出せ。

九 国々はみな相つどい、

もろもろの民は集まれ。

彼らのうち、だれがこの事を告げ、

さきの事どもを、

われわれに聞かせることができるか。

その証人を出して、おのれの正しい事を証明させ、

それを聞いて「これは真実だ」と言わせよ。

主は言われる、「あなたがたはわが証人、

わたしが選んだわがしもべである。

それゆえ、あなたがたは知って、わたしを信じ、

わたしが主であることを悟ることができる。

わたしより前に造られた神はなく、

わたしより後にもない。

ただわたしのみ主である。

わたしのほかに救う者はいない。

わたしはさきに告げ、かつ救い、かつ聞かせた。

あなたがたのうちには、ほかの神はなかった。

あなたがたはわが証人である」と主は言われる。

わたしは神である、今より後もわたしは主である。

わが手から救い出しうる者はない。

わたしがおこなえば、

だれが、これをとどめることができるか。

あなたがたをあがなう者、イスラエルの聖者、

主はこう言われる、

「あなたがたのために、

わたしは人をバビロンにつかわし、

すべての貫の木をこわし、

カルデヤびとの喜びの声を嘆きに変わらせる。

わたしは主、あなたがたの聖者、

イスラエルの創造者、あなたがたの王である」。

海のなかに大路を設け、

大いなる水の中に道をつくり、

戦車および馬、軍勢および兵士を出てこさせ、

これを倒して起きることができないようにし、

絶え滅ぼして、灯心の消えうせるようにされる

主はこう言われる、

「あなたがたは、さきの事を思い出してはならない、

また、いにしえのことを考えてはならない。

見よ、わたしは新しい事をなす。

やがてそれは起る、

あなたがたはそれを知らないのか。

わたしは荒野に道を設け、

さばくに川を流れさせる。

野の獣はわたしをあがめ、

山犬および、だちようもわたしをあがめる。

わたしが荒野に水をいだし、

さばくに川を流れさせて、

わたしの選んだ民に飲ませるからだ。

この民は、わが誉を述べさせるために

わたしが自分のために造ったものである。

三 ところがヤコブよ、あなたはわたしを呼ばなかった。

イスラエルよ、あなたはわたしをうとんじた。

三三 あなたは燔祭の羊をわたしに持ってこなかった。

また犠牲をもってわたしをあがめなかった。

わたしは供え物の重荷をあなたに負わせなかった。

また乳香をもってあなたを煩わさなかった。

三四 あなたは金を出して、

わたしのために菖蒲を買わず、

犠牲の脂肪を供えて、わたしを飽かせず、

かえって、あなたの罪の重荷をわたしに負わせ、

あなたの不義をもって、わたしを煩わせた。

三五 わたしこそ、わたし自身のために

あなたのとがを消す者である。

わたしは、あなたの罪を心にとめない。

三六 あなたは、自分の正しいことを証明するために

自分のことを述べて、わたしに思い出させよ。

われわれは共に論じよう。

三七 あなたの遠い先祖は罪を犯し、

あなたの仲保者らはわたしにそむいた。

ニ八 それゆえ、わたしは聖所の君たちを汚し、

ヤコブを全き滅びにわたし、

イスラエルをののしらしめた。

第四四章 一 しかし、わがしもベヤコブよ、

わたしが選んだイスラエルよ、いま聞け。

二 あなたを造り、あなたを胎内に形造り、

あなたを助ける主はこう言われる、

『わがしもベヤコブよ、

わたしが選んだエシユルンよ、恐れるな。

三 わたしは、かわいた地に水を注ぎ、

干からびた地に流れをそそぎ、

わが霊をあなたの子らにそそぎ、

わが恵みをあなたの子孫に与えるからである。

四 こうして、彼らは水の中の草のように、

流れのほとりの柳のように、生え育つ。

五 ある人は「わたしは主のものである」と言い、

ある人はヤコブの名をもって自分を呼び、

またある人は「主のものである」と手にしるして、

イスラエルの名をもって自分を呼ぶ。』

六 主、イスラエルの王、イスラエルをあがなう者、

万軍の主はこう言われる、

『わたしは初めであり、わたしは終りである。』

七 わたしのほかに神はない。

七だれかわたしに等しい者があるか。

その者はそれを示し、またそれを告げ、

わが前に言いつらねよ。

だれが、昔から、きたるべき事を聞かせたか。

その者はやがて成るべき事をわれわれに告げよ。

恐れてはならない、またおののいてはならない。

わたしはこの事を昔から、

あなたがたに聞かせなかつたか、

また告げなかつたか。

あなたがたはわが証人である。

わたしのほかに神があるか。

わたしはそのあることを知らない。

偶像を造る者は皆むなしく、彼らの喜ぶところのも

のは、なんの役にも立たない。その信者は見ることも

なく、また知ることもない。ゆえに彼らは恥を受ける。

だれが神を造り、またなんの役にも立たない偶像を鑄

たか。二見よ、その仲間は皆恥を受ける。その細工人ら

は人間にすぎない。彼らが皆集まって立つとき、恐れて

共に恥じる。

三鉄の細工人はこれを作るのに炭の火をもって細工

し、鋸をもってこれを造り、強い腕をもってこれを鍛え

る。彼が飢えれば力は衰え、水を飲まなければ疲れはて

る。三木の細工人は線を引き、鉛筆でえがき、かんなど

削り、コンパスでえがき、それを人の美しい姿にした

がって人の形に造り、家の中に安置する。四彼は香柏を

切り倒し、あるいはかしの木、あるいはかしの木を選

んで、それを林の木の中で強く育てる。あるいは香柏を

植え、雨にそれを育てさせる。五こうして人はその一

部をとって、たきぎとし、これをもって身を暖め、また

これを燃やしてパンを焼き、また他の一部を神に造って

拝み、刻んだ像に造ってその前にひれ伏す。六その半ば

は火に燃やし、その半ばで肉を煮て食べ、あるいは肉を

あぶって食べ飽き、また身を暖めて言う、「ああ、暖まっ

た、熱くなった」と。七そしてその余りをもって神を

造って偶像とし、その前にひれ伏して拝み、これに祈っ

て、「あなたはわが神だ、わたしを救え」と言う。

八これらの人は知ることがなく、また悟ることがない。

その目はふさがれて見ることができず、その心は鈍く

なって悟ることができない。九その心のうちに思うこと

をせず、また知識がなく、悟りがないために、「わたしは

その半ばを火に燃やし、またその炭火の上でパンを焼き、

肉をあぶって食べ、その残りの木をもって憎むべきもの

を造るのか。木のはしくれの前にひれ伏すのか」と言う

者もない。十彼は灰を食い、迷った心に惑わされて、お

のれを救うことができず、また「わが右の手に偽りがあ

るではないか」と言わない。

三ヤコブよ、イスラエルよ、これらの事を心にとめよ。

あなたはわがしもべだから。

わたしはあなたを造った、

あなたはわがしもべだ。

イスラエルよ、わたしはあなたを忘れない。

三 わたしはあなたのとがを雲のように吹き払い、

あなたの罪を霧のように消した。

わたしに立ち返れ、

わたしはあなたをあがなったから。

三 天よ、歌え、主がこの事をなされたから。

地の深き所よ、呼ばわれ。

もろもろの山よ、林およびその中のもろもろの木よ、

声を放って歌え。

主はヤコブをあがない、

イスラエルのうちに栄光をあらわされたから。

二四 あなたをあがない、

あなたを胎内に造られた主はこう言われる、

「わたしは主である。わたしはよろずの物を造り、

ただわたしだけが天をのべ、地をひらき、

——だれがわたしと共にいたか——

二五 偽る者のしるしをむなしくし、

占う者を狂わせ、

賢い者をうしろに退けて、その知識を愚かにする。

第

二六 わたしは、わがしもべの言葉を遂げさせ、

わが使の計りごとを成らせ、

エルサレムについては、

『これは民の住む所となる』と言ひ、

エダのもろもろの町については、

『ふたたび建てられる、

わたしはその荒れ跡を興そう』と言ひ、

二七 また淵については、『がわけ、わたしは

あなたのもろもろの川を干す』と言ひ、

二八 またクロスについては、『彼はわが牧者、

わが目的をことくなし遂げる』と言ひ、

エルサレムについては、

『ふたたび建てられる』と言ひ、

神殿については、

『あなたの基がすえられる』と言ひ。

四 五 章 「わたしはわが受膏者クロスの

右の手をとって、

もろもろの国をその前に従わせ、

もろもろの王の腰を解き、

とびらをその前に開かせて、

門を閉じさせない、と言われる主は

その受膏者クロスにこう言われる、

三 「わたしはあなたの前に行つて、

もろもろの山を平らにし、

青銅のとびらをこわし、鉄の貫の木を断ち切り、

三 あなたに、暗い所にある財宝と、

ひそかな所に隠した宝物とを与えて、

わたしは主、あなたの名を呼んだ

イスラエルの神であることをあなたに知らせよう。

四 わがしもベヤコブのために、

わたしの選んだイスラエルのために、

わたしはあなたの名を呼んだ。

あなたがわたしを知らなくても、

わたしはあなたに名を与えた。

五 わたしは主である。

わたしのほかに神はない、ひとりもない。

あなたがわたしを知らなくても、

わたしはあなたを強くする。

六 これは日の出る方から、また西の方から、

人々がわたしのほかに神のないことを

知るようになるためである。

わたしは主である、わたしのほかに神はない。

七 わたしは光をつくり、また暗きを創造し、

繁栄をつくり、またわざわいを創造する。

わたしは主である、

すべてこれらの事をなす者である。

八 天よ、上より水を注げ、

雲は義を降らせよ。

三 地は開けて救を生じ、また義をも、生えさせよ。

主なるわたしはこれを創造した。

九 陶器が陶器師と争うように、

おのれを造った者と争う者はわざわいだ。

粘土は陶器師にむかって

『あなたは何を造るか』と言ひ、

あるいは『あなたの造った物には手がなひ』と

言うだろうか。

一〇 父にむかって

『あなたは、なぜ子をもうけるのか』と言ひ、

あるいは女にむかって

『あなたは、なぜ産みの苦しみをするのか』と

言う者はわざわいだ。

二 イスラエルの聖者、

イスラエルを造られた主はこう言われる、

『あなたがたは、わが子らについてわたしに問い、

またわが手のわざについてわたしに命ずるのか。

三 わたしは地を造って、その上に人を創造した。

わたしは手をもって天をのべ、

その万軍を指揮した。

四 わたしは義をもってクロスを起した。

わたしは彼のすべての道をまっすぐにしよう。

彼はわが町を建て、わが捕囚を価のためでなく、また報いのためでもなく解き放つ」と
万軍の主は言われる。

一四 主はこう言われる、
「エジプトの富と、エチオピアの商品と、
たけの高いセバびとは

あなたに来て、あなたのものとなり、あなたに従い、
彼らは鎖につながれて来て、あなたの前にひれ伏し、
あなたに願って言う、

『神はただあなたと共にいまし、

このほかに神はなく、ひとりもない』。

一五 イスラエルの神、救主よ、

まことに、あなたは

ご自分を隠しておられる神である。

一六 偶像を造る者は皆恥を負い、はずかしめを受け、

ともに、あわてふためいて退く。

一七 しかし、イスラエルは主に救われて、

とこしえの救を得る。

あなたがたは世々かぎりなく、
恥を負わず、はずかしめを受けない。

一八 天を創造された主、すなわち神であって

また地をも造り成し、これを堅くし、
いたずらにこれを創造されず、
これを人のすみかに造られた主はこう言われる、
「わたしは主である、わたしのほかに神はない。
一八 わたしは隠れたところ、地の暗い所で語らず、
ヤコブの子孫に
『わたしを尋ねるのはむだだ』と言わなかった。
主なるわたしは正しい事を語り、
まっすぐな事を告げる。

二〇 もろもろの国からのがれてきた者よ、
集まってきて、共に近寄れ。
木像をにない、
救うことのできない神に祈る者は無知である。

二一 あなたがたの言い分を持ってきて述べよ。
また共に相談せよ。
この事をだれがいにしえから示したか。
だれが昔から告げたか。

わたし、すなわち主ではなかったか。
わたしのほかに神はない。
わたしは義なる神、救主であって、
わたしのほかに神はない。

二二 地の果なるもろもろの人よ、

第

わたしを仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。
わたしは神であつて、ほかに神はないからだ。
わたしは自分をさして誓つた、
わたしの口から出た正しい言葉は帰ることがない、
『すべてのひざはわが前にかがみ、
すべての舌は誓いをたてる』。

人はわたしについて言う、
『正義と力とは主にのみある』と。

人々は主にきたり、

主にむかつて怒る者は皆恥を受ける。

しかしイスラエルの子孫は皆
主によつて勝ち誇ることができぬ。

第六章 ヲベルは伏し、ネボはかがみ、

彼らの像は獣と家畜との上にある。

あなたがたが持ち歩いたものは荷となり、
疲れた獣の重荷となつた。

彼らはかがみ、彼らは共に伏し、
重荷となつた者を救ふことができず
かえつて、自分は捕われて行く。

「ヤコブの家よ、

イスラエルの家の残つたすべての者よ、
生れ出た時から、わたしに負われ、

胎を出た時から、わたしに持ち運ばれた者よ、
わたしに聞け。

わたしはあなたがたの年老いるまで変らず、
白髪となるまで、あなたがたを持ち運ぶ。

わたしは造つたゆえ、必ず負い、
持ち運び、かつ救う。

あなたがたは、わたしをだれにたぐい、

だれと等しくし、だれにくらべ、

かつなぞらえようとするのか。

彼らは袋からがねを注ぎ出し、
はかりをもつて、しろがねをはかり、

金細工人を雇つて、それを神に造らせ、

これにひれ伏して拝む。
七 彼らはこれをもたげて肩に載せ、

持つて行つて、その所に置き、そこに立たせる。

これはその所から動くことができない。

人がこれに呼ばわつても答えることができない。
また彼をその悩みから救ふことができない。

あなたがたはこの事をおぼえ、よく考えよ。

そむける者よ、この事を心にとめよ、

九 いにしえよりこのかたの事をおぼえよ。

わたしは神である、わたしのほかに神はない。

第

わたしは神である、わたしと等しい者はない。

○わたしは終りの事を初めから告げ、

まだなされない事を昔から告げて言う、

『わたしの計りことは必ず成り、

わが目的をことごとくなし遂げる』と。

二わたしは東から猛禽を招き、

遠い国からわが計りごとを行う人を招く。

わたしはこの事を語ったゆえ、必ずこさせる。

わたしはこの事をはかったゆえ、必ず行う。

三心をかたくなにして、救に遠い者よ、

わたしに聞け。

三わたしはわが救を近づかせるゆえ、

その来ることは遠くない。

わが救はおそくない。

わたしは救をシオンに与え、

わが栄光をイスラエルに与える」。

四七章 「処女なるバビロンの娘よ、

下って、ちりの中にすわれ。

カルデヤびとの娘よ、

王座のない地にすわれ。

あなたはもはや、やさしく、たおやかな女と

となえられることはない。

二石うすをとって粉をひけ、

顔おいを取り去り、うちぎを脱ぎ、

すねをあらわして川を渡れ。

三あなたの裸はあらわれ、

あなたの恥は見られる。

わたしはあだを報いて、何人をも助けない。

四われわれをあがなう者は

その名を万軍の主といい、

イスラエルの聖者である。

五カルデヤびとの娘よ、

黙してすわれ、また暗い所にはいれ。

あなたはもはや、もろもろの国の女王と

となえられることはない。

六わたしはわが民を憤り、

わが嗣業を汚して、これをあなたの手に渡した。

あなたはこれに、あわれみを施さず、

年老いた者の上に、はなはだ重いくびきを負わせた。

七あなたは言った、

「わたしは、とこしえに女王となる」と。

そして、あなたはこれらの事を心にとめず、

またその終りを思わなかった。

八楽しみにふけり、安らかにおり、

心のうちに「ただわたしだけで、

わたしのほかにだれもなく、

わたしは寡婦となることはない、
また子を失うことはない」と言う者よ、
今この事を聞け。

九これらの二つの事は一日のうちに、

またたくまにあなたに臨む。

すなわち子を失い、寡婦となる事は

たといあなたが多くの魔術を行い、

魔法の大いなる力をもつてしても

ことごとくあなたに臨む。

一〇あなたは自分の惡に寄り頼んで言う、

「わたしを見る者はない」と。

あなたの知恵と、あなたの知識とは

あなたを惑わした。

あなたは心のうちに言った、

「ただわたしだけで、わたしのほかにだれもない」と。

二しかし、わざわいが、あなたに臨む、

あなたは、それをあがなうことができない。

なやみが、あなたを襲う、

あなたは、それをつぐなうことができない。

滅びが、にわかあなたに臨む、

あなたは、それについて何も知らない。

三あなたが若い時から勤め行つたあなたの魔法と、

多くの魔術とをもつて立ちむかつてみよ、

あるいは成功するかもしれない、

第

四 八 章

「ヤコブの家よ、これを聞け。

あなたがたはイスラエルの名をもつてとなえられ、

ユダの腰から出、

主の名によって誓い、

イスラエルの神をとなえるけれども、

眞実をもつてせず、正義をもつてしない。

二彼らはみずから聖なる都のものとなえ、

イスラエルの神に寄り頼む。

その名は万軍の主という。

あるいは敵を恐れさせるかもしれない。

三あなたは多くの計りごとによつてうみ疲れた。

かの天を分かつ者、星を見る者、

新月によつて、あなたに臨む事を告げる者を

立ちあがらせて、あなたを救わせてみよ。

四見よ、彼らはわらのようになって、

火に焼き滅ぼされ、

自分の身を炎の勢いから、救い出すことができない。

その火は身を暖める炭火ではない、

またその前にすわるべき火でもない。

五あなたが勤めて行つたものと、

あなたの若い時からあなたと売り買いした者とは、

ついにこのようになる。

彼らはめいめい自分の方向にさすらいゆき、

ひとりもあなたを救う者はない。

三「わたしはさきに成った事を、いにしえから告げた。わたしは口から出して彼らに知らせた。

わたしは、にわかはこの事を行い、そして成った。

四わたしはあなたが、かたくなで、その首は鉄の筋、その額は青銅であることを知るゆえに、

五いにしえから、かの事をあなたに告げ、

その成らないさきに、これをあなたに聞かせた。

そうでなければ、あなたは言うだろう、

『わが偶像がこれをしたのだ、

わが刻んだ像と、鑄た像がこれを命じたのだ』と。

六あなたはすでに聞いた、

すべてこれが成ったことを見よ。

あなたがたはこれを宣べ伝えないのでか。

わたしは今から新しい事、

あなたがまだ知らない隠れた事を

あなたに聞かせよう。

七これらの事はいま創造されたので、

いにしえからあったのではない。

この日以前には、あなたはこれを聞かなかった。

そうでなければ、あなたは言うだろう、

『見よ、わたしはこれを知っていた』と。

八あなたはこれを聞くこともなく、知ることもなく、

あなたの耳は、いにしえから開かれなかった。

わたしはあなたが全く不信実で、

九生れながら反逆者となえられたことを知っていたからである。

十わが名のために、わたしは怒りをおそくする。

わが誉のために、わたしはこれをおさえて、

あなたを断ち滅ぼすことをしない。

一〇見よ、わたしはあなたを練った。

しかし銀のようにではなくて、

苦しみの炉をもってあなたを試みた。

二わたしは自分のために、自分のためにこれを行う。

どうしてわが名を汚させることができよう。

わたしはわが栄光を

ほかの者に与えることをしない。

三ヤコブよ、わたしの召したイスラエルよ、

わたしに聞け。

わたしはそれだ、わたしは初めであり、

わたしはまた終りである。

四わが手は地の基をすえ、

わが右の手は天をのべた。

五わたしと呼ぶと、彼らはもろともに立つ。

六あなたがたは皆集まって聞け。

七彼らのうち、だれがこれらの事を告げたか。

八主の愛せられる彼は

主のみこころをバビロンに行い、

その腕はカルデヤびとの上に臨む。

「五語ったのは、ただわたしであつて、わたしは彼を召した。」

わたしは彼を召した。

わたしは彼をこさせた。

彼はその道に榮える。

「六あなたがたはわたしに近寄つて、これを聞け。」

わたしは初めから、ひそかに語らなかつた。

それが成つた時から、わたしはそこにいたのだ。」

いま主なる神は、わたしとその霊とをつかわされた。

「七あなたのあがない主、イスラエルの聖者、主はこう言われる、

「わたしはあなたの神、主である。

わたしは、あなたの利益のために、あなたを教え、

あなたを導いて、その行くべき道に行かせる。

「八どうか、あなたはわたしの戒めに聞き従うように。

そうすれば、あなたの平安は川のように、

あなたの義は海の波のようになり、

「九あなたのすえは砂のように、

あなたの子孫は砂粒のようになつて、

その名はわが前から断たれることなく、

滅ぼされることはない。」

「一〇あなたがたはバビロンから出、

カルデヤからのがれよ。

喜びの聲をもつてこれをのべ聞かせ、

地の果にまで語り伝え、

「主はそのしもべ、ヤコブをあがなわれた」と言え。

「三主が彼らを導いて、さばくを通らせられたとき、

彼らは、かわいたことがなかつた。

主は彼らのために岩から水を流れさせ、

また岩を裂かれると、水がほとばしり出た。

「三主は言われた、

「悪い者には平安がない」と。

第四十九章 「海沿いの国々よ、わたしに聞け。

遠いところのもろもろの民よ、耳を傾けよ。

主はわたしを生れ出た時から召し、

母の胎を出た時からわが名を語り告げられた。

「二主はわが口を鋭利なつるぎとなし、

わたしをみ手の陰にかくし、

とぎすました矢となして、

敵にわたしを隠された。

「三また、わたしに言われた、

「あなたはわがしもべ、

わが栄光をあらわすべきイスラエルである」と。

「四しかし、わたしは言つた、

「わたしはいたずらに働き、

益なく、むなしく力を費した。」

しかもなお、まことにわが正しきは主と共にあり、わが報いはわが神と共にある」と。

五 ヤコブをおのれに帰らせ、イスラエルをおのれのもとに集めるために、わたしを腹の中からつくってそのしもべとされた主は言われる。

(わたしは主の前に尊ばれ、

わが神はわが力となられた)

六 主は言われる、

「あなたがわがしもべとなって、

ヤコブのもろもろの部族をおこし、

イスラエルのうちの残った者を帰らせることは、

いとも軽い事である。

わたしはあなたを、もろもろの国びとの光となして、

わが救を地の果にまでいたらせよう」と。

七 イスラエルのあがない主、

イスラエルの聖者なる主は、

人に侮られる者、民に忌みきらわれる者、

つかさたちのしもべにむかってこう言われる、

「もろもろの王は見て、立ちあがり、

もろもろの君は立って、拝する。

これは真実なる主、イスラエルの聖者が、

あなたを選ばれたゆえである」。

八 主はこう言われる、

「わたしは恵みの時に、あなたに答え、

救の日にあなたを助けた。

わたしはあなたを守り、

あなたを与えて民の契約とし、

国を興し、荒れすたれた地を嗣業として継がせる。

九 わたしは捕えられた人に『出よ』と言ひ、

暗きにおる者に『あらわれよ』と言う。

彼らは道すがら食ふことができ、

すべての裸の山にも牧草を得る。

一〇 彼らは飢えることがなく、かわくこともない。

また熱い風も、太陽も彼らを撃つことはない。

彼らをあわれむ者が彼らを導き、

泉のほとりに彼らを導かれるからだ。

一一 わたしは、わがもろもろの山を道とし、

わが大路を高くする。

一二 見よ、人々は遠くから来る。

見よ、人々は北から西から、

またスエネの地から来る」。

一三 天よ、歌え、地よ、喜べ。

もろもろの山よ、声を放って歌え。

主はその民を慰め、

その苦しむ者をあわれまれるからだ。

「しかしシオンは言った、

『主はわたしを捨て、主はわたしを忘れられた』と。

「女がその乳のみ子を忘れて、

その腹の子を、あわれまないようなことがあるうか。

たとい彼らが忘れるようなことがあっても、

わたしは、あなたを忘れることはない。

「見よ、わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ。

あなたの石がきは常にわが前にある。

「あなたを建てたる者は、あなたをこわす者を追い越し、

あなたを荒した者は、あなたから出て行く。

「あなたの目をあげて見まわせ。

彼らは皆集まって、あなたのもとに来る。

主は言われる、わたしは生きている、

あなたは彼らを皆、飾りとして身につけ、

花嫁の帯のようにこれを結ぶ。

「あなたの荒れ、かつすたれた所、こわされた地は、

住む人の多いために狭くなり、

あなたを、のみつくした者は、はるかに離れ去る。

「あなたが子を失った後に生れた子らは、

なおあなたの耳に言う、

『この所はわたしには狭すぎる、
わたしのために住むべき所を得させよ』と。

「三 その時あなたは心のうちに言う、

『だれがわたしのためにこれらの者を産んだのか。』

わたしは子を失って、子をもたない。

わたしは捕われ、かつ追いやられた。

だれがこれらの者を育てたのか。

見よ、わたしはひとり残された。

これらの者はどこから来たのか』と。

「三 主なる神はこう言われる、

『見よ、わたしは手をもろもろの国にむかってあげ、

旗をもろもろの民にむかって立てる。

彼らはそのふところにあなたの子らを携え、

その肩にあなたの娘たちを載せて来る。

「三 もろもろの王は、あなたの養父となり、

その王妃たちは、あなたの乳母となり、

彼らはその顔を地につけて、あなたにひれ伏し、

あなたの足のちりをなめる。

こうして、あなたはわたしが主であることを知る。

わたしを待ち望む者は恥をこうむることがない」。

「二四 勇士が奪った獲物を

どうして取り返すことができようか。

暴君がかすめた捕虜を

どうして救い出すことができようか。

第

五〇章

「主はこう言われる、

「わたしがあなたがたの母を去らせたその離縁状は、

どこにあるか。

わたしはどの債主にあなたがたを売りわたしたか。

見よ、あなたがたは、その不義のために売られ、

あなたがたの母は、

あなたがたのとがのために出されたのだ。

わたしが出来たとき、

なぜひとりもいなかったか。

わたしが呼んだとき、

なぜひとりも答える者がなかったか。

わたしの手が短くて、

あがなうことができないのか。

わたしは救う力を持たないのか。

二五 しかし主はこう言われる、

「勇士がかすめた捕虜も取り返され、

暴君が奪った獲物も救い出される。

わたしはあなたと争う者と争い、

あなたの子らを救うからである。

二六 わたしはあなたをしえたげる者にその肉を食わせ、

その血を新しい酒のように飲ませて酔わせる。

こうして、すべての人はわたしが主であって、

あなたの救主、またあなたのあがない主、

ヤコブの全能者であることを知るようになる」。

見よ、わたしが、しかると海はかれ、

川は荒野となり、

その中の魚は水がないために、

かわき死んで悪臭を放つ。

三 わたしは黒い衣を天に着せ、

荒布をもつてそのおおいとする」。

四 主なる神は教をうけた者の舌をわたしに与えて、

疲れた者を言葉をもつて助けることを知らせ、

また朝ごとにさまし、わたしの耳をさまして、

教をうけた者のように聞かせられる。

五 主なる神はわたしの耳を開かれた。

わたしは、そむくことをせず、

退くことをしなかった。

六 わたしを打つ者に、わたしの背をまかせ、

わたしのひげを抜く者に、わたしのほおをまかせ、

恥とつばきとを避けるために、

顔をかくさなかった。

七 しかし主なる神はわたしを助けられる。

それゆえ、わたしは恥じることがなかった。

それゆえ、わたしは顔を火打石のようにした。

わたしは決してはずかしめられないことを知る。

八 わたしを義とする者が近くおられる。

だれがわたしと争うだろうか、

第

われわれは共に立とう。
わたしのあだはだれか、
わたしの所へ近くこさせよ。
見よ、主なる神はわたしを助けられる。
だれがわたしを罪に定めるだろうか。
見よ、彼らは皆衣のようにふるび、
しみのために食いつくされる。

一〇 あなたがたのうち主を恐れ、
そのしもべの声に聞き従い、
暗い中を歩いて光を得なくても、
なお主の名を頼み、
おのれの神にたよる者はだれか。

一一 見よ、火を燃やし、たいまつをともし者よ、
皆その火の炎の中を歩め、
またその燃やした、たいまつの中を歩め。
あなたがたは、これをわたしの手から受けて、
苦しみのうちに伏し倒れる。

一二 第一章 「義を追い求め、
主を尋ね求める者よ、わたしに聞け。
あなたがたの切り出された岩と、
あなたがたの掘り出された穴とを思いみよ。
あなたがたの父アブラハムと、

あなたがたを産んだサラとを思いみよ。
わたしは彼をただひとりであつたときに召し、

彼を祝福して、その子孫を増し加えた。
主はシオンを慰め、
またそのすべて荒れた所を慰めて、
その荒野をエデンのように、
そのさばくを主の園のようにされる。
こうして、その中に喜びと楽しみとがあり、
感謝と歌の声とがある。

四 わが民よ、わたしに聞け、
わが国びとよ、わたしに耳を傾けよ。
律法はわたしから出、
わが道はもろもろの民の光となる。

五 わが義はすみやかに近づき、
わが救は出て行つた。
わが腕はもろもろの民を治める。
海沿いの国々はわたしを待ち望み、
わが腕に寄り頼む。

六 目をあげて天を見、また下なる地を見よ。
天は煙のように消え、地は衣のようにふるび、
その中に住む者は、ぶよのように死ぬ。
しかし、わが救はとこしえにながらえ、
わが義はくじけることがない。

七 義を知る者よ、

心のうちにわが律法をたもつ者よ、わたしに聞け。

人のそしりを恐れてはならない、

彼らのもののしりに驚いてはならない。

彼らは衣のように、しみに食われ、

羊の毛のように虫に食われるからだ。

しかし、わが義はとこしえにながらえ、

わが救はよるず代に及ぶ。

九主のかいなよ、

さめよ、さめよ、力を着よ。

さめて、いにしえの日、昔の代にあつたようになれ。

ラハブを切り殺し、

龍を刺し貫いたのは、あなたではなかったか。

一〇海をかわかし、大いなる淵の水をかわかし、

また海の深き所を、

あがなわれた者の過ぎる道とされたのは、

あなたではなかったか。

二主にあがなわれた者は、

歌うたいつつ、シオンに帰つてきて、

そのこうべに、とこしえの喜びをいただき、

彼らは喜びと楽しみとを得、

悲しみと嘆きとは逃げ去る。

二三わたしこそあなたを慰める者だ。

あなたは何者なれば、死ぬべき人を恐れ、

草のようになるべき人の子を恐れるのか。

三三天をのべ、地の基をすえられた

あなたの造り主、主を忘れて、

なぜ、しえたげる者が滅ぼそうと備えをするとき、

その憤りのゆえに常にひねもす恐れるのか。

しえたげる者の憤りはどこにあるか。

一四身をかがめている捕われ人は、すみやかに解かれて、

死ぬことなく、穴にくだることなく、

その食物はつきることがない。

一五わたしは海をふるわせ、

その波をなりどよめかすあなたの神、主である。

その名を万軍の主という。

一六わたしはわが言葉をあなたの口におき、

わが手の陰にあなたを隠した。

こうして、わたしは天をのべ、地の基をすえ、

シオンにむかつて、あなたはわが民であると言う。

一七エルサレムよ、起きよ、起きよ、立て。

あなたはさきに主の手から憤りの杯をうけて飲み、

よろめかす大杯を、滓までも飲みほした。

一八その産んだもろもろの子のなかに、

自分を導く者なく、

その育てたもろもろの子のなかに、

自分の手をとる者がない。

一九 これら二つの事があなたに臨んだ——

だれかあなたと共に嘆くだろうか——
荒廃と滅亡、ききんとつるぞ。

だれがあなたを慰めるだろうか。

二〇 あなたの子らは息絶えだえになり、
網にかかった、かもしかのように、
すべてのちまたのすみ横たわり、
主の憤りと、あなたの神の責めとは、
彼らに満ちている。

二一 それゆえ、苦しめる者、
酒にではなく酔っている者よ、これを聞け。

二二 あなたの主、おのが民の訴えを弁護される

あなたの神、主はこう言われる、

「見よ、わたしはよめかす杯を

あなたの手から取り除き、

わが憤りの大杯を取り除いた。

あなたは再びこれを飲むことはない。

二三 わたしはこれをあなたを悩ます者の手におく。

彼らはさきにあなたにむかって言った、

『身をかめよ、われわれは越えていこう』と。

そしてあなたはその背を地のようにし、

ちまたのようにして、

彼らの越えていくにまかせた」。

第五章 シオンよ、さめよ、さめよ、

力を着よ。

聖なる都エルサレムよ、美しい衣を着よ。

割礼を受けない者および汚れた者は、

もはやあなたのところにはいることがないからだ。

二 捕われたエルサレムよ、

あなたの身からちりを振り落せ、起きよ。

捕われたシオンの娘よ、

あなたの首のなわを解きすてよ。

三 主はこう言われる、「あなたがたは、ただで売られた。

金を出さずにあがなわれる」。主なる神はこう言われ

る、「わが民はさきにエジプトへ下って行って、かしこに

寄留した。またアッスリヤびとはゆえなく彼らをしえた

げた。五 それゆえ、今わたしはここに何をしようか。わ

が民はゆえなく捕われた」と主は言われる。主は言われ

る、「彼らをつかさどる者はわめき、わが名は常にひねも

す侮られる。六 それゆえ、わが民はわが名を知るにいた

る。その日には彼らはこの言葉を語る者がわたしである

ことを知る。わたしはここにおる」。

七 よきおとずれを伝え、平和を告げ、

よきおとずれを伝え、救を告げ、

シオンにむかって「あなたの神は王となられた」と

言う者の足は山の上にあつて、

なんと麗しいことだろう。

八聞けよ、あなたの見張びとは声をあげて、

共に喜び歌っている。

彼らは目と目と相合わせて、

主がシオンに帰られるのを見るからだ。

九エルサレムの荒れすたれた所よ、

声を放って共に歌え。

主はその民を慰め、

一〇エルサレムをあがなわれたからだ。

主はその聖なるかいなを、

もろもろの国びとの前にあらわされた。

地のすべての果は、われわれの神の救を見る。

二去れよ、去れよ、そこを出て、

汚れた物にさわるな。

その中を出よ、主の器になう者よ、

おのれを清く保て。

三あなたがたは急いで出るに及ばない、

また、とんで行くにも及ばない。

主はあなたがたの前行き、

イスラエルの神はあなたがたの

しんがりとなられるからだ。

三見よ、わがしもべは栄える。

第

一四彼は高められ、あげられ、ひじょうに高くなる。

多くの人が彼に驚いたように――

彼の顔たちは、そこなわれて人と異なり、

その姿は人の子と異なっていたからである――

一五彼は多くの国民を驚かす。

王たちは彼のゆえに口をつぐむ。

それは彼らがまだ伝えられなかったことを見、

まだ聞かなかったことを悟るからだ。

五三章 一だれがわれわれの聞いたことを

信じ得たか。

主の腕は、だれにあらわれたか。

二彼は主の前に若木のように、

かわいた土から出る根のように育った。

彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、

われわれの慕うべき美しさもない。

三彼は侮られて人に捨てられ、

悲しみの人で、病を知っていた。

また顔をおおって忌みきらわれる者のように、

彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

四まことに彼はわれわれの病を負い、

われわれの悲しみをになった。

しかるに、われわれは思った、

彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

五しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、

われわれの不義のために碎かれたのだ。
彼はみずから懲らしめをうけて、

われわれに平安を与え、

その打たれた傷によって、

われわれはいやされたのだ。

六 われわれはみな羊のように迷って、

おのおの自分の道に向かつて行った。

主はわれわれすべての者の不義を、

彼の上におかれた。

七 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、

口を開かなかった。

ほふり場にひかれて行く小羊のように、

また毛を切る者の前に黙っている羊のように、

口を開かなかった。

八 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。

その代の人のうち、だれが思ったであろうか、

彼はわが民のとがのために打たれて、

生けるものの地から断たれたのだと。

九 彼は暴虐を行わず、

その口には偽りがなかったけれども、

その墓は悪しき者と共に設けられ、

その塚は悪をなす者と共にあった。

一〇 しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、

主は彼を悩まされた。

第

五 四 章 「子を産まなかったうまずめよ、歌え。

産みの苦しみをしなかった者よ、

声を放って歌いよばわれ。

夫のない者の子は、

とついだ者の子よりも多い」と主は言われる。

三 「あなたの天幕の場所を広くし、

あなたのすまいの幕を張りひろげ、

惜しむことなく、あなたの綱を長くし、

あなたの杭を強固にせよ。

三 あなたは右に左にひろがり、

彼が自分を、とがの供え物となすとき、
その子孫を見ることができ、
その命をながくすることができ、
かつ主のみ旨が彼の手によって栄える。

二 彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。

義なるわがしもべはその知識によって、
多くの人を義とし、また彼らの不義を負う。

三 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に

物を分かち取らせる。

彼は強い者と共に獲物を分かち取る。

これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、

とがある者と共に数えられたからである。

しかも彼は多くの人の罪を負い、

とがある者のためにとりなしをした。

あなたの子孫はもろもろの国を獲、

荒れすたれた町々をも住民で満たすからだ。

四 恐れてはならない。

あなたは恥じることがない。

あわてふためいてはならない。

あなたは、はずかしめられることがない。

あなたは若い時の恥を忘れ、

寡婦であつた時のはずかしめを、

再び思い出すことがない。

五 あなたを造られた者はあなたの夫であつて、

その名は万軍の主。

あなたをあがなわれる者は、

イスラエルの聖者であつて、

全地の神となえられる。

六 捨てられて心悲しむ妻、

また若い時にとついで出された妻を招くように

主はあなたを招かれた」と

あなたの神は言われる。

七 「わたしはしばしばあなたを捨てたけれども、

大いなるあわれみをもってあなたを集める。

八 あふれる憤りをもって、

しばしわが顔を隠したけれども、

とこしえのいつくしみをもって、

あなたをあわれむ」と

あなたをあがなわれる主は言われる。

九 「このことはわたしにはノアの時のようだ。

わたしはノアの洪水を、

再び地にあふれさせないと誓ったが、

そのように、わたしは再びあなたを怒らない、

再びあなたを責めないと誓った。

一〇 山は移り、丘は動いても、

わがいつくしみはあなたから移ることなく、

平安を与えるわが契約は動くことがない」と

あなたをあわれまれる主は言われる。

一一 「苦しみをうけ、あらしにもてあそばされ、

慰めを得ない者よ、

見よ、わたしはアンチモニーであなたの石をすえ、

サファイヤであなたの基をおき、

一二 のうであなたの尖塔を造り、

紅玉であなたの門を造り、

あなたの城壁をことごとく寶石で造る。

一三 あなたの子らはみな主に教をうけ、

あなたの子らは大いに榮える。

一四 あなたは義をもって堅く立ち、

しえたげから遠ざかって恐れることはない。

また恐怖から遠ざかる、

それはあなたに近づくことがないからである。

第

五五章 「さあ、かわいている者は

みな水にきたれ。

金のない者もきたれ。

来て買い求めて食べよ。

あなたがたは来て、金を出さずに、

ただでぶどう酒と乳とを買い求めよ。

なぜ、あなたがたは、

かてにもならぬもののために金を費し、

飽きることもできぬもののためにに勞するのか。

わたしによく聞き従え。

一五 たとい争いを起す者があつても

わたしによるのではない。

すべてあなたと争う者は、あなたのゆえに倒れる。

一六 見よ、炭火を吹きおこして、

その目的にかなう武器を造り出す鍛冶は、

わたしが創造した者、

また荒し滅ぼす者も、わたしが創造した者である。

一七 すべてあなたを攻めるために造られる武器は、

その目的を達しない。

すべてあなたに逆らい立って、争い訴える舌は、

あなたに説き破られる。

これが主のしもべらの受ける嗣業であり、

また彼らがわたしから受ける義である」と

主は言われる。

そうすれば、良い物を食ふことができ、

最も豊かな食物で、自分を樂しませることが出来る。

三 耳を傾け、わたしにきて聞け。

そうすれば、あなたがたは生きることが出来る。

わたしは、あなたがたと、とこしえの契約を立てて、

ダビデに約束した変らない確かな恵みを与える。

四 見よ、わたしは彼を立てて、

もろもろの民への証人とし、

また、もろもろの民の君とし、命令する者とした。

五 見よ、あなたは知らない国民を招く、

あなたを知らない国民は

あなたのもとに走ってくる。

これはあなたの神、主、

イスラエルの聖者のゆえであり、

主があなたに光榮を与えられたからである。

六 あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、

主を尋ねよ。

近くおられるうちに呼び求めよ。

七 悪しき者はその道を捨て、

正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。

そうすれば、主は彼にあわれみを施される。

われわれの神に帰れ、

主は豊かにゆるしを与えられる。

第

五 六 章

「主はこう言われる、

八 わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、
 わが道は、あなたがたの道とは異なっていると
 主は言われる。
 九 天が地よりも高いように、
 わが道は、あなたがたの道よりも高く、
 わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。
 一〇 天から雨が降り、雪が落ちてまた帰らず、
 地を潤して物を生えさせ、芽を出させて、
 種まく者に種を与え、
 食べる者にかてを与える。
 二 このように、わが口から出る言葉も、
 むなしくわたしに帰らない。
 わたしの喜ぶところのことをなし、
 わたしが命じ送った事を果す。
 三 あなたがたは喜びをもって出てきて、
 安らかに導かれて行く。
 山と丘とはあなたの前に声を放って喜び歌い、
 野にある木はみな手を打つ。
 三 いとすぎは、いばらに代って生え、
 ミルトスの木は、おどろに代って生える。
 これは主の記念となり、
 また、とこしえのしるしとなって、
 絶えることはない。」

「あなたがたは公平を守って正義を行え。
 わが救の来るのは近く、
 わが助けのあらわれるのが近いからだ。
 二 安息日を守って、これを汚さず、
 その手をおさえて、悪しき事をせず、
 このように行う人、
 三 これを堅く守る人の子はさいわいである。」
 主に連なっている異邦人は言ってはならない、
 「主は必ずわたしをその民から分かれたる」と。
 宦官もまた言ってはならない、
 「見よ、わたしは枯れ木だ」と。
 四 主はこう言われる、
 「わが安息日を守り、わが喜ぶことを選んで、
 わが契約を堅く守る宦官には、
 五 わが家のうちで、わが垣のうちに、
 むすこにも娘にもまさる記念のしるしと名を与え、
 絶えることのない、とこしえの名を与える。」
 六 また主に連なり、主に仕え、
 主の名を愛し、そのしもべとなり、
 すべて安息日を守って、これを汚さず、
 わが契約を堅く守る異邦人は――
 七 わたしはこれをわが聖なる山にこさせ、
 わが祈の家のうちで楽しませる、
 彼らの燔祭と犠牲とは、

わが祭壇の上に受け入れられる。

わが家はすべての民の

祈の家となえられるからである。

イスラエルの追いやられた者を集められる

主なる神はこう言われる、

「わたしはさらに人を集めて、

すでに集められた者に加えよう」と。

九野のすべての獣よ、

林におるすべての獣よ、来て食え。

一〇見張人らはみな目しいで、知ることがなく、

みな、おしの犬で、ほえることができない。

みな夢みる者、伏している者、

まどろむことを好む者だ。

二この犬どもは強欲で、飽くことを知らない。

彼らはまた悟ることのできない牧者で、

皆おのが道にむかいゆき、

おのおのみな、おのれの利を求める。

三彼らは互に言う、

「さあ、われわれは酒を手に入れ、

濃い酒をあびるほど飲もう。

あすも、きょうのようであるだろう、

すばらしい日だ」と。

第五章 正しい者が滅びても、

心にとめる人がなく、

神を敬う人々が取り去られても、悟る者はない。

正しい者は災の前に取り去られて、

平安に入るからである。

すべて正直に歩む者は、その床に休むことができる。

三しかし、あなたがた女魔法使の子よ、

姦夫と遊女のすえよ、こちらへ近寄れ。

四あなたがたは、だれにむかつて戯れをなすのか。

だれにむかつて口を開き、舌を出すのか。

あなたがたは背信の子ら、

偽りのすえではないか。

五あなたがたは、かしの木の間、

すべての青木の下で心をこがし、

谷の中、岩のはざままで子どもを殺した。

六あなたは谷のなめらかな石を自分の嗣業とし、

これを自分の分け前とし、

これに灌祭をそそぎ、供え物をささげた。

わたしはこれらの物によつてなだめられようか。

七あなたは高くそびえた山の上に自分の床を設け、

またそこに登って行って犠牲をささげた。

八また戸および柱のうしろに、

あなたのしるしを置いた。

あなたはわたしを離れて自分の床をあらわし、

それにのぼって、その床をひろくした。

また彼らと契約をなし、彼らの床を愛し、その裸を見た。

九あなたは、におい油を携えてモレクに行き、多くのかおり物をささげた。

またあなたの使者を遠くにつかわし、陰府の深い所にまでつかわした。

一〇あなたは道の長いのに疲れても、なお「望みがない」とは言わなかった。

あなたはおのが力の回復を得たので、衰えることがなかった。

二あなたはだれをおし恐れて、偽りを言い、わたしを覚え、また心におかなかったのか。

わたしが久しく黙っていたために、あなたはわたしを恐れなかったのではなかったか。

三わたしはあなたの義と、あなたのわざを告げ示そう、しかしこれらはあなたを益しない。

四あなたが呼ばれる時、あなたが集めておいた偶像にあなたを救わせよ。

風は彼らを運び去り、

息は彼らを取り去る。

しかしわたしに寄り頼む者は地を継ぎ、わが聖なる山をまもる。

一四主は言われる、

「土を盛り、土を盛って道を備えよ、わが民の道から、つまづく物を取り去れ」と。

一五いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖となえられる者がこう言われる、

「わたしは高く、聖なる所に住み、また心碎けて、へりくだる者と共に住み、

へりくだる者の心をいかし、碎けたる者の心をいやす。

一六わたしはかぎりなく争わない、また絶えず怒らない。

霊はわたしから出、いのちの息はわたしがつくったからだ。

一七彼のむさぼりの罪のゆえに、わたしは怒って彼を打ち、

わが顔をかくして怒った。しかし彼はなおおそむいて、おのが心の道へ行つた。

一八わたしは彼の道を見た。わたしは彼をいやし、

また彼を導き、慰めをもって彼に報い、悲しめる者のために、くちびるの実を造ろう。

一九遠い者にも近い者にも平安あれ、平安あれ、わたしは彼をいやそう」と主は言われる。

二〇しかし悪しき者は彼の荒い海のように、静まることのできないで、

第

その水はついに泥と汚物とを出す。
三 わが神は言われる、

「よこしまな者には平安がない」と。

五八章 「大いに呼ばわって声を惜しむな。

あなたの声をラッパのようにあげ、

わが民にそのとがを告げ、

ヤコブの家にその罪を告げしめ。

二 彼らは日々わたしを尋ね求め、

義を行い、神のおきてを捨てない国民のように、

わが道を知ることを喜ぶ。

彼らは正しいさはきをわたしに求め、

神に近づくことを喜ぶ。

三 彼らは言う、『われわれが断食したのに、

なぜ、ごらんにならないのか。

われわれがおのれを苦しめたのに、

なぜ、ごぞんじないのか』と。

見よ、あなたがたの断食の日には、

おのが楽しみを求め、

その働き人をごとくしえたげる。

四 見よ、あなたがたの断食するのは、

ただ争いと、いさかいのため、

また悪のこぶしをもって人を打つためだ。

きょう、あなたがたのなす断食は、
その声を上に聞えさせるものではない。

五 このようなものは、わたしの選ぶ断食であろうか。
人がおのれを苦しめる日であろうか。

そのこうべを草のように伏せ、

荒布と灰とをその下に敷くことであろうか。

あなたは、これを断食となえ、

主に受けいられる日と、となえるであろうか。

六 わたしが選ぶところの断食は、

悪のなわをほどこき、くびきのひもを解き、

しえたげられる者を放ち去らせ、

すべてのくびきを折るなどの事ではないか。

七 また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、

さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、

裸の者を見て、これに着せ、

自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。

八 そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、

あなたは、すみやかにいやされ、

あなたの義はあなたの前に行き、

主の栄光はあなたのしんがりとなる。

九 また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、

あなたが叫ぶとき、

『わたしはここにおる』と言われる。

もし、あなたの中からくびきを除き、

指をさすこと、悪い事を語ることが除き、

一〇 飢えた者にあなたのパンを施し、
苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、

あなたの光は暗きに輝き、
あなたのやみは真昼のようになる。

二 主は常にあなたを導き、
良き物をもつてあなたの願いを満ち足らせ、
あなたの骨を強くされる。

あなたは潤った園のように、
水の絶えない泉のようになる。

三 あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、
あなたは代々やぶれた基を立て、
人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、
『市街を繕って住むべき所となす者』と
呼ぶようになる。

三 もし安息日にあなたの足をとどめ、
わが聖日にあなたの楽しみをなさず、
安息日を喜びの日と呼び、
主の聖日を尊ぶべき日となえ、
これを尊んで、おのが道を行わず、
おのが楽しみを求めず、
むなししい言葉を語らないならば、
四 その時あなたは主によって喜びを得、
わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、

第

あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、
あなたを養う。

これは主の口から語られたものである。

五九章 一 見よ、主の手が短くて、
救い得ないのではない。

二 その耳が鈍くて聞き得ないのでもない。

三 ただ、あなたがたの不義が
あなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。

またあなたがたの罪が
主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ。

三 あなたがたの手は血で汚れ、
あなたがたの指は不義で汚れ、
あなたがたのくちびるは偽りを語り、
あなたがたの舌は悪をささやき、
四 ひとりも正義をもつて訴え、
真実をもつて論争する者がない。

彼らはむなしきことを頼み、偽りを語り、
害悪をはらみ、不義を産む。

五 彼らはまむしの卵をかえし、くもの巣を織る。

その卵を食べる者は死ぬ。

六 卵が踏まれると破れて毒蛇を出す。

その織る物は着物とならない。

彼らのわざは不義のわざであり、

彼らの手には暴虐の行いがある。

七 彼らの足は悪に走り、

罪のない血を流すことに速い。

彼らの思いは不義の思いであり、

荒廃と滅亡とがその道にある。

八 彼らは平和の道を知らず、

その行く道には公平がない。

彼らはその道を曲げた。
すべてこれを歩む者は平和を知らない。

九 それゆえ、公平は遠くわれわれを離れ、

正義はわれわれに追いつかない。

われわれは光を望んでも、暗きを見、

輝きを望んでも、やみを行く。

一〇 われわれは盲人のように、かきを手さぐりゆき、

目のない者のように手さぐりゆき、

真昼でも、たそがれのようにつまずき、

強壯な者の中にあっても死人のようだ。

二 われわれは皆くまのようにほえ、

はとのようにいたくうめき、

公平を望んでも、きたらず、

救を望んでも、遠くわれわれを離れ去る。

三 われわれのとがは、あなたの前に多く、

罪は、われわれを訴えて、あかしをなし、

とがは、われわれと共にあり、

不義は、われわれがこれを知る。

三 われわれは、そむいて主をいなみ、

退いて、われわれの神に従わず、

しえたげと、そむきとを語り、

偽りの言葉を心にはらんで、それを言いあらわす。

四 公平はうしろに退けられ、

正義ははるかに立つ。

それは、真実は広場に倒れ、

正直は、はいることができないからである。

五 真実は欠けてなく、

悪を離れる者はかすめ奪われる。

六 主はこれを見て、

公平がなかったことを喜ばれなかった。

七 主は人のないのを見られ、

仲に立つ者のないのをあやしまれた。

それゆえ、ご自分のかいなをもって、勝利を得、

その義をもって、おのれをささえられた。

八 主は義を胸当としてまとい、

救のかぶとをその頭にいただき、

報復の衣をまとして着物とし、

熱心を外套として身を包まれた。

一八主は彼らの行いにしたがって報いをなし、

あだにむかつて怒り、

敵にむかつて報いをなし、

海沿いの国々にむかつて報いをされる。

一九こうして、人々は西の方から主の名を恐れ、

日の出る方からその栄光を恐れる。

主は、せき止めた川を、

三そのいぶきで押し流すように、こられるからである。

二〇主は言われる、

「主は、あがなう者としてシオンにきたり、

ヤコブのうちの、とがを離れる者に至る」と。

三主は言われる、「わたしは彼らと立てる契約はこれであ

る。あなたの上にあるわが霊、あなたの口においたわが

言葉は、今から後とこしえに、あなたの口から、あなた

の子らの口から、あなたの子らの子の口から離れること

はない」と。

第六〇章 一起きよ、光を放て。

あなたの光が臨み、

主の栄光があなたの上にのぼったから。

二見よ、暗きは地をおおい、

やみはもろもろの民をおおう。

しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、

主の栄光があなたの上にあらわれる。

三もろもろの国は、あなたの光に來、

もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに來る。

四あなたの目をあげて見ませ、

彼らはみな集まってあなたに來る。

あなたの子らは遠くから來、

あなたの娘らは、かいなにいだかれて來る。

五その時あなたは見て、喜びに輝き、

あなたの心はどよめき、かつ喜ぶ。

海の富が移ってあなたに來、

もろもろの国の宝が、あなたに來るからである。

六多くのらくだ、ミデアンおよびエバの若きらくだは

あなたをおおい、

シバの人々はみな黄金、乳香を携えてきて、

主の誉を宣べ伝える。

七ケダルの羊の群れはみなあなたに集まって來、

ネバヨテの雄羊はあなたに仕え、

わが祭壇の上にのぼって受けいられる。

こうして、わたしはわが栄光の家を輝かす。

八雲のように飛び、

はとがその小屋に

飛び帰るようにして來る者はだれか。

九海沿いの国々はわたしを待ち望み、

タルシシの船はいや先に

あなたの子らを遠くから載せて来、
また彼らの金銀を共に載せて来て、
あなたの神、主の名にささげ、
イスラエルの聖者にささげる。
主があなたを輝かされたからである。

一〇 異邦人はあなたの城壁を築き、
彼らの王たちはあなたに仕える。

わたしは怒りをもってあなたを打ったけれども、
また恵みをもってあなたをあわれんだからである。

一一 あなたの門は常に開いて、
昼も夜も閉ざすことはない。

これは人々が国々の宝をあなたに携えて来、
その王たちを率いて来るためである。

一二 あなたに仕えない国と民とは滅び、
その国々は全く荒れすたれる。

一三 レバノンの榮えはあなたに来、
いとすぎ、すずかけ、まつは皆共に来て、
わが聖所をかざる。

またわたしはわが足をおく所を尊くする。

一四 あなたを苦しめた者の子らは、
かがんで、あなたのもとに来、
あなたをさげすんだ者は、

ことごとくあなたの足もとに伏し、

あなたを主の都、
イスラエルの聖者のシオンとなえる。

一五 あなたは捨てられ、憎まれて、
その中を過ぎる者もなかったが、

わたしはあなたを、とこしえの誇、
世々の喜びとする。

一六 あなたはまた、もろもろの国の乳を吸い、
王たちの乳ぶさを吸い、

そして主なるわたしが、あなたの救主、
また、あなたのあがない主、

ヤコブの全能者であることを知るにいたる。

一七 わたしは青銅の代りに黄金を携え、
くろがねの代りにしろがねを携え、

木の代りに青銅を、石の代りに鉄を携えてきて、
あなたのまつりごとを平和にし、

あなたのつかさびとを正しくする。

一八 暴虐は、もはやあなたの地に聞かれず、
荒廃と滅亡は、もはやあなたの境のうちに聞かれず、

あなたはその城壁を「救」ととなえ、
その門を「誉」ととなえる。

一九 昼は、もはや太陽があなたの光とならず、

第

夜も月が輝いてあなたを照さず、
主はとこしえにあなたの光となり、
あなたの神はあなたの栄えとなられる。

二〇あなたの太陽は再び没せず、

あなたの月はかけることがない。

主がとこしえにあなたの光となり、

あなたの悲しみの日が終るからである。

二一あなたの民はことごとく正しい者となつて、

とこしえに地を所有する。

彼らはわたしの植えた若枝、わが手のわざ、

わが栄光をあらわすものとなる。

二三その最も小さい者は氏族となり、

その最も弱い者は強い国となる。

わたしは主である。

その時がくるならば、すみやかにこの事をなす。

六一章 一主なる神の霊がわたしに臨んだ。

これは主がわたしに油を注いで、

貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、

わたしをつかわして心のいためる者をいやし、

捕われ人に放免を告げ、

縛られている者に解放を告げ、

二主の恵みの年と

われわれの神の報復の日とを告げさせ、

また、すべての悲しむ者を慰め、

三シオンの中の悲しむ者に喜びを与え、

灰にかえて冠を与え、

悲しみにかえて喜びの油を与え、

憂いの心にかえて、

さんびの衣を与えさせるためである。

こうして、彼らは義のかしの木となえられ、

主がその栄光をあらわすために

植えられた者となえられる。

四彼らはいにしえの荒れた所を建てなおし、

さきに荒れすたれた所を興し、

荒れた町々を新たにし、

世々すたれた所を再び建てる。

五外国人は立つてあなたがたの群れを飼ひ、

異邦人はあなたがたの畑を耕す者となり、

ぶどうを作る者となる。

六しかし、あなたがたは主の祭司となえられ、

われわれの神の役者と呼ばれ、

もろもろの国の富を食べ、

彼らの宝を得て喜ぶ。

七あなたがたは、さきに受けた恥にかえて、

二倍の賜物を受け、

はずかしめにかえて、その嗣業を得て楽しむ。

それゆえ、あなたがたはその地であつて、

二倍の賜物を獲、

とこしえの喜びを得る。

八主なるわたしは公平を愛し、

強奪と邪惡を憎み、

眞実をもつて彼らに報いを与え、

彼らと、とこしえの契約を結ぶからである。

九彼らの子孫は、もろもろの国の中で知られ、

彼らの子らは、もろもろの民の中に知られる。

すべてこれを見る者は

これが主の祝福された民であることを認める。

一〇わたしは主を大いに喜び、

わが魂はわが神を楽しむ。

主がわたしに救の衣を着せ、

義の上衣をまとわせて、

花婿が冠をいただき、

花嫁が宝玉をもつて飾るようにされたからである。

二地が芽をいだし、園がまいたものを生やすように、

主なる神は義と誉とを、

もろもろの国の前に、生やされる。

第二章 シオンの義が

朝日の輝きのようにあらわれいで、

エルサレムの救が燃えたいまつの様になるまで、

わたしはシオンのために黙せず、

エルサレムのために休まない。

二もろもろの国はあなたの義を見、

もろもろの王は皆あなたの栄えを見る。

そして、あなたは主の口が定められる

新しい名をもつてとなえられる。

三また、あなたは主の手にある麗しい冠となり、

あなたの神の手にある王の冠となる。

四あなたはもはや「捨てられた者」と言われず、

あなたの地はもはや「荒れた者」と言われず、

あなたは「わが喜びは彼女にある」ととなえられる、

あなたの地は「配偶ある者」ととなえられる。

主はあなたを喜ばれ、

あなたの地は配偶を得るからである。

五若い者が処女をめとるように

あなたの子らはあなたをめとり、

花婿が花嫁を喜ぶように

あなたの神はあなたを喜ばれる。

六エルサレムよ、

わたしはあなたの城壁の上に見張人をおいて、

昼も夜もたえず、もだすことのないようにしよう。

主に思い出されることを求める者よ、

みずから休んではならない。

七主がエルサレムを堅く立てて、

全地に誉を得させられるまで、お休みにならぬようにせよ。

主はその右の手をさし、大能のかいなるをさして誓われた、

「わたしは再びあなたの穀物を

あなたの敵に与えて食べさせない。

また、あなたが労して得たぶどう酒を

異邦人に与えて飲ませない。

しかし、穀物を刈り入れた者は

これを食べて主をほめたたえ、

ぶどうを集めた者は

わが聖所の庭でこれを飲む」。

二〇門を通って行け、通って行け。

民の道を備えよ。

土を盛り、土を盛って大路を設けよ。

石を取りのけ。

もろもろの民の上に旗をあげよ。

二見よ、主は地の果にまで告げて言われた、

「シオンの娘に言え、

『見よ、あなたの救は来る。』

見よ、その報いは主と共にあり、

その働きの報いは、その前にある』と。

二三彼らは『聖なる民、

第

主にあがなわれた者』となえられ、あなたは『人に尋ね求められる者、捨てられない町』となえられる」。

六三章「このエドムから来る者、

深紅の衣を着て、ボズラから来る者はだれか。

その装いは、はなやかに、

大いなる力をもって進み来る者はだれか」。

「義をもつて語り、

救を施す力あるわたしがそれだ」。

三「何ゆえあなたの装いは赤く、

あなたの衣は酒ぶねを踏む者のように赤いのか」。

三「わたしはひとりで酒ぶねを踏んだ。

もろもろの民のなかに、

わたしと事を共にする者はなかった。

わたしは怒りによって彼らを踏み、

憤りによって彼らを踏みにじったので、

彼らの血がわが衣にふりかかり、

わが装いをことごとく汚した。

四報復の日がわが心のうちにあり、

わがあがないの年が来たからである。

五わたしは見ただけでも、助ける者はなく、

怪しんだけれども、ささえる者はなかった。

それゆえ、わがかいながわたしを勝たせ、

わが憤りがわたしをささえた。

六 わたしは怒りによって、もろもろの民を踏みにしり、
憤りによって彼らを酔わせ、
彼らの血を、地に流れさせた」。

七 わたしは主がわれわれになされた

すべてのことによって、
主のいつくしみと、主の誉とを語り告げ、

また、そのあわれみにより、

その多くのいつくしみによって、

イスラエルの家に施された

その大いなる恵みを語り告げよう。

八 主は言われた、「まことに彼らはわが民、

偽りのない子らである」と。

九 そして主は彼らの救主となられた。

十 彼らのすべての悩みのとき、主も悩まれて、

そのみ前の使をもって彼らを救い、

その愛とあわれみとによって彼らをあがない、

いにしえの日、つねに彼らをもたげ、

彼らを携えられた。

一〇 ところが彼らはそむいて

その聖なる靈を憂えさせたので、

主はひるがえって彼らの敵となり、

みずから彼らと戦われた。

二 その時、民はいにしえのモーセの日を
思い出して言った、

「その群れの牧者を、

海から携えあげた者はどこにいるか。

彼らの中に聖なる靈をおいた者はどこにいるか。

三 栄光のかいなるモーセの右に行かせ、

彼らの前に水を二つに分けて、

みずから、とこしえの名をつくり、

四 彼らを導いて、馬が野を走るように、

つまずくことなく淵を通らせた者はどこにいるか。

五 谷にくだる家畜のように、

主の靈は彼らをいこわせられた。

六 このように、あなたはおのれの民を導いて

みずから栄光の名をつくられた」。

七 どうか、天から見おろし、

その聖なる栄光あるすみかからごらんください。

あなたの熱心と、大能とはどこにありますか。

あなたのせつなる同情とあわれみとは

おさえられて、わたしにあらわれません。

八 たといアブラハムがわれわれを知らず、

イスラエルがわれわれを認めなくても、

あなたはわれわれの父です。

九 主よ、あなたはわれわれの父、

主よ、あなたはわれわれの父、

いにしえからあなたの名は
われわれのあがない主です。

一七主よ、なぜ、われわれをあなたの道から離れ迷わせ、
われわれの心をかたくなにして、

あなたを恐れないようにされるのですか。

どうぞ、あなたのしもべらのために、

あなたの嗣業である部族らのために、

お帰りください。

一八あなたの聖なる民が、

あなたの聖所を獲て間もないのに、

われわれのあだは、それを踏みにじりました。

一九われわれはあなたによって、

いにしえから治められない者のようになり、

あなたの名をもって、

となえられない者のようになりました。

第二四章 一どうか、あなたが天を裂いて下り、

あなたの前に山々が震い動くように。

二火が柴木を燃やし、

火が水を沸かすときのごとく下られるように。

そして、み名をあなたのあだにあらわし、

もろもろの国をあなたの前に

震えおのかせられるように。

三あなたは、われわれが期待しなかった恐るべき事を

なされた時に下られたので、山々は震い動いた。

四いにしえからこのかた、

あなたのほか神を待ち望む者に、

このような事を行われた神を聞いたことはなく、

耳に入れたこともなく、目に見たこともない。

五あなたは喜んで義を行い、

あなたの道にあつて、

あなたを記念する者を迎えられる。

見よ、あなたは怒られた、われわれは罪を犯した。

われわれは久しく罪のうちにあつた。

六われわれは救われるであらうか。

われわれはみな汚れた人のようになり、

ことごとく汚れた衣のようである。

われわれはみな木の葉のように枯れ、

われわれの不義は風のようにわれわれを吹き去る。

七あなたの名を呼ぶ者はなく、

みずから励んで、あなたによりすがる者はない。

あなたはみ顔を隠して、われわれを顧みられず、

われわれをおのれの不義の手に渡された。

八されど主よ、あなたはわれわれの父です。

われわれは粘土であつて、あなたは陶器師です。

われわれはみな、み手のわざです。

九主よ、ひどくお怒りにならぬように、

第

いつまでも不義をみこころにとめられぬように。

どうぞ、われわれを顧みてください。

われわれはみな、あなたの民です。

一〇 あなたの聖なる町々は荒野となり、

シオンは荒野となり、

エルサレムは荒れすたれた。

二 われわれの先祖があなたをほめたたえた

聖なる麗しいわれわれの宮は火で焼かれ、

われわれが慕った所はことごとく荒れはてた。

三 主よ、これらの事があっても

なお、あなたはみずからをおさえ、

黙して、われわれをいたく苦しめられるのですか。

六五章 「わたしはわたしを求めなかった者に

問われることを喜び、

わたしを尋ねなかった者に

見いだされることを喜んだ。

わたしはわが名を呼ばなかった国民に言った、

「わたしはここにいて、わたしはここにいて」と。

二 よからぬ道に歩み、

自分の思いに従うそむける民に、

わたしはひねもす手を伸べて招いた。

三 この民はまのあたり常にわたしを怒らせ、

園の中で犠牲をささげ、

かわらの上で香をたき、

四 墓場にすわり、ひそかな所にやどり、

豚の肉を食らい、

憎むべき物の、あつものをその器に盛って、

五 言う、「あなたはそこに立って、

わたしに近づいてはならない。

わたしはあなたと区別されたものだから」と。

これらはわが鼻の煙、ひねもす燃える火である。

六 見よ、この事はわが前にしるされた、

「わたしは黙っていないで報い返す。

そうだ、わたしは彼らのふところに、

七 彼らの不義と、彼らの先祖たちの不義とを

共に報い返す。

彼らが山の上で香をたき、

丘の上でわたしをそしったゆえ、

わたしは彼らのさきのわざを量って、

そのふところに返す」と主は言われる。

八 主はこう言われる、

「人がぶどうのふさの中に、

ぶどうのしるのあるのを見るならば、

『それを破るな、その中に祝福があるから』と言う。

そのようにわたしは、わがしもべらのために行つて、

ことごとくは滅ぼさない。

九 わたしはヤコブから子孫をいだし、

ユダからわが山々を受けつぐべき者をいだす。
わたしが選んだ者はこれを受けつぎ、
わがしもべらはそこに住む。

一〇 シャロンは羊の群れの牧場となり、

アコルの谷は牛の群れの伏す所となつて、
わたしを尋ね求めたわが民のものとなる。

一一 しかし主を捨て、

わが聖なる山を忘れ、
机を禍福の神に供え、
混ぜ合わせた酒を盛って

運命の神にささげるあなたがたよ、

一二 わたしは、あなたがたを

つるぎに渡すことに定めた。

あなたがたは皆かかんでほふられる。

あなたがたはわたしが呼んだときに答えず、

わたしが語ったときに聞かず、

わたしの目に悪い事をおこない、

わたしの好まなかつた事を選んだからだ。

一三 それゆえ、主なる神はこう言われる、

「見よ、わがしもべたちは食べる、

しかし、あなたがたは飢える。

見よ、わがしもべたちは飲む、

しかし、あなたがたはかわく。

見よ、わがしもべたちは喜ぶ、

しかし、あなたがたは恥じる。

一四 見よ、わがしもべたちは心の楽しみによって歌う、

しかし、あなたがたは心の苦しみにによって叫び、

たましいの悩みによって泣き叫ぶ。

一五 あなたがたの残す名は

わが選んだ者には、のろいの文句となり、

主なる神はあなたがたを殺される。

しかし、おのれのしもべたちを、

ほかの名をもって呼ばれる。

一六 それゆえ、地にあつて

おのれのために祝福を求める者は、

真実の神によつておのれの祝福を求め、

地にあつて誓う者は、真実の神をさして誓う。

さきの悩みは忘れられて、

わが目から隠れうせるからである。

一七 見よ、わたしは新しい天と、新しい地とを創造する。

さきの事はおぼえられることなく、

心に思い起すことはない。

一八 しかし、あなたがたはわたしの創造するものにより、

とこしえに楽しみ、喜びを得よ。

見よ、わたしはエルサレムを造つて喜びとし、

その民を楽しみとする。

一九 わたしはエルサレムを喜び、わが民を楽しむ。

泣く声と叫ぶ声は再びその中に聞えることはない。

二〇 わずか数日で死ぬみどりごと、

おのが命の日を満たさない老人とは、

もはやその中にいない。

百歳で死ぬ者も、なお若い者とせられ、

百歳で死ぬ者は、のろわれた罪びととされる。

二一 彼らは家を建てて、それに住み、

ぶどう畑を作つて、その実を食べる。

二二 彼らが建てる所に、ほかの人は住まず、

彼らが植えるものは、ほかの人が食べない。

わが民の命は、木の命のようになり、

わが選んだ者は、

その手のわざをながく楽しむからである。

二三 彼らの勤労はむだでなく、

その生むところの子らは災にかからない。

彼らは主に祝福された者のすえであつて、

その子らも彼らと共にいるからである。

二四 彼らが呼ばないさきに、わたしは答え、

彼らがなのお話つてゐるときに、わたしは聞く。

二五 おおかみと小羊とは共に食らい、

ししは牛のようにわらを食らい、
へびはちりを食物とする。
彼らはわが聖なる山のどこでもそこなうことなく、

第

やぶることはない」と主は言われる。

六 六 章

「主はこう言われる、

「天はわが位、地はわが足台である。
あなたがたはわたしのためにどんな家を
建てようとするのか。
またどんな所がわが休み所となるのか」。

二 主は言われる、

「わが手はすべてこれらの物を造つた。
これらの物はことごとくわたしのものである。
しかし、わたしが顧みる人はこれである。
すなわち、へりくだつて心悔い、
わが言葉に恐れおののく者である。
三 牛をほふる者は、また人を殺す者、
小羊を犠牲とする者は、また犬をくぶり殺す者、
供え物をささげる者は、また豚の血をささげる者、
乳香を記念としてささげる者は、
また偶像をほめる者である。
これはおのが道を選び、
その心は憎むべきものを楽しむ。
四 わたしもまた彼らのために悩みを選び、
彼らの恐れるところのものを彼らに臨ませる。
これは、わたしが呼んだときに答える者なく、
わたしが語つたときに聞くことをせず、
わたしの目に悪い事を行い、

わたしの好まなかつた事を選んだからである」。

五 あなたがた、主の言葉に恐れおののく者よ、
主の言葉を聞け、

「あなたがたの兄弟たちはあなたがたを憎み、
あなたがたをわが名のために追い出して言った、
『願わくは主がその栄光をあらわして
われわれにあなたがたの喜びを見させよ』と。
しかし彼らは恥を受ける。」

六 聞けよ、町から起る騒ぎを。
宮から聞える声を。
主がその敵に報復される声を。

七 シオンは産みの苦しみをなす前に産み、
その苦しみの来ない前に男子を産んだ。
八 だれがこのような事を聞いたか、
だれがこのような事どもを見たか。

一つの国は一日の苦しみに生れるだろうか。
一つの国民はひと時に生れるだろうか。

しかし、シオンは産みの苦しみをするやいなや
その子らを産んだ。

九 わたしが出産に臨ませて
産ませないことがあるうか」と

主は言われる。

「わたしは産ませる者なのに
胎をとぎすであろうか」と
あなたの神は言われる。

一〇 すべてエルサレムを愛する者よ、
彼女と共に喜べ、彼女のゆえに楽しめ。
すべて彼女のために悲しむ者よ、
彼女と共に喜び楽しめ。

二 あなたがたは慰めを与えるエルサレムの乳ぶさから
乳を吸って飽くことができ、
またその豊かな栄えから
飲んで楽しむことができるからだ」。

三 主はこう言われる、
「見よ、わたしは川のように彼女に繁栄を与え、
みなぎる流れのように、もろもろの国の富を与える。
あなたがたは乳を飲み、腰に負われ、
ひざの上であやされる。」

四 母のその子を慰めるように、
わたしもあなたがたを慰める。
あなたがたはエルサレムで慰めを得る。

五 あなたがたは見て、心喜び、
あなたがたの骨は若草のように栄える。

主の手はそのしもべらと共にあり、その憤りはその敵にむかっていることを知る。

一五 見よ、主は火の中にあらわれて来られる。

その車はつむじ風のようだ。

激しい怒りをもってその憤りをもらし、

火の炎をもって責められる。

一六 主は火をもって、またつるぎをもって、

すべての人にさばきを行われる。

主に殺される者は多い。

一七 みずからを聖別し、みずからを清めて園に行き、その中にあるものに従い、豚の肉、憎むべき物およびねずみを食う者はみな共に絶えうせる」と主は言われる。

一八 わたしは彼らのわざと、彼らの思いを知っている。わたしは来て、すべての国民と、もろもろのやからとを集める。彼らは来て、わが栄光を見る。一九 わたしは彼らの中に一つのしるしを立てて、のがれた者をもろもろの国、すなわちタルシシ、よく弓をひくブトおよびルデ、トバル、ヤワン、またわが名声を聞かず、わが栄光

を見ない遠くの海沿いの国々につかわす。彼らはわが栄光をもろもろの国民の中に伝える。二〇 彼らはイスラエルの子らが清い器に供え物を盛って主の宮に携えて来るように、あなたがたの兄弟をことごとくもろもろの国の中から馬、車、かご、騾馬、らくだに乘せて、わが聖なる山エルサレムにこさせ、主の供え物とする」と主は言われる。二一 わたしはまた彼らの中から人を選んで祭司とし、レビびととする」と主は言われる。

二三 わたしが造ろうとする新しい天と、新しい地が

わたしの前にながくとどまるように、

あなたの子孫と、あなたの名は

ながくとどまる」と主は言われる。

二四 新月ごとに、安息日ごとに、

すべての人はわが前に来て礼拝する」と

主は言われる。

二五 彼らは出て、わたしにそむいた人々のしかばねを見る。そのうじは死なず、その火は消えることがない。彼らはすべての人に忌みきらわれる。